

# 中学校完全給食に関する議論の整理

## 【 資 料 編 】

平成20年10月

北九州市食育推進会議

# 目 次

1	食育基本法（抜粋）・食育推進基本計画（抜粋）・学校給食法（抜粋）・・・・・・・・・・	1
2	食育及び中学校給食に関する調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
3	全国・県内・政令指定都市の中学校完全給食実施状況・・・・・・・・・・	14
4	北九州市食育推進会議 他都市視察概要・・・・・・・・・・・・・・・・	15
5	中学校完全給食の意義・課題等に関する各委員の意見整理・・・・・・・・	17
6	中学校完全給食モデル事業の検証関係資料	
(1)	中学校完全給食モデル事業実施概要・・・・・・・・・・・・・・・・	21
(2)	検証結果・・・・・・・・・・・・・・・・	23
(3)	検証に関する調査（アンケート調査）・・・・・・・・	40
(4)	北九州市食育推進会議のモデル実施状況視察における委員の主な意見・感想・・・	72
(5)	保護者試食会実施状況・・・・・・・・	86
(6)	給食費徴収状況・・・・・・・・	88
(7)	残食状況・・・・・・・・	89
(8)	地元産品使用状況・・・・・・・・	91
(9)	細菌検査結果・異物混入等発生状況・・・・・・・・	92
7	中学校完全給食の経費試算	
(1)	中学校完全給食本格実施に必要な経費試算・・・・・・・・	93
(2)	中学校完全給食モデル事業経費実績・・・・・・・・	97

## 食育基本法(抜粋)

二十一世紀における我が国の発展のためには、子どもたちが健全な心と身体を培い、未来や国際社会に向かって羽ばたくことができるようにするとともに、すべての国民が心身の健康を確保し、生涯にわたって生き生きと暮らすことができるようにすることが大切である。

子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である。今、改めて、食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進することが求められている。もとより、食育はあらゆる世代の国民に必要なものであるが、子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものである。

一方、社会経済情勢がめまぐるしく変化し、日々忙しい生活を送る中で、人々は、毎日の「食」の大切さを忘れがちである。国民の食生活においては、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、過度の痩身志向などの問題に加え、新たな「食」の安全上の問題や、「食」の海外への依存の問題が生じており、「食」に関する情報が社会に氾濫する中で、人々は、食生活の改善の面からも、「食」の安全の確保の面からも、自ら「食」のあり方を学ぶことが求められている。また、豊かな緑と水に恵まれた自然の下で先人からはぐくまれてきた、地域の多様性と豊かな味覚や文化の香りあふれる日本の「食」が失われる危機にある。

こうした「食」をめぐる環境の変化の中で、国民の「食」に関する考え方を育て、健全な食生活を実現することが求められるとともに、都市と農山漁村の共生・対流を進め、「食」に関する消費者と生産者との信頼関係を構築して、地域社会の活性化、豊かな食文化の継承及び発展、環境と調和のとれた食料の生産及び消費の推進並びに食料自給率の向上に寄与することが期待されている。

国民一人一人が「食」について改めて意識を高め、自然の恩恵や「食」に関わる人々の様々な活動への感謝の念や理解を深めつつ、「食」に関して信頼できる情報に基づく適切な判断を行う能力を身に付けることによって、心身の健康を増進する健全な食生活を実践するために、今こそ、家庭、学校、保育所、地域等を中心に、国民運動として、食育の推進に取り組んでいくことが、我々に課せられている課題である。さらに、食育の推進に関する我が国の取組が、海外との交流等を通じて食育に関して国際的に貢献することにつながることも期待される。

ここに、食育について、基本理念を明らかにしてその方向性を示し、国、地方公共団体及び国民の食育の推進に関する取組を総合的かつ計画的に推進するため、この法律を制定する。

(子どもの食育における保護者、教育関係者等の役割)

第五条 食育は、父母その他の保護者にあつては、家庭が食育において重要な役割を有していることを認識するとともに、子どもの教育、保育等を行う者にあつては、教育、保育等における食育の重要性を十分自覚し、積極的に子どもの食育の推進に関する活動に取り組むこととなるよう、行われなければならない。

(食に関する体験活動と食育推進活動の実践)

第六条 食育は、広く国民が家庭、学校、保育所、地域その他のあらゆる機会とあらゆる場所を利用して、食料の生産から消費等に至るまでの食に関する様々な体験活動を行うとともに、自ら食育の推進のための活動を実践することにより、食に関する理解を深めることを旨として、行われなければならない。

(地方公共団体の責務)

第十条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、食育の推進に関し、国との連携を図りつつ、その地方公共団体の区域の特性を行かした自主的な施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(食育推進基本計画)

第十六条 食育推進会議は、食育の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、食育推進基本計画を作成するものとする。

(市町村食育推進計画)

第十八条 市町村は、食育推進基本計画(都道府県食育推進計画が作成されているときは、食育推進基本計画及び都道府県食育推進計画)を基本として、当該市町村の区域内における食育の推進に関する施策についての計画(以下「市町村食育推進計画」という。)を作成するよう努めなければならない。

(学校、保育所等における食育の推進)

第二十条 国及び地方公共団体は、学校、保育所等において魅力ある食育の推進に関する活動を効果的に促進することにより子どもの健全な食生活の実現及び健全な心身の成長が図られるよう、学校、保育所等における食育の推進のための指針の作成に関する支援、食育の指導にふさわしい教職員の設置及び指導的立場にある者の食育の推進において果たすべき役割についての意識の啓発その他の食育に関する指導体制の整備、学校、保育所等又は地域の特色を生かした学校給食等の実施、教育の一環として行われる農場等における実習、食品の調理、食品廃棄物の再生利用等様々な体験活動を通じた子どもの食に関する理解の促進、過度の痩身又は肥満の心身の健康に及ぼす影響等についての知識の啓発その他必要な施策を講ずるものとする。

## 食育推進基本計画(抜粋)

### 学校、保育所等における食育の推進

#### (1) 現状と今後の方向性

子どもの食生活をめぐる問題が大きくなる中で、子どもの健全な育成に重要な役割を果たしている学校、保育所等は、その改善を進めていく場として大きな役割を担っており、学校や保育所等の関係者にはあらゆる機会とあらゆる場所を利用して、積極的に食育の推進に努めることが求められている。また、子どもが食の大切さや楽しみを実感することによって、家庭への良き波及効果をもたらすことも期待できる。このため、家庭や地域と連携しつつ、学校、保育所等において十分な食育がなされるよう、適切な取組を行うことが必要である。

#### (2) 取り組むべき施策

学校、保育所等において、魅力ある食育推進活動を行い、子どもの健全な食生活の実現と豊かな人間形成を図るため、国は以下の施策に取り組むとともに、地方公共団体等はその推進に努める。

##### (学校給食の充実)

子どもの望ましい食習慣の形成や食に関する理解の促進のため、学校給食の一層の普及や献立内容の充実を促進するとともに、各教科等においても学校給食が「生きた教材」としてさらに活用されるよう取り組むほか、栄養教諭を中心として、食物アレルギー等への対応を推進する。

(昭和29年6月3日 公布・施行)  
 最終改正(平成20年6月18日公布)  
 (平成21年4月 1日施行)

## 学 校 給 食 法 ( 抜 粹 )

最終改正(平成20年6月18日公布)  
 食育の観点から学校給食の目標等を改定

新	旧
<p>(この法律の目的)</p> <p>第一条 この法律は、学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童及び生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものであることにかんがみ、学校給食及び学校給食を活用した食に関する指導の実施に関し必要な事項を定め、もって学校給食の普及充実及び学校における食育の推進を図ることを目的とする。</p> <p>(学校給食の目標)</p> <p>第二条 学校給食を実施するに当たっては、義務教育諸学校における教育の目的を実現するために、次に掲げる目標が達成されるよう努めなければならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。</li> <li>2 日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。</li> <li>3 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。</li> <li>4 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。</li> <li>5 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。</li> <li>6 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。</li> <li>7 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。</li> </ol>	<p>(この法律の目的)</p> <p>第一条 この法律は、学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資し、かつ、国民の食生活の改善に寄与するものであることにかんがみ、学校給食の実施に関し必要な事項を定め、もって学校給食の普及充実を図ることを目的とする。</p> <p>(学校給食の目標)</p> <p>第二条 学校給食については、義務教育諸学校における教育の目的を実現するために、次の各号に掲げる目標の達成に努めなければならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 日常生活における食事について、正しい理解と望ましい習慣を養うこと。</li> <li>2 学校生活を豊かにし、明るい社交性を養うこと。</li> <li>3 食生活の合理化、栄養の改善及び健康の増進を図ること。</li> <li>4 食糧の生産、配分及び消費について、正しい理解に導くこと。</li> </ol>

# 食育及び中学校給食に関する調査

## 調査概要

### (1) 調査目的

北九州市食育推進会議において、北九州市における食育推進のための指針となる「北九州市食育推進計画」の策定及び、子どもの食育の観点から「中学校給食のあり方」について検討する上での基礎資料を得ることを目的とする。

### (2) 調査時期

平成 19 年 7 月中旬

### (3) 調査対象等

対象	対象者数	回収数	有効回答 (分析対象)	備考
市民	2,500 人	1,273 人	1,212 人	住民基本台帳より市内居住者(15 歳以上)を無作為に抽出し郵送
中学生	2,414 人	2,414 人	2,385 人	北九州市立の中学校 63 校全校を対象に、指定する学年のうち 1 クラスを任意抽出した。
保護者	2,414 人	2,192 人	2,185 人	調査対象である生徒の保護者を対象とした。
教員	932 人	898 人	898 人	北九州市立の中学校 63 校全校の管理職、クラス担任、養護、特別支援学級の教員を対象とした。

有効回答は、分析にあたって性別や年代等の無回答者を除いた数とした。

10 代(15～19 歳)の市民については、回答数が少なかったため今回の分析対象から除いた。

## 調査結果

### 1 食育に関する意識等について（対象：市民・中学生・保護者・教員）

#### 【分析結果】

##### 〈食育の関心度など〉

市民・保護者・教員のいずれも、食育に関心があるもの（「関心がある」+「どちらかと言えば関心がある」）の割合が約8～9割と高く、食品の選び方や調理についての知識がある（「十分にあると思う」+「ある程度あると思う」）と認識しているものの割合も高い。

ただし、市民について年代別にみると、食育に関心があるものの割合は、20～30代の男性では約70%にとどまっており、また、食品の選び方や調理についての知識があると認識しているものの割合も20～30代では男性で約52%、女性で約73%にとどまっている。

「食事バランスガイド」などの食生活の目安を参考にしているものの割合は市民・保護者・教員のいずれも低く、市民への調査では、特に若い世代ほど低い状況。

「食育に関心がある」と回答したものでも朝食を欠食するものや、栄養バランスのとれた食事への配慮が欠けているものがみられる。

中学生では、食育に関心があるものの割合は5割以下、食品の選び方や調理についての知識があると認識しているものの割合も約6割にとどまっている。

中学生を学年別にみると、食育の関心度等について、学年による意識の高まりはみられない。

##### 〈子どもの食育を進める上での重要事項〉

「子どもの食育を進める上での重要事項」に関して、調査対象者全体（市民・保護者・教員）についてみると、「栄養バランスや食事の大切さを教えること」「規則正しい食習慣を確立すること」「自然の恩恵や食事を作ってくれる人への感謝の気持ちを育むこと」「食事マナーを身につけること」が高い割合を示した。

#### 【今後の課題】

中学生では、食を大切にすることを高め、食に関する知識を身につけるとともに、食を選択する力や調理技術を身につけ、実践へ結びつけていくような取組みが課題。

20～30代についても、特に男性において、食に対する関心が低く、また、40～50代は、食に対する意識が高まるものの、必ずしも実際の食生活において実践されている状況ではなく、今後、いかに実践に繋げていくかが課題

60代以上については、食の関心が比較的高く、他の世代と比べ健全な食生活となっているが、より質の高い食生活を過ごせるようにすることが重要となる。



## 2 食習慣について (市民・中学生)

### 【 分析結果 】

#### 《欠食の状況》

朝食を「毎日食べている」ものは、中学生で約 77% (男子 78.2%、女子 75.6%)、20～30 代では約 69% (男性 62.8%、女性 71.2%)にとどまり、欠食するものの割合が最も高い。また、40～50 代では約 82% (男性 72.7%、女性 85.8%)で、男性において欠食するものの割合が高く、60 代以上では 92% (男性 89.8%、女性 93.8%)と各世代で朝食の欠食がみられた。

朝食を欠食する理由としては、中学生から50代までの各世代で「食べる時間がないから」が最も多く、また、朝食の欠食だけでなく、昼食や夕食でも欠食しているものが各世代でみられた。

#### 《栄養バランスへの配慮》

主食(ごはんや食パンなど)、主菜(肉、魚、卵、大豆製品など)、副菜(野菜、いも、海藻など)について、各世代で栄養バランスへの配慮が十分とは言えない状況。

#### 《孤食・共食の状況》

「孤食」の状況を見ると、中学生では、学年が上がるにつれて「一人で食べる」割合が高くなり、中学3年生では、朝食で約4割、夕食で約1割が孤食。20～50代では、女性に比べ男性の孤食の割合が高く、男性は朝食で3割強、夕食で1割強となっており、60代以降では、男女とも少なくなっている。

「共食」の状況を見ると、「家族全員で」の食事は、中学生では、朝食で1割程度、夕食でも4割程度にとどまっている。20～50代では、朝食で3割程度、夕食で5割程度にとどまっており、60代以上では男性で約6割、女性で約7割と高くなっている。

#### 《日頃の食習慣》

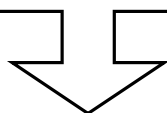
中学生の食事の様子として、「家族と話しながら食事をとっている」という回答した生徒が約8割ある一方、「テレビや本を見ながら食べている」との回答も約8割みられた。

「栄養バランスに配慮した食事を心がけている」かどうかについて「いつもしている」と回答したものは、中学生で約20% (男子 21.6%、女子 18.7%)にとどまり、20～30代では約32% (男性 23.4%、女性 36.3%)、40～50代では約38% (男性 28.0%、女性 43.4%)、60代以上では約55% (男性 46.2%、女性 61.9%)と年代があがるにつれて意識の高まりがみられた。

その他、「産地や賞味期限、原材料、添加物などの表示を確認している」「旬のものを食べるようにしている」「和食中心の食事をしている」などの各項目で年代があがるにつれて「いつもしている」という割合が高くなり、食に対する意識の高まりがみられた。

#### 《朝食の欠食と食習慣》

朝食の欠食と食育に対する意識や他の食習慣との関連をみると、朝食を欠食するものは、食育に対する意識も低く、昼食や夕食においても栄養バランスが十分ではないなど、食習慣が乱れている状況にある。



## 【 今後の課題 】

朝食は、1日のスタートとして脳に必要なエネルギーを補給し、働きを活発にするために重要なものであるが、各世代で朝食の欠食がみられる現状を踏まえ、朝食の欠食をなくすための取組みは重要な課題である。

とりわけ、中学生については、心身ともに大きく発達する時期であり、また、朝食の欠食による体調や学習態度への影響（後述）を考えれば、朝食の欠食を無くすことは極めて重要な課題であり、家庭に対する啓発を図っていく必要がある。

また、中学生は食に関して自立していく段階であり、中学生自身が食の大切さに対する認識をさらに深め、健全な食生活を自ら実践できるように取り組むことが重要である。

20～30代は、進学や就職等で家庭から自立し、食生活について自己管理が求められるとともに、子育てに関しては、子どもの食習慣の形成に大きな影響を与える時期である。その一方、アンケート結果では食の乱れが大きくなっており、あらゆる機会を通して、この世代の食に対する意識を高め、欠食の改善をはじめ、バランスのとれた食事など健全な食生活が実践されるよう取り組む必要がある。

40～50代については、食への関心の高まりはみられるものの、実際の食生活の面では必ずしも実践できておらず、特に男性において食生活の乱れがみられ、食事バランスガイド等の普及など栄養バランスに配慮した食事に対する意識を高めることが重要。また、自分自身の健全な食生活の実践はもとより、「親から子へ食を繋ぐ」という観点から、子どもの食の自立にも目を向けた食生活が求められる。

60代以上については、他の世代と比べ食に対する意識も高く、健全な食生活となっている。これは、退職等に伴い時間的な余裕が生まれたことや高齢期を迎えて健康への関心が高まっていることも要因として考えられるが、それだけでなく、60代以降の世代は「食べること=生きること」を肌で感じて育った世代であり、必ずしも現在の若い世代が将来、同様に食生活の質が高まると捉えることはできない。そのため、60代以上の世代がこれまで培ってきた食に関する知識や技術をいかに次の世代に伝承していくか、その仕組みを構築することが重要。

一方、高齢になるにしたがって、一人暮らしの場合に食生活が乱れやすくなることや、消化吸収能力の低下、歯の喪失や咀嚼力、嚥下機能の低下に伴い、食欲の低下や食事の偏りが起こり、低栄養状態に陥りやすくなること等にも十分に留意する必要がある。

今回の調査では、20～50代を通して、家族揃っての食事をすることが少なくなっており、あらためて家庭における食育の場として、家族で食卓を囲んでの食事をすることの大切さを認識する必要がある。

中学生に対する調査では「テレビや本をみながら食べている」という者が多くみられることに象徴されるように、食を通じた家族のコミュニケーションや食に対する感謝の気持ちが十分に育まれていない状況が推察される。

今後、食育を推進するにあたっては、「食を楽しむ心」を育むことや、「食を通じた人と人との関係づくり」、「自然の恩恵や食に対する感謝の気持ち」を育むなど、より「質の高い、豊かな食生活の実践」という観点からの取組みが重要であり、その際に、家庭においてもTVやインターネット等について一定のルールを決める等、食を中心とした生活習慣の確立が求められる。

### 3 中学生の生活習慣(生活リズムと睡眠時間)について(対象:中学生)

#### 【 分析結果 】

##### 《就寝時刻》

就寝時刻をみると、部活動等の「ない日」でも、夜型の生活が定着しているものが多くみられた。各学年とも男子に比べ女子の方が就寝時刻が遅くなっており、また、学年が上がるにつれて就寝時刻が遅いものが多くみられた。(部活動等の「ない日」で23時台以降に就寝する生徒が男子で58.9%、女子では70.0%みられ、午前0時以降でも男子で23.8%、女子で33.4%を占めていた。)

##### 《起床時刻》

起床時刻が7時以降のものは男子62.5%、女子54.3%で、学年があがるにつれて起床時刻が遅くなっていった。

##### 《睡眠時間》

睡眠時間が7時間未満のものが、部活動や塾、習い事の「ない日」では、男子で14.6%、女子で24.9%みられた。また、塾等の「ある日」ではこの数値がより高くなっていった。

平均睡眠時間をみると、塾等が「ない日」では男子で7時間56分、女子では7時間30分で、塾等が「ある日」では、男子で7時間36分、女子で7時間13分。特に、3年生の女子では、塾等の「ある日」で6時間50分と睡眠時間が短くなっていった。

##### 《朝起きた時の状況と朝食の欠食等》

「朝スッキリ目がさめる」ことが「よくある」と回答したものは、男子13.0%、女子11.6%にとどまっており、夜型生活が1日のスタートに影響を与えている状況。特に女子では、学年があがるにつれて「あまりない」又は「まったくない」というものが増えてきている。

朝起きて朝食を食べるまでの時間は、「5分以内」が男子29.2%、女子19.9%で、「10分以内」まで含めると男子で67.6%、女子で57.5%を占め、朝食を食べているものでも時間的なゆとりのない状態がみられる。

朝食を欠食する理由(P9参照)で「食べる時間がないから」が最も多く、朝食と睡眠時間との関連をみると、欠食するものの方が就寝時刻が遅く、また、睡眠時間も短く、睡眠不足が朝食の欠食の要因となっている。

「食欲がないから」「お腹がすかないから」という理由で朝食を欠食するものも多く、夕食の時間が遅いことや、起床時間が遅いことなどから、空腹感が持てない状況がみられる。

#### 【 今後の課題 】

夜型の生活リズムで睡眠時間が不十分なことが、朝食欠食などの要因となっており、食習慣の改善と併せて生活リズムの改善を行うことが大きな課題。

遅い時間帯での食事や起床時間が遅いことが空腹感を持てない要因と考えられ、一日の生活リズムを食を中心として再構築していく必要がある。

特に女子において生活リズムの乱れが大きくなっている点を留意し、取り組む必要がある。

## 4 中学生の体調について（対象：中学生・保護者・教員）

### 【分析結果】

#### 《体調の不調》

「疲れやすい」「体がだるい」「体がきつい」といった体の不調や「イライラする」「むしゃくしゃする」といった情緒面での不安を訴える生徒が多くみられ、特に女子では学年があがるにつれて不調を訴える生徒の割合が高くなっていった。

心理的な不安定さは思春期の特徴ではあるが、身体的に「おなかの調子が悪い」という状況まで訴えている生徒も約4割（「よくある」＋「時々ある」）みられた。

全体的に保護者の認識以上に、子どもが不調を訴える割合が高くなっていった。

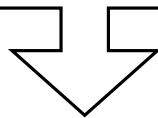
学校での1時間目の体調や気持ちについて、「元気」「おもしろい」「頭がスッキリしている」などの良好な状態に対する割合は低く、「ねむたい」「だるい」「きつい」といった不調な状態に対する割合が高かった。女子においては、学年があがるにつれて良好な状態に対する回答は減少していた。

教員からみても、生徒の朝の様子について、「眠そうにしている」「きつそうにしている」「頭がぼーっとしている」などの好ましくない状況の生徒が多くみられる。

#### 《朝食の欠食・睡眠時間と体調との関連》

朝食の欠食と体調との関連をみると、各項目において、朝食を欠食するものの方が体調面で不調となっている。

睡眠時間と体調との関連をみると、「疲れやすい」「体がだるい」「体がきつい」の各項目で睡眠時間が8時間台のものが最も不調を訴える割合が低くなっていった。



### 【今後の課題】

食生活の乱れが体調へも影響している状況を踏まえ、メンタルヘルスの視点も踏まえた食育の取り組みが必要

特に女子では、学年があがるにつれて、体調等の不調を訴える割合が高くなっているが、今後の、妊娠・出産・子育てへと繋がるライフステージの視点も踏まえて、食生活と心身の健康との関係について認識を深めていくよう取り組む必要がある。

## 5 中学生の体型に対する認識について (対象:中学生)

### 【 分析結果 】

#### 《現在の体型の認識》

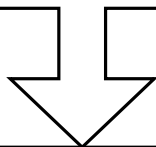
現在の自分の体型を「普通」と思っている生徒は男子で 35.9%、女子で 32.5%にとどまり、「太っている」又は「やや太っている」と思っているものが男子では 24.6%、女子では 47.1%で、特に、女子において自分の体型を「太っている」と思っているものが多くみられた。

#### 《痩身志向》

「痩せたいと思ったことがあるか」という設問に対し、「はい」と回答したものは、男子では 32.7%、女子では 77.0%を占めており、痩身志向が男子でもみられるが、女子において特に強い状況にある。また、女子では学年があがるにつれて「はい」と回答したものの割合が高くなっており、3年生では 86.0%を占めていた。

#### 《適正体重への認識》

一方、「あなたにとって、健康上一番いい体重はどのくらいだと思うか」という設問に対し、男女とも約半数が「わからない」と回答していた。



### 【 今後の課題 】

自分の健康上適正な体重について認識していないものが多く、痩身志向がみられることから、生徒自身が、自分にとって望ましい体重についての認識を深めるよう取り組む必要がある。

肥満や痩せの体型の変化は、心の問題を含め、将来にわたって心身に深刻な影響を及ぼす可能性もあることから、生徒自身だけでなく家庭や学校、地域において早期に子どもの変化に気付くことの出来るよう取り組む必要がある。

特に、女子においては痩身志向が多くみられ、食生活の改善と併せて、健康上適正な体重についての認識を深めていく必要がある。

## 6 地産地消について（対象：市民・保護者・教員）

### 【分析結果】

市内産又は県内産を買うようにしているもの（「いつも買っている」＋「できるだけ買うようにしている」）は、調査対象全体（市民・保護者・教員）で約7割と高く、地元産品に対する購買意欲は高い。

これを市民の年代別にみると、20～30代では約59%（男性50.0%、女性63.7%）、40～50代では約79%（男性67.8%、女性83.5%）、60代以上では約90%（男性86.9%、女性93.0%）と年代があがるにつれて高くなっている。

一方、地元農林水産物の購買では、地元農林水産業の振興を意識している市民は少ない。また、子どもの食育を推進していく上での重要事項（P6参照）として、「地産地消や北九州市内の農林水産業について教えること」への関心が低い。

### 【今後の課題】

地産地消の推進にあたって、特に若い世代の意識向上に取り組む必要がある。

食育を進めるにあたっては、地元農林水産物の購入だけでなく、地元の農林水産業への関心をより高めていく必要がある。

地産地消の推進にあたっては、市民がより身近に地元の農林水産物を感じとれる機会を充実させることが不可欠となるが、特に子どもの食育を進める上では、発達段階に応じて様々な体験活動が出来るよう、学校や家庭、地域の連携・協力のもと体験活動の充実を図る必要がある。

## 7 中学校給食に関する意向について（対象：市民・中学生・保護者・教員）

### 【分析結果】

#### 《中学校給食の必要性について》

中学校給食の必要性については、調査対象全体（市民・保護者・生徒・教員）で、「必要」が約 53%、「必要ない」が約 28%、「わからない」が約 17%。また、市民と保護者では、約 7 割が「必要」、教員では約 7 割が「必要ない」、生徒では「必要」「必要ない」「わからない」がそれぞれ約 3 割で、今回のアンケート調査では、中学校給食に対する評価がわかれている状況。市民の年代別にみると、「必要」と回答した割合は、20～30 代が最も高く、年代があがるにつれて低くなっているが、60 代以上でも男性で 68%、女性で約 65%を占めている。

「必要」と回答した人の理由（複数回答）を調査対象別（市民・保護者・生徒・教員）でみると、各対象で約 9 割が「バランスよく栄養がとれるから」と回答し、最も高い割合を示したほか、「弁当づくりの負担が軽減されるから」が約 5 割となっている。また、「市民」と「教員」では、「望ましい食習慣が身につくから」が約 5 割、「保護者」では「衛生面などで安心だから」が約 6 割と高くなっていた。

「必要ない」と回答した人の理由（複数回答）を調査対象別にみると、市民・保護者・教員のいずれも「給食費滞納の問題が発生するから」と回答したものの割合が高く（市民...約 69%、保護者...約 63%、教員...約 66%）、また、「市民」と「教員」では「弁当づくりは家庭の重要な役割であり、親子の会話の機会が減るから」が 6 割を超え、高い割合を示した（「保護者」では約 4 割）。そのほか、「保護者」では「今の弁当などを持っていく方法がよいから」が約 44%、「教員」では「部活動の時間などに影響する可能性があるから」が 42%となっている。また、生徒への設問では、「食べ残しがでるから」が約 68%と高く、次に「今の弁当を持っていく方法がよいから」が約 47%となっている。

#### 《「家庭からの弁当」と「学校給食」の併用について》

「家庭からの弁当」と「学校給食」の併用に関しては、生徒では、「弁当と給食を選択して食べたい」が約 44%で最も多く、「毎日、給食が食べたい」は約 11%にとどまっている。一方、保護者では、「毎日、給食を食べさせたい」が約 52%で最も多くなっている。

#### 《家庭からの弁当の持参状況と学校の昼食に食べたいもの》

生徒の約 86%が、ほぼ毎日（「毎日」+「週 4 日」）弁当を持ってきており、また、「学校の昼食に食べたいもの」としては、「家で作った弁当」が約 47%を占め、「小学校のような給食」は約 19%にとどまっている。

### 【今後の課題】

中学校給食に対する意向や、今回の調査において中学生の食習慣の乱れが浮き彫りになり、体調面へも影響している状況を踏まえて、食育の効果と実施上の課題について十分に検証する必要がある。

# 全国・県内・政令指定都市の中学校完全給食実施状況

## 1 全国（公立）

文部科学省学校給食実施状況調査（各年5月1日）

区 分	平 15 年度	平 16 年度	平 17 年度	平 18 年度
全校数	10,284	10,324	10,180	10,129
実施校数	8,045	8,112	8,086	8,089
実施率	<b>78.2%</b>	<b>78.6%</b>	<b>79.4%</b>	<b>79.9%</b>

## 2 福岡県（公立）

福岡県学校給食基本調査（各年5月1日）

区 分	平 16 年度	平 17 年度	平 18 年度	平 19 年度
全校数	349	349	346	346
実施校数	195	202	207	213
実施率	<b>55.9%</b>	<b>57.9%</b>	<b>59.8%</b>	<b>61.6%</b>

平成 19 年 5 月 1 日現在

区 分	市町村数	市町村名
完全給食	50	福岡市、久留米市、飯塚市、行橋市、豊前市、宗像市、芦屋町、岡垣町、遠賀町、苅田町 等
ミルク給食	16	北九州市、大牟田市、直方市、田川市、中間市、水巻町 等

## 3 政令指定都市（公立）

平成 19 年 5 月 1 日現在

給食区分・主方式	都市名	学校数	方式別実施学校数				完全給食導入時期
			自 校	センター	親 子	民間調理場	
完全給食 (11市)	自校方式	さいたま	57	47	8	2	S45
		浜 松	48	36	12		H4
	センター方式	仙 台	63	12	50	1	S42
		千 葉	56		56		S42
		静 岡	42	1	28	1	S48
	親子方式	福 岡	69	4	65		S48
		札 幌	98	19		79	S36
	民間調理場方式	新 潟	57	8	20	1	S24
		名古屋	110	3	3		H8
		京 都	74	3			H13
広 島		64	5	13	3	H9	
ミルク給食 (3市)	川 崎	51					
	神 戸	85					
	北九州	63					
未実施 (3市)	横 浜	146					
	大 阪	130					
	堺	43					



## 北九州市食育推進会議 他都市視察概要

都市名	視察日程等	給食の食育効果	家庭への食育の働きかけ	生徒指導上の問題
広島市 (弁当方式)	日程 7月5日 参加者 委員11名 事務局4名	栄養バランスの 取れた食事の提 供。	献立表等の家庭配布物 を通じて食育に関する情 報提供。	給食へのいたずら等 の問題となる事例は見ら れない。
高松市 (親子方式)	日程 7月6日 参加者 委員9名 事務局3名	栄養バランスの 取れた食事の提 供。 望ましい食習慣 の形成(生徒が嫌 いなものも献立に 取り入れることで、 嫌いなものも食べ る習慣をつける)	献立表等の家庭配布物 を通じて食育に関する情 報提供。	給食へのいたずら等 の問題となる事例は見ら れない。
浜松市 (自校方式)	日程 7月12日 参加者 委員7名 事務局4名	望ましい食習慣 の形成。	献立表等の家庭配布物 を通じて食育に関する情 報提供。	学校によっては、生徒 間のトラブルは発生。
千葉市 (センター方 式)	日程 7月13日 参加者 委員7名 事務局4名	栄養バランスの 取れた食事の提 供。 望ましい食習慣 の形成	献立表等の家庭配布物 を通じて食育に関する情 報提供。	学校によっては、生徒 間のトラブルは発生。

## 北九州市食育推進会議 他都市視察概要

都市名	給食費滞納の問題	食事量、嗜好の問題	教育活動への影響	その他
広島市 (弁当方式)	給食費滞納者については、弁当を持ってきてもらう。	残食が多く、改善策(指導等)が検討課題。 生徒は量については6割が「ちょうどよい」、味については5割が「おいしい・ふつう」と回答。 (米飯の量については生徒間で調整) 保護者からは味について良い評価を得ている。 献立は小学校と違う内容としている。 アレルギー対応はしていない。	給食導入に伴う時間割の繰下げは生じていない。 週のうち1日は5校時(他は6校時)とし、職員会議及び部活動の時間を確保。  (参考:時間割) ・朝学活 8:30 開始 ・給食 12:40～13:00 ・昼休 13:00～13:20 ・終学活 15:55 終了	保護者及び教員からの評価は良好で、給食は定着している。 給食と弁当の混在による生徒間のトラブルは生じていない。
高松市 (親子方式)	給食費滞納者への催促等を行うが、未然の防止策は講じていない。	食に関する指導を行い、残食は減ってきている。 生徒から味、量について、改善を要する意見は聞かれない。(量については、生徒間で調整) 献立は基本的に小学校と同一だが、中学校には1品を追加し、差別化を図っている。 アレルギー対応は学校毎にしており、統一的ではない。	給食導入に伴う時間割の繰下げは生じた。 週のうち1日は5校時(他は6校時)とし、職員会議及び部活動の時間を確保。  (参考:時間割) ・朝学活 8:10 開始 ・給食 12:25～13:00 (清掃) ・昼休 13:15～13:35 ・終学活 15:45 終了	保護者及び教員、生徒からの評価は良好で、給食は定着している。 皆で食事を揃って食べることで、荒れた学校を落ち着かせる効果があった。
浜松市 (自校方式)	給食費滞納者への催促等を行うが、未然の防止策は講じていない。 学校によっては、給食費滞納者については、弁当を持ってきてもらう措置を講じた例もある。	食に関する指導により、残食は少ない。 生徒から味、量について、改善を要する意見は聞かれない。(量については、生徒間で調整) 献立は小学校と違う内容としている。 アレルギー対応は学校毎にしており、統一的ではない。	週のうち2日は5校時(他は6校時)とし、職員会議及び部活動の時間を確保。  (参考:時間割) ・朝学活 8:00 開始 ・給食 12:20～12:50 ・昼休 12:50～13:15 ・終学活 15:50 終了	保護者及び教員、生徒からの評価は良好で、給食は定着している。
千葉市 (センター方式)	給食費滞納者への催促等を行うが、未然の防止策は講じていない。	小学校より残食は多い。 生徒から味について、小学校より美味しくないという意見もあり、改善に取り組んでいる。(量については、生徒間で調整) 献立は小学校と違う内容としている。 アレルギー対応はしていない。	週のうち2日は5校時(他は6校時)とし、職員会議及び部活動の時間を確保。  (参考:時間割) ・朝学活 8:10 開始 ・給食 12:30～13:00 ・昼休 13:00～13:30 ・終学活 16:00 終了	保護者及び生徒からの評価は良好で、給食は定着している。 教員の立場からは、滞納整理が課題。

中学校完全給食の意義・課題等に関する各委員の意見整理

第4回北九州市食育推進会議（平成19年7月26日）

中学校完全給食の意義等に関する意見

項目	委員からの主な意見
1 栄養バランスのとれた食事、安心な食事	<p>朝食を欠食する生徒の問題がある。</p> <p>中学生では、体の大きさも違うし、食べる量も違う。スポーツをする子としない子の違いもあり、栄養面でも違ってくるがそれを同じにしてよいのか疑問。幼稚園から小学校までは、きちんとした給食を摂っていて健康に育ってきている。中学・高校は給食がないので、そこがすっぽり抜けてしまいバランスのよい食事を食べていないことが高齢者に響いてきている。高齢者に骨粗しょう症がかなり沢山いる。中学、高校という一番骨のできる時期にバランス良く食べていない。それが年をとって食生活に響いてきている。中学生ぐらいからの食生活が大人の疾病に響いているのであろう。</p> <p>どうしても時間的な制約があるので、加工食品や冷凍食品に頼ってしまうのは、絶対にそれはしてしまふ。そうであれば、北九州市の地場の食材を使った給食を是非提供していただきたい、産地の分かったものを子どもたちに食べさせてあげたいという意見があった。</p> <p>欠食が問題だというのが、ほとんどの子供たちは食べているが、肥満とか生活習慣病の問題がある。一番の問題は子どもたちの生活リズムがくずれていることが問題</p>
2 食習慣（偏食や食事マナー）	<p>6歳までの食習慣が根付いているから、それから矯正するというのは大変難しいし、学校の教育の中でどれだけ出来るかというのは難しいところがある。</p> <p>中学校現場の中でみると偏った食事というか、ちょっと食事やライフスタイルなんかでも心配するような子達もいる。</p> <p>家庭の弁当では好き嫌いがさらに広がる。野菜を食べる量も家庭で野菜を買う量も本当に減ってきている。</p> <p>幼児期においては、味覚の形成期にあると思ひ給食弁当にした。幼児期にいろいなる味を味わう経験がないと好き嫌いが形成されたり、嫌なものを一生食べないという子もいる。</p> <p>（現在のミルク給食も）学校給食の目標にあるように、食生活の習慣が身につき、班で食べるなど社会性も磨かれ学校生活は楽しいものとなっている。</p> <p>小学校では給食しているのに、肥満が多いではないか、偏りが多いではないかと、では中学校で給食をしたら良くなるのかという論議にならないと思う。</p>
3 生徒の協調性・協同など	<p>同じ集団の人が同じ食事を明るく楽しくおいしく一緒に食べるということは体にも心にも良い効果をもたらしてくれる。</p> <p>平等という立場で考えても、みんなが同じものを協力して準備して食べるということは、今の子どもたちにとって、とても大切なことであり、経験させるべきことだと考える。</p> <p>班で食事をするというのはとても大切なことだし、そこでいろいろと交流が生まれてくると思うし、中学生だからその場でいろいろトラブルも起こる。そのたびにトラブルを解決していく力を得ていく。</p>

<p>4 学校と家庭の役割 など</p>	<p>現在の学校給食は単なる栄養改善のためだけでなく、食と栄養と健康に備えて基礎知識を持ちながら、学校と家庭とを通して、親と子が一緒になって正しい食生活習慣を身に付けてもらいたい。</p> <p>朝の弁当づくりがあるために、家庭の朝食の内容も充実する。今頑張っている母親のレベルを落とす必要はないのでは。</p> <p>弁当作りが一定の役割を果たしてきた家庭の教育力への影響が懸念される。できているのに80%を崩して、そして完全給食をやったその功罪というのはいかなものかと思う。</p> <p>保護者の気持ちが本当に給食を望んでいるのかな、という気持ちがある。現在80%が弁当で、親子の会話をしながら家庭の教育力という部分で家庭がしっかり頑張っている。</p> <p>全国的には、きちんと栄養管理をしながら子どもの食を守る家庭とそうでない家庭に2極化していると言われている。日々忙しい状況で、家庭形態、家族形態も随分変わってきている。</p> <p>家庭の重要な役割があるということで取り組みの強化が必要だろうと、ただ、どこで誰がどういう風に言うかというのは、学校だけではなくて、地域、行政、民生児童員とか町内会長とかやはりいべき人がたくさんいると思う。</p>
<p>5 親子のコミュニケーション</p>	<p>子どもたちが親のつくるお弁当を非常に楽しみにしているという親子のコミュニケーションの問題がある。</p> <p>子育ての実態をみても、給食によって親子のコミュニケーションが消えるということではないと思っている。</p> <p>家庭と学校の連携のあり方ということで、やはり絆、コミュニケーションが大切。</p>
<p>6 子育て支援</p>	<p>母親にとって中学校給食がなく、お弁当を作るのはかなりの負担になっている。</p> <p>これだけ少子化になっている時に女性も働かざるを得ない状況になっている。安心して子育てができるためにという話があったが、(栄養バランスなどを含めて)親たちもわからないことをたくさん抱えている。</p>
<p>7 その他</p>	<p>地元農産物のさらなる利用が必要</p> <p>新鮮な地元食材の活用、郷土食の伝承</p> <p>親子の弁当を喜んで作ってやれるような家庭にあるのか、共働きやいろんな状況があって、それが非常に困難で朝食べないで駆けつけてくるような子どもが多いのか、そのあたりの実態をつかんでみたい。</p>

中学校完全給食の実施上の課題に関する意見

項目	委員からの主な意見
1 嗜好の違い、残食の問題	<p>食事量、嗜好の違い等への対応ということで、35キ口の生徒と120キ口の生徒が中学校にいて、食事量が全く違う。それから、アレルギーの対応が必要。</p>
2 教育活動への影響等	<p>学校給食の実施に伴い、生徒指導や部活動に充てていた時間を給食に割かなければならない。</p> <p>学校給食を実施した場合、時間が別にかかるため、部活時間や下校時間が繰り下がることにより帰宅時間も遅くなる。今の子どもは学校から帰っても塾に行ったり、学校以外のスポーツクラブ等でも活動しており、それぞれに次のスケジュールが決まっているので、給食によってそれが繰り下がり、生活リズムの面で問題がでてくるのではないかと心配。</p> <p>時間的なものは工夫をすればできるだろうと思う。</p> <p>職員は4時から5時15分までの間に、学校の中に会議の数が20くらいある。学年会議、職員会議、企画委員会とか特別支援会議とか様々な会議があって、5時15分までに終わらないこともある。完全給食をして30分40分下がった場合に、もう5時になって会議ができなくなる。だから、部活動をもうやめましょうという教員もいる。</p> <p>会議を減らしていく方法でもできるのではないかなと思う。方法論のことについては、いろんな委員の方々のアイデアがあると思う。でも少なくとも人的保障、財政的保障というのは絶対必要だと思う。</p> <p>北九州は30コマの授業をしているけれど、自治体によっては28コマと授業をカットしてやっている。2時間分50分か、100分を1日20分帯状にとっているわけですね。そんなことできるのかなと思っている。</p> <p>教員の勤務時間の問題、休憩時間をどう確保するか。</p> <p>他都市ではできているのではないかとこの辺りであれば、他都市並みに教育課程を組んでいただきたい。1週間に2時間カットしている。</p>
3 滞納の問題	<p>未納の問題は学校現場で深刻な問題であり、学校現場に迷惑をかけない仕組みが必要</p> <p>未納の問題は社会問題となっている。経済的な問題がある場合もあるが、そうでない場合もあり現場では未納者の対応に困っている。</p> <p>完全給食した場合に、中学校の方が滞納の件数が多いですから、小学校の260万という額よりも、もっと増えると思う。その倍くらい増えると思う。では、教師が取り立てに行かなくてはいけないのかというこの辺も非常に痛い問題。</p>
4 生徒指導上の問題（教員の負担）	<p>現在はミルク給食を実施しているが、牛乳を投げつけたり等があり見守りが必要。</p> <p>生徒指導上の問題がある。配膳等に関し、いじめ、給食へのいたずら等のトラブルが予想される。</p>
5 経費の問題	<p>完全給食にした場合に莫大な費用がかかる。むしろ現場としては例えば教員増とか、部活動の振興とか、いじめ問題の対策とかいったことに充てていただきたいという思いはある。</p>

6 その他	<p>栄養士の充実が必要</p> <p>食育が大事といいながら各中学校に家庭科の先生がいないという実態もある。財政上の問題、もっと優先順位があると考えている。人的配置とかいじめ防止のためとか特別支援とかいろいろあると思う。</p> <p>学校によっては食器置き場とか調理場がとれない。自校方式、弁当方式どの方式になるか分からないが、そういうスペースがない。</p> <p>完全給食にした場合にこの売店の方の死活問題に関わってくる。</p> <p>給食問題をクリアしていくためには、まず人的保障、財政的な支援というのはとても大切</p>
-------	---

## 中学校完全給食モデル事業 実施概要

### 1 実施校

学校名	実施期間	方式	概要	調理
足立中学校 (小倉北)	平成 19 年度 3 学期 ~ 平成 20 年度 3 学期	民間調理場方式 (弁当箱配送)	民間事業者 の調理場で 調理し、弁当 箱で配送	ベストフーズ (株)
熊西中学校 (八幡西)				(株)のぼる
早鞆中学校 (門司)		民間調理場方式 (食缶配送)	民間事業者 の調理場で 調理し、保温 食缶で配送	(株)海老善屋
二島中学校 (若松)	平成 20 年度 1 学期 ~ 平成 20 年度 3 学期	親子方式	小学校の給 食室で調理 し、保温食缶 で配送	鴨生田小学校 (シダックス フードサービ ス(株))

親子方式の二島中学校について、給食調理を行う小学校は「鴨生田小学校」

### 2 給食対象者

全生徒への完全給食実施を原則とし、食物アレルギーにより全く給食を食べることができない等、特別の事情により弁当持参が必要な場合は、弁当持参を認める。

#### 完全給食実施数 (平成 20 年度 2 学期時点)

学校名	生徒数	完全給食実施数
足立中学校	3 7 2 人	3 3 5 人
熊西中学校	3 2 6 人	3 2 5 人
早鞆中学校	2 5 3 人	2 4 2 人
二島中学校	4 2 2 人	4 1 8 人

### 3 給食費

保護者が負担する給食費（食材費）については、「北九州市学校給食審議会」への諮問・答申を経て教育委員会で決定した。

#### (1) 完全給食費

4,500円(月額)

#### (2) ミルク給食費

モデル事業実施校で、弁当持参を希望する生徒はミルク給食を実施し、実施日数は完全給食と同日数とする。

700円(月額)

給食費は、校納金と合わせて年間10ヶ月(3月・4月除く)で徴収する。

### 5 献立

教育委員会で各方式別に献立を作成する。

### 6 食材調達

小学校給食と同様に(財)北九州市学校給食協会を通して食材調達を行う。

### 7 校時表

	足立中学校		熊西中学校		早鞆中学校		二島中学校	
	モデル	従前	モデル	従前	モデル	従前	モデル	従前
朝自習	8:30	8:30	8:35	8:35	8:30	8:30		8:30
	8:40	8:40	8:45	8:45	8:45	8:45		8:40
学級活動	8:40	8:40	8:45	8:45	8:45	8:45	8:30	8:40
	8:50	8:50	8:50	8:55	8:50	8:50	8:40	8:55
1校時	8:55	8:55	8:55	9:00	8:55	8:55	8:40	8:55
	9:45	9:45	9:45	9:50	9:45	9:45	9:30	9:45
給食	12:45	12:45	12:45	12:50	12:45	12:45	12:30	12:45
	13:05		13:10		13:20	13:10	13:05	
清掃					13:20	13:10		
					13:35	13:25		
昼休	13:05	13:30	13:10	13:35	13:35	13:25	13:05	13:30
	13:30		13:55		14:00	13:45	13:50	
学級活動	15:40	15:45	16:05	15:45	15:50	15:40	15:55	15:45
	15:50	16:00	16:15	15:55	16:10	16:00	16:05	16:00



## 中学校完全給食モデル事業 検証結果

食育推進会議では、モデル事業を通して、食育上の課題や実施上の課題などについて、以下の項目及び内容にそって検証した。

なお、各検証は、モデル実施校の保護者及び生徒、教員への「中学校完全給食モデル事業検証に関する調査」、本会議委員によるモデル実施校の視察（試食及びヒアリングを含む。）、モデル実施校の保護者試食会、残食率などの各種データの分析等により行った。

検証項目	検証内容
給食の実施状況	味、量
	給食時間
	給食資料（献立表等）の活用度
	配送状況
	給食費徴収状況
	地元産品使用状況
	衛生管理状況
	小学校給食への影響（親子方式）
食育上の効果	食育の意識
	生徒の食生活の状況（朝食等の状況、日頃の食習慣、親子のコミュニケーション）
	生徒の健康意識（体型への意識、日頃の体調）
	家庭の健康意識（家庭での生活リズム、家庭での食事作りの意識）
	学校と家庭・地域との連携・協力
教育活動への影響	生徒指導上の問題
	時間割の変更による影響
学校の実施体制	給食に伴う学校の実施体制

### 【中学校完全給食モデル事業検証に関する調査】

- ・モデル実施前実施（以下「モデル実施前アンケート」という。） 平成 19 年 12 月実施  
二島中学校（親子方式）は平成 20 年 2 月実施
- ・モデル実施中実施（以下「モデル実施中アンケート」という。） 平成 20 年 7 月実施

### 【食育推進会議視察】

- ・早鞆中学校〔民間調理場方式（食缶配送）〕 平成 20 年 3 月 19 日、平成 20 年 6 月 30 日
- ・足立中学校〔民間調理場方式（弁当箱配送）〕 平成 20 年 3 月 10 日、平成 20 年 6 月 24 日
- ・熊西中学校〔民間調理場方式（弁当箱配送）〕 平成 20 年 2 月 21 日、平成 20 年 6 月 4 日
- ・二島中学校〔親子方式〕 平成 20 年 7 月 11 日

### 【保護者試食会】

- ・早鞆中学校〔民間調理場方式（食缶配送）〕 平成 20 年 2 月 6 日
- ・足立中学校〔民間調理場方式（弁当箱配送）〕 平成 20 年 2 月 20 日
- ・熊西中学校〔民間調理場方式（弁当箱配送）〕 平成 20 年 2 月 7 日
- ・二島中学校〔親子方式〕 平成 20 年 6 月 19 日

## 1 給食の実施状況

### 給食の味、量

#### 検証内容

##### 〈モデル実施中アンケート〉

###### 給食の味

味について、生徒は、「おいしい」が約1割、「普通」が約3割、「おいしくない」が約6割となっている。

「おいしくない」の理由は、「味が薄い」が約6割で最も多く、次いで「嫌いなものが多い」が約5割となっている。

これらの理由以外に、弁当箱配送は「冷たい」が約5割と高い割合となっている。

###### 給食の量

量について、生徒は、パン（主食）は、「多い」が約5割、「ちょうどよい」が約3割、「少ない」が約2割となっている。特に、女子は「多い」の割合が約7割と高くなっている。

米飯（主食）は、「多い」が約4割、「ちょうどよい」が約4割、「少ない」が約2割となっている。特に、女子の「多い」の割合が約5割と高くなっている。

パン・米飯の1週間の適切な回数については、米飯を望む者が多いものの、求める回数については、ばらつきがある。

副食（おかず）は、「多い」が約3割、「ちょうどよい」が約3割、「少ない」が約4割となっている。特に女子の「多い」の割合が約5割と高くなっている。また、方式別では、弁当箱配送の方が「少ない」の割合が高くなっている。

##### 〈保護者試食会〉

味について、保護者は、「おいしい」が約2割、「普通」が約5割、「おいしくない」が約3割となっている。「おいしくない」の理由は、「味が薄い」が約6割となっている。

量について、保護者は、主食について、「多い」が約1割、「ちょうどよい」が約5割、「少ない」が約4割となっている。

副食について、「多い」が約1割、「ちょうどよい」が約4割、「少ない」が約5割となっている。

味や量に関する主な意見としては、味について、「おいしくないとは言えない」、「塩分は家庭でも気をつけたい」という意見があった一方で、「はっきりとした味付けが必要」という意見もあった。

量については、「ボリューム感がない」、「男子には足りない」、「食缶配送のように量の調節ができた方がよい」という意見があった。

### 《食育推進会議視察》

味については、「おいしくないとは言えない」、「薄味を覚えさせることが必要」という意見がある一方で、「食べなければ意味がなく、献立の工夫が必要」という意見もあった。

また、男女間や運動量の差によって量の調節ができる工夫の必要性、嫌いなものを残すことの問題点を指摘する意見もあった。

### 《残食の状況》

残食については、事業の進捗につれて、増加している傾向が見られる。

また、主食については、米飯よりもパンの方が、残食が多い傾向が見られる。

### 検 証

給食を「おいしくない」と感じていることや、嫌いなものを残している状況が、残食に繋がっているが、保護者試食会においては、「おいしくない」とした保護者は約3割にとどまり、生徒が「濃い味」に慣れてしまっている現状が伺える。

給食は「味が薄い」もしくは「嫌いなものが多い」と感じる生徒が多く、健康保持のため、薄味の習慣化や好き嫌いなく食べることの重要性を、生徒が十分に理解できていない現状からは、その必要性について、栄養士による巡回指導、学級担任による給食指導、献立表等の資料を通じて、生徒の理解を深めていく必要がある。

一方で、生徒が「おいしい」と感じる給食に近づけられるよう、献立・調理の工夫・改善にも努める必要がある。

量については、生徒間で求める量にばらつきがあることから、量の調節ができることが必要である。

## 給食時間

### 検証内容

#### 《モデル実施中アンケート》

給食時間の長さについて、生徒は、「長い」が約1割、「ちょうどよい」が約2割、「短い」が約6割となっており、「短い」と感じている生徒が多くなっている。

また、給食時間の楽しさについて、生徒は、「楽しい」が約6割、「楽しくない」が約4割となっており、「楽しい」理由は、「皆と会話が弾む」が約7割と最も多く、「楽しくない」理由は、「おいしくない」が約6割と最も多くなっている。

#### 《食育推進会議視察》

給食時間については、各モデル実施校の配膳作業の状況により、「短い」、「長い」、「適切」とそれぞれ意見があった。

また、「会話が弾むことで楽しい給食時間となり、時間がかかっている」という意見がある一方で、「給食を好ましく感じていない生徒が多く、給食時間が楽しい時間になっていない」、「楽しい給食時間の雰囲気作りには、学級担任の関わり方も大切なのではないか」という意見もあった。

### 検 証

給食時間については、配膳作業に時間を要するほか、「皆と会話が弾む」ことが「短い」と感じる要因になっている。

時間割の繰り下がりの影響を考慮しつつ、落ち着いて楽しく会食できる給食時間を確保する必要があるとともに、学級担任による楽しく会食する雰囲気作りに配慮した給食指導が必要である。

## 給食資料（献立表等）の活用度

### 検証内容

#### 《モデル実施中アンケート》

給食資料（献立表等）の活用度について、給食資料を「読む」は、生徒が約4割、保護者が約8割、教員が約7割となっており、特に生徒の関心が低い状況である。

また、給食資料の日頃の食生活への活用については、「参考にしている」は、生徒が約1割、保護者が約5割、教員が約3割となっており、日頃の食生活への活用度は、いずれも低い状況である。

#### 《食育推進会議視察》

給食資料（献立表等）の活用度については、主に、「生徒による給食時間中の校内放送などの取り組みを始めたモデル実施校もあるが、給食資料等を活用した給食指導までには至っていない」という意見があった。

### 検 証

給食資料（献立表等）の活用度は十分ではなく、モデル実施校の意見や他都市の資料も参考にしながら、授業や日頃の食生活への活用に資するよう、その内容の充実に努める必要がある。

## 給食の配送状況

### 検証内容

#### 《食育推進会議視察》

給食の配送状況については、主に、「給食時間の遅延等もなく順調に実施されている」という意見であった。

なお、各モデル実施校及び各受託業者からの報告においても、天候及び交通事情等による給食の配送の遅延は生じていない。

### 検 証

給食の配送については、天候及び交通事情等による配送の遅延等の問題は生じていない。

## 給食費の徴収状況

### 検証内容

給食費の徴収状況については、平成19年度3学期末と平成20年度1学期末の比較で、未納者及び未納額の増加が見られたが、モデル事業の実施に伴う長期未納は生じていない。

### 検 証

給食費の徴収状況については、モデル事業の実施に伴う長期未納は生じておらず、概ね順調である。

なお、給食費の未納対策に関しては、市教育委員会による学校への支援が不可欠である。

## 地元産品の使用状況

### 検証内容

地元産品の使用状況については、使用品目ベースで、平成19年度3学期が30%、平成20年度1学期までが40%となっており、平成19年度の小学校・特別支援学校の給食における使用率（使用品目ベース：34%）や、国の食育推進基本計画の目標値（都道府県単位で使用品目ベース：30%）を上回っている。

### 検 証

地元産品の使用状況については、40%（使用品目ベース）で、国の食育推進基本計画の目標値（都道府県単位で使用品目ベース：30%）を上回っており順調である。

地産地消の推進は、食育推進施策の一つであり、学校給食においても、食材を通じて地域の自然や文化、産業等への生徒の理解を深めるため、今後とも可能な限り農林水産物等の地元産品の使用拡大に努めていく必要がある。

## 衛生管理の状況

### 検証内容

#### 《細菌検査結果》

食中毒注意報の発令期間中に、各モデル実施校に配送された給食について、抜き取り細菌検査を実施（7月7日）したが、いずれのモデル実施校の給食についても、細菌は基準値を大幅に下回るものであった。

#### 《異物混入の発生状況》

異物混入の発生については、平成20年度1学期末において32件発生しており、内17件は毛髪、5件は虫、10件はビニール片等が混入しものであった。

異物の混入が全て給食の調理場で混入したものと断定することはできないが、明らかに調理作業の段階で混入したと考えられるものも見られた。

### 検 証

衛生管理の状況については、調理後の給食における細菌検査の結果において問題はなかったものの、毛髪等の異物混入が生じており、市教育委員会による給食調理業者への指導を保健所とも連携し、さらに徹底する必要がある。

## 小学校給食への影響（親子方式）

### 検証内容

#### 《食育推進会議視察》

親子方式においては、調理作業の工程として、中学校給食を調理・配送した後に小学校給食を加熱調理するため、作業スケジュールがタイトになっており、作業工程を工夫することの必要性や、中学校の学校行事に伴う給食時間の繰上げへの対応に苦慮している状況を指摘する意見があった。

### 検 証

親子方式の場合、小学校給食への影響については、最小限に抑える必要があり、他都市の実施状況も参考にしつつ、調理器具の有効活用や作業工程の工夫による作業の効率化を図る必要がある。



## 2 食育上の効果

### 食育の意識

#### 検証内容

##### 《モデル実施前アンケート・モデル実施中アンケート》

###### 食に関する意識

食に関する意識について、食育に関心がある者は、生徒がモデル実施前で約4割、モデル実施中で約2割、保護者がモデル実施前・実施中ともに約9割、教員がモデル実施前・実施中ともに約8割となっている。

###### 食に関する知識（食品の選び方や調理方法）

食に関する知識について、知識があると認識している者は、生徒がモデル実施前で約6割、モデル実施中で約5割、保護者がモデル実施前・実施中ともに約8割、教員がモデル実施前で約9割、モデル実施中で約8割となっている。

以上から、特に生徒の食に関する意識や知識の習得度が十分ではない状況となっている。

##### 《食育推進会議視察》

食育の意識については、「生徒に食育への関心が自然に身についてきている」という意見がある一方で、「食育の意識は家庭によって差が大きく、家庭への働きかけに力を入れる必要がある」という意見もあった。

#### 検 証

中学生期は、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得する時期であるにも関わらず、生徒の食に関する意識や知識（食品の選び方や調理方法）の習得度は十分ではない状況である。

生徒の食に関する意識を変えていくためには、相当の期間が必要であり、家庭や学校が食育の重要性を十分に認識し、生徒の食育を粘り強く進めていく必要がある。

また、生徒の食に関する意識や知識の習得度を高めるためには、教科等で得た食に関する知識を日常的に体験する場が必要である。

さらに、家庭形態の変化に伴い、食育に関し意識が高い家庭と低い家庭の二極化の傾向があることから、食育を家庭だけに負わせることなく、社会全体で家庭を支援していく必要がある。

## 検証内容

### 《モデル実施前アンケート・モデル実施中アンケート》

#### 朝食の状況

朝食の状況について、生徒は、「毎日食べる」がモデル実施前・実施中ともに約8割となっている。朝食を欠食する理由は、「食べる時間がないから」がモデル実施前・実施中ともに約4割ないし約5割と最も多くなっている。

また、食事内容は、モデル実施前・実施中ともに、主食・肉類・野菜類等について、同様の摂取状況となっている。

#### 間食の状況

間食の状況について、生徒は、「毎日食べる」がモデル実施前・実施中ともに、昼食後から夕食の間で約2割、夕食後から就寝の間で約1割となっている。

#### 日頃の食習慣

日頃の食習慣について、生徒は、モデル実施前・実施中ともに、「好き嫌いはしない」が約5割、「朝食、昼食、夕食の三食を必ず食べる」が約8割、「家族と話しながら食事をとっている」が約8割となっている。

#### 給食の実施に伴う食習慣の変化

給食実施前と比較した食習慣の変化について、「特に変化はない」は、生徒が約5割、保護者から見た生徒の様子が約6割、教員から見た生徒の様子が約4割となっている。

一方で、「弁当を作っていた親への感謝の意識が高くなった」といった調理する人への感謝の意識の向上や、「食事前に空腹感を感じるようになった」、「食事中の会話が弾むようになった」、「嫌いなものが食べられるようになった」など、意識の変化が出てきている部分もある。

#### 親子のコミュニケーション（給食の実施に伴う親子の会話の機会の変化）

給食実施前と比較して、家庭で弁当を作らなくなったことで、親子の会話の機会に変化があったかについて、「以前と変わらない」は、生徒及び保護者ともに約8割となっており、家庭での弁当作りがなくなったことによる親子のコミュニケーションの希薄化は生じていない。

### 《食育推進会議視察》

生徒の食生活の状況等については、「朝食は食べている生徒が多い」、「朝食に関し、給食が良い効果になっている」、「給食によって親子の会話の機会が増えている」という意見の一方で、「給食でも嫌いな物は残す状況を見ると給食で偏食を治すのは難しい」、「食生活の改善は、教科等と連携して指導していくことが必要である」、「健康によい薄味の習慣化を図るためには、家庭での食育が欠かせない」という意見もあった。

#### 検 証

生徒の食生活の状況については、朝食を欠食している生徒が依然として約2割いることなどを踏まえると、様々な機会を通じて、朝食を毎日食べることの重要性について、生徒はもとより、日頃の食生活の中心となる家庭に対して啓発していくことが必要である。

また、食習慣について、給食実施前と比較して、調理する人への感謝の意識の向上や、「食事中の会話が弾むようになった」、「嫌いなものが食べられるようになった」など、変化が見られる部分もあるが、給食の食育上の効果をより高めるためには、教科等と連携し、給食を「生きた教材」として活用する指導の充実が必要である。

なお、当初懸念されたような、家庭での弁当作りがなくなったことによる親子のコミュニケーションの希薄化は生じていない。

## 検証内容

### 《モデル実施前アンケート・モデル実施中アンケート》

#### 体型への意識

体型への意識について、生徒は、自分の体型を「普通」と考えている者が、モデル実施前・実施中ともに約4割にとどまり、「痩せたいと思った」ことがある者が、モデル実施前・実施中ともに約5割となっている。

#### 日頃の体調

日頃の体調について、生徒は、「疲れやすい」、「体がだるい」、「体がきつい」といった体の不調や、「イライラする」、「むしゃくしゃする」といった情緒面での不安を訴える者が多く、また、モデル実施前よりモデル実施中の方が高い割合となっている。

#### 家庭での生活リズム（就寝時間等）

日頃の就寝時間（部活動や塾、習い事のある日）について、生徒は、モデル実施前・実施中ともに、「午後11時台」、「午前0時台」に就寝する割合が約6割と多く、睡眠時間（部活動や塾、習い事のある日）についても、モデル実施前・実施中とも「7時間未満」が約2割となっているなど、就寝時間や睡眠時間の変化は見られない。

#### 家庭での食事作りの意識

家庭での食事作りで意識していることについて、保護者は、モデル実施前・実施中ともに、「栄養バランスのとれた食事作り」が約9割、「塩分を控えた食事作り」が約8割など、いずれの項目も高い割合となっており、家庭において、健康面に配慮した食事作りを心がけている状況が見られるが、その頻度については、「いつもしている」は低い割合となっている。

### 《食育推進会議視察》

生徒の健康に関する意識については、「家庭での生活リズムの乱れから体調不良を訴える生徒が多くなっている現実を見過ごすことはできない」、「生徒の健康への意識作りは、計画的、組織的に取り組むことが重要である」という意見があった。

また、家庭での生活リズムについては、「給食の実施が家庭での生活リズム作りに役立つ」という意見がある一方で、「給食の実施だけでは、家庭での生活リズムを変えることにはつながらない」、「食習慣や生活習慣の改善は、家庭への働きかけが必要である」という意見もあった。

家庭での食事作りについては、「給食で栄養をとるため、朝食や夕食は適当でもよいという保護者がいるのは問題である」、「多くの家庭では十分なカロリー計算ができない面もあり、家庭に対し、子どもが摂取すべきカロリーに関する情報を提供する等の支援が必要である」という意見があった。

#### 検 証

生徒の健康に関する意識や日頃の生活習慣については、過度な痩身が心身に影響を及ぼすこと、朝食の欠食や睡眠不足など家庭での食生活や生活リズムの乱れが体調不良に結びつくことについて、家庭や生徒の理解をより深める必要がある。

また、生徒の健康保持について、学校における食に関する指導の充実に加え、生活習慣病の誘引となる肥満や痩身など、生徒の健康上の課題を早期かつ的確に把握するための取組の推進や、学校が保護者及び医師との連携を図りながら、個々の状況に応じた対応を行う体制の整備など、食育と学校保健で相互に補完する必要がある。

家庭での食事作りに関しては、「栄養バランスのとれた食事作り」、「塩分を控えた食事作り」などについて意識が高く、健康面に配慮した食事作りを心がけている状況が見られるが、その頻度はまだ低く、家庭での食事作りに際し、その参考に資する栄養バランスのとれた食事の献立や地元産品の情報等について、家庭へ発信していく必要がある。

## 学校と家庭・地域との連携・協力

### 検証内容

#### 〈食育推進会議視察〉

学校と家庭・地域との連携・協力については、「食育は学校と家庭とが連携し、共通理解のもとに推進することが必要である」という意見があった。

### 検 証

学校と家庭・地域との連携・協力については、現時点では十分ではなく、各学校の「学校保健委員会」に食の専門家の参加協力を受け、同委員会を活用するなど、学校の実態に応じた取り組みが必要である。

### 3 教育活動への影響

#### 生徒指導上の問題

##### 検証内容

##### 〈モデル実施中アンケート〉

給食の配膳作業の状況について、「円滑にできている」は、生徒が約4割、教員から見た生徒の様子が約5割となっており、学年別では、学年が上がるにつれて「円滑にできている」の割合が高くなっている。

また、注ぎ分けを要しない弁当箱配送の学校と、注ぎ分けを要する食缶配送の学校に関わらず、「円滑にできている」の割合にバラツキがあり、注ぎ分けを要することが必ずしも配膳作業に影響していない状況が見られる。

##### 〈食育推進会議視察〉

給食の配膳作業や生徒指導上の問題については、主に、「教員の指導により、配膳作業は生徒間で協力して円滑に行われている。また、それに伴う生徒指導上の問題も見られない」という意見が出された。

##### 検 証

生徒指導上の問題については、当初懸念された生徒間のトラブルや給食へのいたずらといった状況は見られず、給食の配膳作業についても概ね円滑に実施されている。

#### 時間割の変更による影響

##### 検証内容

##### 〈モデル実施中アンケート調査〉

時間割の変更に伴う生徒の学校や下校後の生活への影響について、「影響はない」もしくは「影響があるが特に問題はない」は、生徒が約6割、保護者が約9割となっており、各モデル実施校が予め時間割を工夫して下校時間の繰り下がりをする限り抑えこともあり、特に問題となる影響はないとする割合が高かった。

### 《食育推進会議の視察》

時間割の変更に伴う生徒の学校や下校後の生活への影響については、モデル実施校の時間割の組み方によって、「特に大きな支障はない」という意見がある一方で、「支障がないのは、各学校の努力・工夫によるものである」、「部活動や職員会議等の時間確保に影響があっている」という意見もあった。

#### 検 証

時間割の変更に伴う生徒の学校や下校後の生活への影響については、各学校の努力・工夫によって、特段の問題は生じておらず、時間割を工夫することで、影響を最小限に抑制することが可能である。

## 4 学校の実施体制

### 検証内容

#### 《モデル実施中アンケート》

学校が給食を実施する体制については、教員は、「課題がある」と感じている者が約9割となっており、その課題の内容は、「給食時間の給食指導の負担が大きい」が約8割、次いで「休憩時間がとりにくい」が約7割となっている。

当初懸念された「給食費滞納への対応の負担が大きい」は、約2割にとどまっている。

#### 《食育推進会議視察》

学校が給食を実施する体制については、「支障ない」という意見の一方で、休憩時間や各教科の教材準備等の時間の確保、教員の負担感軽減のための人員確保の必要性を指摘する意見があった。

#### 検 証

学校が給食を実施する体制については、教員の休憩時間の確保や給食指導の負担感の問題が課題として挙がっており、これらの問題を解決するための取り組みを検討する必要がある。



## 〔参 考〕 給食の必要性

モデル実施中アンケートでは、給食の必要性について、「必要」は、生徒が約1割、保護者が約7割、教員が約1割となっており、評価が分かれる状況となっている。

また、保護者の約7割が「必要」とする中、約6割は「経費がかからない方法で必要」となっている。

必要とする理由については、生徒、保護者、教員ともに、「バランスよく栄養がとれる」が最も多く、次いで「家庭の弁当作りの負担が軽減される」となっており、食育と子育て支援の両方の観点から給食を捉えている状況が見られる。

必要ないとする理由については、生徒、保護者は「おいしくない」、教員は「量が合わない」が最も多く、次いで「給食実施前の方法（家庭の弁当、学校での弁当・パン販売から選択する方法）の方がよい」となっており、給食の味や量に関する問題が、給食実施前の方法を求める大きな要因になっている状況が見られる。

## 中学校完全給食モデル事業検証に関する調査

### (1) 調査目的

中学校完全給食モデル事業実施前と実施中での食育に関する意識や食生活の変化を把握するとともに、実施中の給食への評価や教育活動への影響等を把握するもの。

### (2) 調査時期

実施前調査 平成19年12月

平成20年度1学期モデル事業開始校(二島中学校)は平成20年2月

実施中調査 平成20年7月

### (3) 調査対象

モデル実施校の生徒・保護者・教員

	実施前調査			実施中調査			備考
	対象者数	回収数	回収率	対象者数	回収数	回収率	
生徒	1,332人	1,147人	約86%	1,373人	1,269人	約92%	全生徒
保護者	1,332人	1,032人	約77%	1,373人	932人	約68%	全生徒の保護者
教員	90人	75人	約83%	91人	87人	約96%	校長、教頭、全教諭 (養護教諭含む)
	2,754人	2,254人	約82%	2,837人	2,288人	約81%	

# 1 食育に関する意識等について

食育の関心度については、食育に関心があるものが、生徒は実施前が約4割、実施中が約2割、保護者は実施前及び実施中共に約9割、教員は実施前及び実施中共に約8割となっている。

また、抽出比較(実施前:1,2学年と実施中:2,3学年の比較)においても、同様の状況となっている。

食品の選び方や調理の知識については、知識があると認識しているものが、生徒は実施前が約6割、実施中が約5割、保護者は実施前及び実施中共に約8割、教員は実施前が約9割、実施中が約8割となっている。

また、抽出比較においては、生徒は実施前が約4割、実施中が約5割、保護者は実施前及び実施中が約8割となっている。

食に関する意識や知識の習得度が、特に生徒については十分ではない状況が見られる。

## (1) 食育の関心度

・単純比較では、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせると、生徒は実施前が43.1%、実施中が20.0%、保護者は実施前が90.5%、実施中が85.9%、教員は実施前が78.6%、実施中が78.1%となっている。

・抽出比較では、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせると、生徒は実施前が41.0%、実施中が19.3%、保護者は実施前が90.7%、実施中が85.0%となっている。

	単純比較											
	生徒				保護者				教員			
	実施前		実施中		実施前		実施中		実施前		実施中	
関心がある	15.5%	178	6.0%	75	39.3%	406	31.2%	291	25.3%	19	24.1%	21
どちらかといえば関心がある	27.6%	317	14.0%	174	51.2%	528	54.7%	510	53.3%	40	54.0%	47
どちらかといえば関心がない	19.4%	223	19.7%	245	5.1%	53	6.0%	56	14.7%	11	8.0%	7
関心がない	14.3%	164	29.4%	365	0.5%	5	0.5%	5	4.0%	3	8.0%	7
わからない	23.0%	264	30.5%	379	3.4%	35	5.5%	51	2.7%	2	2.3%	2
未記入	0.1%	1	0.3%	4	0.5%	5	2.0%	19	0.0%	0	3.4%	3
有効回答数		1,147		1,242		1,032		932		75		87

	抽出比較							
	生徒				保護者			
	実施前		実施中		実施前		実施中	
関心がある	14.3%	115	5.8%	47	40.8%	321	29.2%	172
どちらかといえば関心がある	26.7%	214	13.5%	109	49.9%	393	55.8%	329
どちらかといえば関心がない	19.5%	156	20.0%	161	5.2%	41	6.8%	40
関心がない	14.8%	119	32.9%	265	0.3%	2	0.8%	5
わからない	24.6%	197	27.4%	221	3.6%	28	5.4%	32
未記入	0.1%	1	0.4%	3	0.3%	2	2.0%	12
有効回答数		802		806		787		590

抽出比較・・・モデル事業実施前と実施中の同一調査対象比較(実施前(1,2学年) 実施中(2,3学年)比較)

(2) 食品の選び方や調理についての知識

・単純比較では、「十分にある」と「ある程度ある」を合わせると、生徒は実施前が57.0%、実施中が51.3%、保護者は実施前が80.1%、実施中が80.3%、教員は実施前が85.3%、実施中が78.2%となっている。

・抽出比較では、「十分にある」と「ある程度ある」を合わせると、生徒は実施前が40.3%、実施中が49.9%、保護者は実施前が79.3%、実施中が82.4%となっている。

	単純比較											
	生徒				保護者				教員			
	実施前		実施中		実施前		実施中		実施前		実施中	
十分にあると思う	10.0%	115	13.8%	171	12.1%	125	11.6%	108	12.0%	9	16.1%	14
ある程度あると思う	47.0%	539	37.5%	466	68.0%	702	68.7%	640	73.3%	55	62.1%	54
あまりないと思う	33.9%	389	30.4%	377	18.4%	190	17.4%	162	10.7%	8	20.7%	18
まったくないと思う	8.6%	99	17.6%	219	1.0%	10	1.2%	11	4.0%	3	1.1%	1
未記入	0.4%	5	0.7%	9	0.5%	5	1.2%	11	0.0%	0	0.0%	0
有効回答数		1,147		1,242		1,032		932		75		87

	抽出比較							
	生徒				保護者			
	実施前		実施中		実施前		実施中	
十分にあると思う	11.4%	68	12.4%	100	11.3%	89	13.6%	48
ある程度あると思う	28.9%	172	37.5%	302	68.0%	535	68.8%	243
あまりないと思う	47.2%	281	31.4%	253	19.2%	151	15.6%	55
まったくないと思う	11.9%	71	17.9%	144	1.1%	9	1.1%	4
未記入	0.5%	3	0.9%	7	0.4%	3	0.8%	3
有効回答数		595		806		787		353

## 2 日頃の食生活について

朝食の状況については、「毎日食べる」生徒は、実施前及び実施中共に約8割となっており、抽出比較においても、同様の状況となっている。

欠食する理由としては、「食べる時間がないから」が実施前及び実施中共に最も多い理由となっている。

また、食事内容は、実施前及び実施中共に、主食、肉類、野菜類等について、同様の摂取状況となっている。

間食の状況については、「毎日食べる」生徒は、実施前及び実施中共に昼食後から夕食の間が約2割、夕食後から就寝の間が約1割となっており、抽出比較においても、同様の状況となっている。

日頃の食習慣については、実施前及び実施中共に、「好き嫌いをしない」は約5割、「朝食、昼食、夕食の三食を必ず食べる」は約8割、「家族と話しながら食事をとっている」は約8割等となっており、抽出比較においても、同様の状況となっている。

給食が朝食欠食や朝食の食事内容、間食の頻度へ影響を及ぼすような状況は見られない。

### (1) 朝食の状況

#### 朝食欠食の状況

・単純比較では、「毎日食べている」は実施前が77.2%、実施中が77.0%となっている。

・抽出比較では、「毎日食べている」は実施前が78.1%、実施中が75.9%となっている。

	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
毎日食べる	77.2%	885	77.0%	954	78.1%	626	75.9%	612
週に6日食べる	6.5%	74	4.8%	59	6.2%	50	5.0%	40
週に4～5日食べる	5.9%	68	6.5%	80	6.1%	49	6.7%	54
週に2～3日食べる	4.9%	56	4.6%	57	4.6%	37	4.7%	38
週に1日食べる	1.4%	16	2.3%	29	1.6%	13	2.7%	22
食べない	3.9%	45	4.5%	56	3.0%	24	4.7%	38
未記入	0.3%	3	0.3%	4	0.4%	3	0.2%	2
有効回答数		1,147		1,239		802		806

## 朝食欠食の理由

・単純比較では、実施前は「食べる時間がないから」が42.5%で最も多く、次いで「眠っていたいから」が29.3%となっており、実施中も「食べる時間がないから」が48.6%で最も多く、次いで「眠っていたいから」が37.7%となっている。

・抽出比較では、実施前は「食べる時間がないから」が45.7%で最も多く、次いで「眠っていたいから」が27.7%となっており、実施中も「食べる時間がないから」が48.4%で最も多く、次いで「眠っていたいから」が40.1%となっている。

	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
食欲がないから	25.1%	65	37.0%	105	27.2%	47	37.0%	71
食べる時間がないから	42.5%	110	48.6%	138	45.7%	79	48.4%	93
食事の準備ができていないから	12.7%	33	15.8%	45	9.2%	16	17.7%	34
太りたくないから	3.5%	9	2.1%	6	2.9%	5	1.0%	2
眠っていたいから	29.3%	76	37.7%	107	27.7%	48	40.1%	77
お腹がすかないから	25.1%	65	29.9%	85	22.0%	38	28.1%	54
食べないことが習慣になっているから	12.7%	33	16.9%	48	12.7%	22	20.3%	39
好きなテレビが見られないから	4.2%	11	3.9%	11	4.0%	7	4.2%	8
おいしくないから	2.7%	7	1.8%	5	2.9%	5	2.1%	4
ひとりですまらないから	3.1%	8	5.6%	16	2.3%	4	4.7%	9
その他(自由記載)	8.1%	21	13.0%	37	9.8%	17	15.1%	29
未記入	18.9%	49	8.5%	24	17.9%	31	7.8%	15
有効回答数		259		284		173		192

## 朝食の食事内容

・単純比較では、実施前は主食(ごはん+食パン類、めん類、コーンフレーク)が80.6%、「肉、魚、卵、大豆製品」が56.7%、「生野菜、煮野菜」が9.9%となっており、実施中は主食が86.5%、「肉、魚、卵、大豆製品」が54.1%、「生野菜、煮野菜」が11.4%となっている。

・抽出比較では、実施前は主食(ごはん+食パン類、めん類、コーンフレーク)が81.0%、「肉、魚、卵、大豆製品」が54.4%、「生野菜、煮野菜」が9.2%となっており、実施中は主食が85.7%、「肉、魚、卵、大豆製品」が55.3%、「生野菜、煮野菜」が12.5%となっている。

	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
ごはん	46.6%	535	46.9%	583	46.1%	370	46.7%	376
食パン類・めん類・コーンフレーク	34.0%	390	39.6%	492	34.9%	280	39.0%	314
肉、魚、卵、大豆製品	56.7%	650	54.1%	672	54.4%	436	55.3%	446
生野菜、煮野菜	9.9%	113	11.4%	142	9.2%	74	12.5%	101
チーズ、牛乳、ヨーグルト	28.4%	326	33.7%	419	27.7%	222	33.0%	266
味噌汁、スープ	29.3%	336	22.8%	283	29.7%	238	23.8%	192
くだもの	9.7%	111	9.7%	121	9.4%	75	10.8%	87
100%果汁、野菜ジュース	6.7%	77	8.9%	111	6.6%	53	10.3%	83
清涼飲料水	5.8%	67	7.6%	95	4.9%	39	8.4%	68
菓子パン類、菓子類	18.3%	210	18.0%	224	16.8%	135	17.6%	142
その他	14.0%	161	14.4%	179	13.2%	106	13.0%	105
食べていない	6.0%	69	6.1%	76	5.6%	45	7.1%	57
未記入	1.7%	19	1.4%	18	1.4%	11	1.6%	13
有効回答数		1,147		1,242		802		806

(2) 間食の状況

昼食後から夕食までの間食

- ・単純比較では、「毎日食べる」は実施前が22.8%、実施中が19.4%となっている。
- ・抽出比較では、「毎日食べる」は実施前が21.8%、実施中が19.6%となっている。

	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
毎日食べる	22.8%	261	19.4%	239	21.8%	175	19.6%	156
週に6日食べる	4.0%	46	3.8%	47	3.7%	30	3.3%	26
週に4～5日食べる	16.2%	186	14.0%	172	17.2%	138	12.8%	102
週に2～3日食べる	31.0%	356	28.3%	349	30.4%	244	27.3%	217
週に1日食べる	10.5%	121	12.8%	158	10.5%	84	14.4%	115
食べない	14.3%	164	20.0%	247	15.1%	121	21.4%	170
未記入	1.1%	13	1.6%	20	1.2%	10	1.3%	10
有効回答数		1,147		1,232		802		796

夕食後から就寝までの間食

- ・単純比較では、「毎日食べる」は実施前が10.5%、実施中が9.9%となっている。
- ・抽出比較では、「毎日食べる」は実施前が10.6%、実施中が10.2%となっている。

	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
毎日食べる	10.5%	120	9.9%	123	10.6%	85	10.2%	82
週に6日食べる	3.7%	42	3.4%	42	4.1%	33	3.0%	24
週に4～5日食べる	10.0%	114	8.6%	107	9.5%	76	9.2%	74
週に2～3日食べる	21.5%	246	20.1%	250	22.6%	181	21.6%	174
週に1日食べる	14.1%	162	15.8%	196	14.6%	117	14.3%	115
食べない	38.8%	444	40.5%	503	36.9%	296	40.2%	324
未記入	1.5%	17	1.7%	21	1.7%	14	1.6%	13
有効回答数		1,145		1,242		802		806

(3) 日頃の食習慣

・単純比較では、「好き嫌いをしない」は実施前が49.5%、実施中が44.5%、「朝食、昼食、夕食の三食を必ず食べる」は実施前が80.6%、実施中が80.0%、「家族と話しながら食事をとっている」は、実施前が79.9%、実施中が78.4%となっている。

・抽出比較では、「好き嫌いをしない」は実施前が47.8%、実施中が45.9%、「朝食、昼食、夕食の三食を必ず食べる」は実施前が85.3%、実施中が80.0%、「家族と話しながら食事をとっている」は、実施前が80.0%、実施中が76.3%となっている。

食事のときはテレビを見る	単純比較		抽出比較		単純比較		抽出比較									
	生徒				保護者											
	実施前	実施中	実施前	実施中	実施前	実施中	実施前	実施中								
はい	86.1%	987	86.7%	1,077	85.9%	689	87.6%	706	86.0%	888	80.2%	747	86.4%	680	82.2%	485
いいえ	13.4%	154	12.6%	156	13.6%	109	12.0%	97	13.4%	138	17.8%	166	13.1%	103	15.8%	93
未記入	0.5%	6	0.7%	9	0.5%	4	0.4%	3	0.6%	6	2.0%	19	0.5%	4	2.0%	12
有効回答数		1,147		1,242		802		806		1,032		932		787		590

保護者・・・保護者から見た生徒の様子

野菜をほとんど食べない	単純比較		抽出比較		単純比較		抽出比較									
	生徒				保護者											
	実施前	実施中	実施前	実施中	実施前	実施中	実施前	実施中								
はい	15.4%	177	16.3%	202	15.1%	121	17.4%	140	12.3%	127	10.5%	98	13.2%	104	9.8%	58
いいえ	84.2%	966	83.0%	1,031	84.5%	678	82.1%	662	87.5%	903	86.9%	810	86.7%	682	90.2%	532
未記入	0.3%	4	0.7%	9	0.4%	3	0.5%	4	0.2%	2	2.6%	24	0.1%	1	0.0%	0
有効回答数		1,147		1,242		802		806		1,032		932		787		590

お菓子ばかり食べて食事を食べない	単純比較		抽出比較		単純比較		抽出比較									
	生徒				保護者											
	実施前	実施中	実施前	実施中	実施前	実施中	実施前	実施中								
はい	2.6%	30	4.6%	57	2.2%	18	4.5%	36	1.4%	14	1.2%	11	1.7%	13	0.8%	5
いいえ	96.9%	1,111	94.7%	1,176	97.1%	779	95.0%	766	98.4%	1,016	96.4%	898	98.2%	773	99.2%	585
未記入	0.5%	6	0.7%	9	0.6%	5	0.5%	4	0.2%	2	2.5%	23	0.1%	1	0.0%	0
有効回答数		1,147		1,242		802		806		1,032		932		787		590

好きなものだけを食べている	単純比較		抽出比較		単純比較		抽出比較									
	生徒				保護者											
	実施前	実施中	実施前	実施中	実施前	実施中	実施前	実施中								
はい	21.4%	245	24.3%	302	20.1%	161	25.2%	203	18.1%	187	17.4%	162	19.1%	150	18.5%	109
いいえ	78.0%	895	74.8%	929	79.3%	636	74.1%	597	81.5%	841	80.0%	746	80.7%	635	81.4%	480
未記入	0.6%	7	0.9%	11	0.6%	5	0.7%	6	0.4%	4	2.6%	24	0.3%	2	0.2%	1
有効回答数		1,147		1,242		802		806		1,032		932		787		590

栄養はサプリメントや栄養ドリンクで補っている	単純比較		抽出比較		単純比較		抽出比較									
	生徒				保護者											
	実施前	実施中	実施前	実施中	実施前	実施中	実施前	実施中								
はい	9.7%	111	11.7%	145	9.0%	72	10.8%	87	6.8%	70	3.9%	36	6.1%	48	4.6%	27
いいえ	89.9%	1,031	87.8%	1,090	90.5%	726	88.8%	716	92.3%	953	93.7%	873	93.9%	739	95.3%	562
未記入	0.4%	5	0.6%	7	0.5%	4	0.4%	3	0.9%	9	2.5%	23	0.0%	0	0.2%	1
有効回答数		1,147		1,242		802		806		1,032		932		787		590

栄養バランスのとれた食事を心がけている	単純比較		抽出比較		単純比較		抽出比較									
	生徒				保護者											
	実施前	実施中	実施前	実施中	実施前	実施中	実施前	実施中								
はい	65.6%	752	61.1%	759	65.3%	524	58.2%	469	86.6%	894	87.9%	819	87.4%	688	90.3%	533
いいえ	33.1%	380	37.0%	460	33.3%	267	40.1%	323	12.0%	124	9.3%	87	12.2%	96	9.3%	55
未記入	1.3%	15	1.9%	23	1.4%	11	1.7%	14	1.4%	14	2.8%	26	0.4%	3	0.3%	2
有効回答数		1,147		1,242		802		806		1,032		932		787		590



出されたものは残さず食べている	単純比較				抽出比較				単純比較				抽出比較			
	生徒								保護者							
	実施前		実施中		実施前		実施中		実施前		実施中		実施前		実施中	
はい	75.5%	866	66.1%	821	74.1%	594	68.6%	553	78.2%	807	74.1%	691	78.4%	617	75.3%	444
いいえ	24.1%	276	33.1%	411	25.4%	204	30.9%	249	20.8%	215	23.3%	217	21.6%	170	24.6%	145
未記入	0.4%	5	0.8%	10	0.5%	4	0.5%	4	1.0%	10	2.6%	24	0.0%	0	0.2%	1
有効回答数		1,147		1,242		802		806		1,032		932		787		590

好き嫌いをしない	単純比較				抽出比較				単純比較				抽出比較			
	生徒								保護者							
	実施前		実施中		実施前		実施中		実施前		実施中		実施前		実施中	
はい	49.5%	568	44.5%	553	47.8%	383	45.9%	370	59.4%	613	55.4%	516	57.9%	456	56.3%	332
いいえ	50.0%	573	54.6%	678	51.9%	416	53.5%	431	39.7%	410	41.7%	389	42.1%	331	43.1%	254
未記入	0.5%	6	0.9%	11	0.4%	3	0.6%	5	0.9%	9	2.9%	27	0.0%	0	0.7%	4
有効回答数		1,147		1,242		802		806		1,032		932		787		590

朝食、昼食、夕食の三食を必ず食べる	単純比較				抽出比較				単純比較				抽出比較			
	生徒								保護者							
	実施前		実施中		実施前		実施中		実施前		実施中		実施前		実施中	
はい	80.6%	925	80.0%	993	82.2%	659	80.3%	647	85.3%	880	87.3%	814	86.4%	680	87.1%	514
いいえ	18.8%	216	19.2%	238	17.2%	138	19.1%	154	13.7%	141	10.3%	96	13.5%	106	12.9%	76
未記入	0.5%	6	0.9%	11	0.6%	5	0.6%	5	1.1%	11	2.4%	22	0.1%	1	0.0%	0
有効回答数		1,147		1,242		802		806		1,032		932		787		590

家族と話しながら食事をとっている	単純比較				抽出比較				単純比較				抽出比較			
	生徒								保護者							
	実施前		実施中		実施前		実施中		実施前		実施中		実施前		実施中	
はい	79.9%	916	78.4%	974	80.0%	642	76.3%	615	91.6%	945	91.5%	853	92.0%	724	93.9%	554
いいえ	19.5%	224	20.5%	255	19.3%	155	22.8%	184	7.4%	76	5.5%	51	7.9%	62	5.4%	32
未記入	0.6%	7	1.0%	13	0.6%	5	0.9%	7	1.1%	11	3.0%	28	0.1%	1	0.7%	4
有効回答数		1,147		1,242		802		806		1,032		932		787		590

### 3 健康に関する意識について

体型への意識については、自分の体型を「普通」と思ってる生徒は、約4割にとどまっている。また、「痩せたいと思った」ことがある生徒が、実施前及び実施中共に約5割となっており、抽出比較においても、同様の状況となっている。

日頃の体調の状況については、「疲れやすい」、「体がだるい」、「体がきつい」といった体の不調や、「イライラする」、「むしゃくしゃする」といった情緒面での不安を訴える生徒が、実施前より実施中の方が高い割合となっている。

#### (1) 体型への意識

##### 現在の体型

##### 【文部科学省の基準で区分】

・生徒の身長と体重(実測値)からみると、性別・年齢別・身長別の標準体重との差は、単純比較では、-20%以上 ~ +20%未満の者は実施前が86.5%、実施中が86.9%となっている。

・抽出比較では、-20%以上 ~ +20%未満の者は実施前が86.3%、実施中が87.5%となっている。

	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
-30%未満	0.0%	0	0.1%	2	0.0%	0	0.2%	2
-30%以上 ~ -20%未満	2.9%	38	2.7%	36	2.5%	26	2.7%	24
-20%以上 ~ +20%未満	86.5%	1,123	86.9%	1,168	74.2%	766	87.5%	777
+20%以上 ~ +30%未満	4.9%	64	4.6%	62	4.6%	47	4.3%	38
+30%以上 ~ +50%未満	4.0%	52	4.3%	58	3.6%	37	3.9%	35
+50%以上	1.4%	18	1.3%	17	1.2%	12	1.4%	12
未記入	0.2%	3	0.1%	1	0.0%	0	0.0%	0
有効回答数		1,298		1,344		888		888

##### 【厚生労働科学研究班の基準で区分】

・生徒の身長と体重(実測値)からみると、性別・年齢別・身長別の標準体重との差は、単純比較では、-15%以上 ~ +20%未満の者は実施前が79.5%、実施中が81.5%となっている。

・抽出比較では、-15%以上 ~ +20%未満の者は実施前が80.4%、実施中が82.5%となっている。

	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
-20%未満	2.9%	38	2.8%	38	2.9%	26	2.9%	26
-20%以上 ~ -15%未満	7.0%	91	5.4%	73	5.9%	52	5.0%	44
-15%以上 ~ +20%未満	79.5%	1,032	81.5%	1,095	80.4%	714	82.5%	733
+20%以上 ~ +30%未満	4.9%	64	4.6%	62	5.3%	47	4.3%	38
+30%以上 ~ +50%未満	4.0%	52	4.3%	58	4.2%	37	3.9%	35
+50%以上	1.4%	18	1.3%	17	1.4%	12	1.4%	12
未記入	0.2%	3	0.1%	1	0.0%	0	0.0%	0
有効回答数		1,298		1,344		888		888

### 体型への意識

- ・単純比較では、体型を「普通」と思っているのは実施前が35.5%、実施中が33.9%となっている。
- ・抽出比較では、体型を「普通」と思っているのは実施前が38.7%、実施中が34.4%となっている。

	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
痩せている	9.8%	112	10.3%	128	9.4%	75	10.2%	82
やや痩せている	11.2%	129	10.8%	134	11.2%	90	11.5%	93
普通	35.5%	407	33.9%	421	38.7%	310	34.4%	277
やや太っている	21.3%	244	18.8%	233	20.1%	161	18.5%	149
太っている	14.6%	167	16.5%	205	12.6%	101	16.5%	133
考えたことがない	7.0%	80	8.5%	105	7.5%	60	7.7%	62
未記入	0.7%	8	1.3%	16	0.6%	5	1.2%	10
有効回答数		1,147		1,242		802		806

### 瘦身願望

- ・単純比較では、「痩せたいと思った」ことがあるのは実施前が52.4%、実施中が52.7%となっている。
- ・抽出比較では、「痩せたいと思った」ことがあるのは実施前が50.2%、実施中が53.0%となっている。

痩せたいと思ったことがあるか	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
はい	52.4%	601	52.7%	654	50.2%	403	53.0%	427
いいえ	46.5%	533	46.0%	571	48.6%	390	45.9%	370
未記入	1.1%	13	1.4%	17	1.1%	9	1.1%	9
有効回答数		1,147		1,242		802		806

(2) 日頃の体調

最近1週間の体調

・単純比較では、「よくある」と「時々ある」を合わせると、「疲れやすい」は実施前が72.4%、実施中が78.4%、「体がだるい」は実施前が64.8%、実施中が76.1%、「体がきつい」は実施前が61.9%、実施中が71.3%、「イライラする」は実施前が49.8%、実施中が50.4%、「むしゃくしゃする」は実施前が39.8%、実施中が42.7%となっている。

・抽出比較では、「よくある」と「時々ある」を合わせると、「疲れやすい」は実施前が70.9%、実施中が81.5%、「体がだるい」は実施前が64.8%、実施中が81.0%、「体がきつい」は実施前が59.7%、実施中が77.2%、「イライラする」は実施前が47.4%、実施中が53.5%、「むしゃくしゃする」は実施前が36.8%、実施中が45.7%となっている。

朝すっきりと目が覚める	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
よくある	10.4%	119	15.7%	195	10.2%	82	14.6%	118
時々ある	34.4%	394	33.1%	411	35.3%	283	32.1%	259
あまりない	32.9%	377	30.4%	378	33.0%	265	32.1%	259
まったくない	21.8%	250	20.0%	248	20.8%	167	20.5%	165
未記入	0.6%	7	0.8%	10	0.6%	5	0.6%	5
有効回答者数		1,147		1,242		802		806

おなかの調子が悪い	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
よくある	13.0%	149	14.7%	183	11.8%	95	15.5%	125
時々ある	31.5%	361	30.6%	380	31.3%	251	32.4%	261
あまりない	29.3%	336	27.8%	345	29.7%	238	30.0%	242
まったくない	25.5%	293	26.1%	324	26.4%	212	21.5%	173
未記入	0.7%	8	0.8%	10	0.7%	6	0.6%	5
有効回答数		1,147		1,242		802		806

疲れやすい	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
よくある	36.0%	413	44.2%	549	34.9%	280	46.9%	378
時々ある	36.4%	417	34.2%	425	36.0%	289	34.6%	279
あまりない	19.0%	218	13.8%	171	20.1%	161	12.2%	98
まったくない	7.9%	91	7.2%	89	8.4%	67	6.0%	48
未記入	0.7%	8	0.6%	8	0.6%	5	0.4%	3
有効回答数		1,147		1,242		802		806

体がだるい	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
よくある	32.7%	375	42.4%	526	31.5%	253	45.3%	365
時々ある	32.1%	368	33.7%	419	33.3%	267	35.7%	288
あまりない	24.2%	278	15.6%	194	24.8%	199	13.0%	105
まったくない	10.2%	117	7.6%	94	9.5%	76	5.6%	45
未記入	0.8%	9	0.7%	9	0.9%	7	0.4%	3
有効回答数		1,147		1,242		802		806

体がきつい	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
よくある	32.0%	367	39.5%	491	30.3%	243	43.3%	349
時々ある	29.9%	343	31.8%	395	29.4%	236	33.9%	273
あまりない	24.7%	283	17.9%	222	26.8%	215	14.6%	118
まったくない	12.5%	143	10.0%	124	12.5%	100	7.7%	62
未記入	1.0%	11	0.8%	10	1.0%	8	0.5%	4
有効回答数		1,147		1,242		802		806

イライラする	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
よくある	20.6%	236	24.6%	305	19.2%	154	25.8%	208
時々ある	29.2%	335	25.8%	321	28.2%	226	27.7%	223
あまりない	28.5%	327	28.4%	353	29.9%	240	28.8%	232
まったくない	20.9%	240	20.0%	248	21.8%	175	16.9%	136
未記入	0.8%	9	1.2%	15	0.9%	7	0.9%	7
有効回答数		1,147		1,242		802		806

むしゃくしゃする	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
よくある	17.0%	195	21.3%	264	14.7%	118	23.1%	186
時々ある	22.8%	261	21.4%	266	22.1%	177	22.6%	182
あまりない	33.0%	379	29.9%	371	34.3%	275	30.6%	247
まったくない	26.3%	302	26.2%	326	27.9%	224	23.0%	185
未記入	0.9%	10	1.2%	15	1.0%	8	0.7%	6
有効回答数		1,147		1,242		802		806

#### 4 日頃の生活習慣に関わる実態について

就寝時間は、実施前及び実施中共に、「午後11時台」、「午前0時台」と、就寝時間が遅い生徒(部活動や塾、習い事のある日)が多く、睡眠時間が「7時間未満」の生徒(部活動や塾、習い事のある日)が、約2割いる状況となっており、生活習慣の変化は見られない。

##### (1) 就寝時間

###### 部活動、塾、習い事のある日

・単純比較では、実施前は「午後11時台」が32.6%で最も多く、次いで「午前0時台」が23.5%となっており、実施中も「午後11時台」が37.9%で最も多く、次いで「午前0時台」が21.2%となっている。

・抽出比較では、実施前は「午後11時台」が38.8%で最も多く、次いで「午前0時台」が20.8%となっており、実施中も「午後11時台」が36.5%で最も多く、次いで「午前0時台」が25.2%となっている。

	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
午後9時以前	0.3%	3	0.9%	11	0.4%	3	0.7%	6
午後9時台	1.3%	15	3.3%	41	1.9%	15	1.6%	13
午後10時台	13.0%	149	14.1%	175	17.1%	137	10.3%	83
午後11時台	32.6%	374	37.9%	471	38.8%	311	36.5%	294
午前0時台	23.5%	270	21.2%	263	20.8%	167	25.2%	203
午前1時台	9.5%	109	5.5%	68	4.6%	37	6.6%	53
午前2時台	2.7%	31	1.7%	21	1.7%	14	2.2%	18
午前3時台以降	0.7%	8	0.4%	5	0.7%	6	0.5%	4
未記入	16.4%	188	15.1%	187	14.0%	112	16.4%	132
有効回答数		1,147		1,242		802		806

###### 部活動、塾、習い事のない日

・単純比較では、実施前は「午後11時台」が37.9%で最も多く、次いで「午後10時台」が20.3%となっており、実施中も「午後11時台」が36.6%で最も多く、次いで「午後10時台」が22.5%となっている。

・抽出比較では、実施前は「午後11時台」が41.0%で最も多く、次いで「午後10時台」が24.1%となっており、実施中は「午後11時台」が38.6%で最も多く、次いで「午前0時台」が20.1%となっている。

	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
午後9時以前	0.6%	7	0.6%	8	0.7%	6	0.7%	6
午後9時台	4.1%	47	7.6%	94	5.2%	42	4.6%	37
午後10時台	20.3%	233	22.5%	280	24.1%	193	18.1%	146
午後11時台	37.9%	435	36.6%	455	41.0%	329	38.6%	311
午前0時台	19.8%	227	16.8%	209	16.2%	130	20.1%	162
午前1時台	7.8%	89	4.6%	57	4.7%	38	5.8%	47
午前2時台	3.1%	36	2.0%	25	2.0%	16	2.9%	23
午前3時台以降	1.0%	12	0.9%	11	1.0%	8	1.1%	9
未記入	5.3%	61	8.3%	103	5.0%	40	8.1%	65
有効回答数		1,147		1,242		802		806

(2) 睡眠時間

部活動、塾、習い事のある日

・単純比較では、実施前は「7時間台」が28.9%で最も多く、次いで「8時間台」が24.7%となっており、実施中も「7時間台」が34.1%で最も多く、次いで「8時間台」が22.8%となっている。

・抽出比較では、実施前は「7時間台」が31.0%で最も多く、次いで「8時間台」が29.6%となっており、実施中は「7時間台」が34.2%で最も多く、次いで「7時間未満」が22.1%となっている。

	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
7時間未満	21.7%	249	19.3%	240	15.2%	122	22.1%	178
7時間台	28.9%	332	34.1%	423	31.0%	249	34.2%	276
8時間台	24.7%	283	22.8%	283	29.6%	237	20.3%	164
9時間以上	6.9%	79	6.0%	75	9.0%	72	4.6%	37
未記入	17.8%	204	17.8%	221	15.2%	122	18.7%	151
有効回答数		1,147		1,242		802		806

部活動、塾、習い事のない日

・単純比較では、実施前は「8時間台」が31.3%で最も多く、次いで「7時間台」が29.9%となっており、実施中は「7時間台」が30.1%で最も多く、次いで「8時間台」が29.2%となっている。

・抽出比較では、実施前は「8時間台」が34.8%で最も多く、次いで「7時間台」が28.9%となっており、実施中は「7時間台」が32.0%で最も多く、次いで「8時間台」が27.3%となっている。

	単純比較				抽出比較			
	生徒							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
7時間未満	18.4%	211	16.5%	205	14.0%	112	19.7%	159
7時間台	29.9%	343	30.1%	374	28.9%	232	32.0%	258
8時間台	31.3%	359	29.2%	363	34.8%	279	27.3%	220
9時間以上	13.3%	152	13.1%	163	16.0%	128	10.3%	83
未記入	7.1%	82	11.0%	137	6.4%	51	10.7%	86
有効回答数		1,147		1,242		802		806

## 5 家庭での食事作りの意識について

家庭での食事作りの意識については、実施前及び実施中共に、「栄養バランスのとれた食事」は約9割、「塩分を控えた食事」は約8割、「食品の産地等の確認」は約9割、「地元産品への購買意識」は約8割、「旬の食材使用」は約9割となっており、抽出比較においても、同様の状況となっている。

実施前及び実施中共に、食事作りの意識について、いずれの項目も高い割合となっており、家庭において、健康面に配慮した食事作りを心がけている状況が見られるが、その頻度については、「いつもしている」の割合はまだ低い状況が見られる。

### 家庭での食事作りの意識

・単純比較では、「いつもしている」と「時々している」を合わせると、「栄養バランスのとれた食事」は実施前が90.4%、実施中が90.1%、「塩分を控えた食事」は実施前が77.4%、実施中が76.0%、「食品の産地等の確認」は実施前が90.6%、実施中が92.2%、「地元産品への購買意識」は実施前が75.2%、実施中が79.6%、「旬の食材使用」は実施前が89.0%、実施中が88.2%となっている。

・抽出比較では、「いつもしている」と「時々している」を合わせると、「栄養バランスのとれた食事」は実施前が91.3%、実施中が91.6%、「塩分を控えた食事」は実施前が77.3%、実施中が76.6%、「食品の産地等の確認」は実施前が91.4%、実施中が94.3%、「地元産品への購買意識」は実施前が75.1%、実施中が81.5%、「旬の食材使用」は実施前が88.8%、実施中が90.0%となっている。

栄養バランスのとれた食事	単純比較				抽出比較			
	保護者							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
いつもしている	38.5%	397	40.3%	376	38.4%	302	41.4%	244
時々している	51.9%	536	49.8%	464	52.9%	416	50.2%	296
あまりしていない	7.9%	82	6.5%	61	7.8%	61	7.6%	45
していない	0.4%	4	0.5%	5	0.5%	4	0.3%	2
未記入	1.3%	13	2.8%	26	0.5%	4	0.5%	3
有効回答数		1,032		932		787		590

塩分を控えた食事	単純比較				抽出比較			
	保護者							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
いつもしている	31.3%	323	30.8%	287	31.9%	251	30.1%	178
時々している	46.1%	476	45.2%	421	45.4%	357	46.5%	275
あまりしていない	20.1%	207	20.8%	194	20.8%	164	22.3%	132
していない	1.3%	13	0.8%	7	1.4%	11	0.7%	4
未記入	1.3%	13	2.5%	23	0.5%	4	0.3%	2
有効回答数		1,032		932		787		591

食品選びの際の産地、賞味期限、原材料、添加物の確認	単純比較				抽出比較			
	保護者							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
いつもしている	56.8%	586	61.2%	570	56.2%	442	61.2%	361
時々している	33.8%	349	31.0%	289	35.2%	277	33.1%	195
あまりしていない	7.6%	78	4.6%	43	7.5%	59	4.6%	27
していない	0.9%	9	0.5%	5	1.0%	8	0.8%	5
未記入	1.0%	10	2.7%	25	0.1%	1	0.3%	2
有効回答数		1,032		932		787		590



地元産品への購買意識	単純比較				抽出比較			
	保護者							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
いつも買っている	8.8%	91	13.0%	121	7.9%	62	12.0%	71
できるだけ買うようにしている	66.4%	685	66.6%	621	67.2%	529	69.5%	410
あまり買わない	21.2%	219	16.3%	152	22.2%	175	16.6%	98
買わない	2.2%	23	0.6%	6	2.3%	18	0.5%	3
未記入	1.4%	14	3.4%	32	0.4%	3	1.4%	8
有効回答数		1,032		932		787		590

旬の食材の使用	単純比較				抽出比較			
	保護者							
	実施前		実施中		実施前		実施中	
している	22.7%	234	25.8%	240	21.3%	168	25.9%	153
時々している	66.3%	684	62.4%	582	67.5%	531	64.1%	378
あまりしていない	9.0%	93	8.8%	82	9.7%	76	9.5%	56
していない	0.8%	8	0.4%	4	1.3%	10	0.3%	2
未記入	1.3%	13	2.6%	24	0.3%	2	0.2%	1
有効回答数		1,032		932		787		590

## 6 給食の実施状況等について

### (1) 給食の味

給食の味については、生徒で、「おいしくない」と感じているものが約6割で、「普通」は約3割、「おいしい」は約1割にとどまっております、男女別及び学年別、方式別でも同様の傾向となっている。

「おいしくない」理由としては、「味が薄い」が約6割で、「嫌いなものが多い」が約5割となっており、方式別では、これらの理由以外に、弁当箱配送は「冷たい」も約5割と高い割合となっている。

### 給食のおいしさ

・単純比較では、生徒は「おいしい」と「概ねおいしい」を合わせると11.0%、「普通」が27.3%、「あまりおいしくない」と「おいしくない」を合わせると61.3%となっている。

・方式別比較では、生徒は「おいしい」と「概ねおいしい」を合わせると弁当箱配送が11.6%、食缶配送が10.5%、「普通」は弁当箱配送が25.7%、食缶配送が28.8%、「あまりおいしくない」と「おいしくない」を合わせると弁当箱配送が62.4%、食缶配送が60.1%となっている。

	単純比較													
	生徒												教員	
	男子		女子		1学年		2学年		3学年					
おいしい	5.6%	70	8.4%	53	2.8%	17	7.6%	33	4.7%	20	4.4%	17	0.0%	0
概ねおいしい	5.4%	67	5.9%	37	4.9%	30	8.5%	37	3.1%	13	4.4%	17	2.3%	2
普通	27.3%	339	28.8%	181	25.8%	158	28.7%	125	23.0%	97	30.5%	117	23.0%	20
あまりおいしくない	24.7%	307	21.8%	137	27.7%	170	21.6%	94	25.4%	107	27.6%	106	47.1%	41
おいしくない	36.6%	454	35.0%	220	38.2%	234	33.7%	147	43.1%	182	32.6%	125	26.4%	23
未記入	0.4%	5	0.2%	1	0.7%	4	0.0%	0	0.7%	3	0.5%	2	1.1%	1
有効回答数		1,242		629		613		436		422		384		87

	方式別比較							
	生徒				教員			
	弁当箱配送 (民間)		食缶配送 (民間、親子)		弁当箱配送 (民間)		食缶配送 (民間、親子)	
おいしい	6.3%	38	5.0%	32	0.0%	0	0.0%	0
概ねおいしい	5.3%	32	5.5%	35	4.4%	2	0.0%	0
普通	25.7%	156	28.8%	183	17.8%	8	28.6%	12
あまりおいしくない	27.8%	169	21.7%	138	48.9%	22	45.2%	19
おいしくない	34.6%	210	38.4%	244	28.9%	13	23.8%	10
未記入	0.3%	2	0.5%	3	0.0%	0	2.4%	1
有効回答数		607		635		45		42

### 教員・・・教員から見た生徒の様子

給食のおいしさの理由(おいしくない理由)

・単純比較では、生徒は「味が薄い」が64.7%で最も多く、次いで「嫌いなものが多い」が47.3%となっている。

・方式別比較では、生徒は弁当箱配送は「味が薄い」が72.3%で最も多く、次いで「冷たい」が54.4%となっており、食缶配送は「嫌いなものが多い」が58.6%で最も多く、次いで「味が薄い」が57.1%となっている。

	単純比較													
	生徒											教員		
	男子		女子		1学年		2学年		3学年					
味が薄い	64.7%	492	69.5%	248	60.4%	244	55.6%	134	72.3%	209	64.5%	149	67.2%	43
嫌いなものが多い	47.3%	360	36.4%	130	56.9%	230	43.2%	104	48.1%	139	50.6%	117	51.6%	33
冷たい	39.4%	300	41.5%	148	37.6%	152	52.3%	126	29.8%	86	38.1%	88	28.1%	18
未記入	2.0%	15	2.2%	8	1.7%	7	1.7%	4	1.0%	3	3.5%	8	4.7%	3
有効回答数		761		357		404		241		289		231		64

	方式別比較							
	生徒				教員			
	弁当箱配送 (民間)		食缶配送 (民間、親子)		弁当箱配送 (民間)		食缶配送 (民間、親子)	
味が薄い	72.3%	274	57.1%	218	71.4%	25	62.1%	18
嫌いなものが多い	35.9%	136	58.6%	224	37.1%	13	69.0%	20
冷たい	54.4%	206	24.6%	94	40.0%	14	13.8%	4
未記入	1.3%	5	2.6%	10	5.7%	2	3.4%	1
有効回答数		379		382		35		29

教員・・・教員から見た生徒の様子

(2) 給食の量

パン(主食)の量については、生徒は、「多い」と感じているものが約5割、「ちょうどよい」が約3割、「少ない」が約2割となっている。

また、男女別では「多い」は男子が約4割に対し、女子が約7割となっている。

全体的に、量が「多い」と感じている生徒が多く、特に女子は「多い」と感じる生徒が多い状況となっている。

米飯(主食)の量については、生徒は、「多い」と感じているものが約4割、「ちょうどよい」が約4割、「少ない」が約3割となっている。

また、男女別では「多い」が男子が約2割に対し、女子が約5割、「ちょうどよい」は男女共に約4割、「少ない」は男子が約4割、女子が約1割となっている。

全体的に、「多い」「ちょうどよい」「少ない」に分かれているが、特に女子は「多い」と感じる生徒が多い状況となっている。

給食のパン・米飯(主食)の1週間の適切な回数については、生徒は、現状の「パン2回・米飯3回」が約3割で最も多いが、「パン1回・米飯4回」、「パン0回・米飯5回」も約2割となっており、米飯を多く望むものが多いものの、回数については、ばらつきがある状況となっている。

副食の量については、生徒では、「多い」と感じているものが約3割、「ちょうどよい」が約3割、「少ない」が約4割となっている。

また、男女別では「多い」は男子が約2割、女子が約5割、「ちょうどよい」は男女共に約3割、「少ない」は男子が約5割、女子が約2割となっている。

全体的に、「多い」「ちょうどよい」「少ない」に分かれているが、特に女子は「多い」と感じる生徒が多い状況となっている。

方式別では、「ちょうどよい」が弁当箱配送、食缶配送は共に約3割となっているが、弁当箱配送の方が「少ない」の割合が多い傾向となっている。

パン(主食)、米飯(主食)、副食の量いずれも、生徒で「多い」「ちょうどよい」「少ない」のばらつきがあると共に、男女間での差が見られる状況となっている。

給食のパン(主食)の量

・単純比較では、生徒は「多い」と「やや多い」を合わせると51.5%、「ちょうどよい」が28.1%、「やや少ない」と「少ない」を合わせると19.4%となっている。

男女別では、「多い」と「やや多い」を合わせると男子が35.7%、女子が67.7%、「ちょうどよい」は男子が32.0%、女子は24.1%、「やや少ない」と「少ない」を合わせると男子が31.3%、女子が7.2%となっている。

	単純比較													
	生徒										教員			
	男子		女子		1学年		2学年		3学年					
多い	23.1%	287	13.0%	82	33.4%	205	27.8%	121	19.9%	84	21.4%	82	5.7%	5
やや多い	28.4%	353	22.7%	143	34.3%	210	32.1%	140	26.5%	112	26.3%	101	21.8%	19
ちょうどよい	28.1%	349	32.0%	201	24.1%	148	25.2%	110	29.9%	126	29.4%	113	35.6%	31
やや少ない	8.4%	104	13.2%	83	3.4%	21	7.6%	33	8.8%	37	8.9%	34	16.1%	14
少ない	11.0%	137	18.1%	114	3.8%	23	6.9%	30	13.5%	57	13.0%	50	11.5%	10
未記入	1.0%	12	1.0%	6	1.0%	6	0.5%	2	1.4%	6	1.0%	4	9.2%	8
有効回答数		1,242		629		613		436		422		384		87

教員…教員から見た生徒の様子

### 給食の米飯(主食)の量

・単純比較では、生徒は「多い」と「やや多い」を合わせると36.3%、「ちょうどよい」が37.6%、「やや少ない」と「少ない」を合わせると25.1%となっている。

男女別では、「多い」と「やや多い」を合わせると男子が18.6%、女子が54.5%、「ちょうどよい」は男子が39.3%、女子が35.9%、「やや少ない」と「少ない」を合わせると男子が41.7%、女子が8.2%となっている。

	単純比較													
	生徒												教員	
	男子		女子		1学年		2学年		3学年					
多い	15.1%	188	5.6%	35	25.0%	153	16.5%	72	13.3%	56	15.6%	60	1.1%	1
やや多い	21.2%	263	13.0%	82	29.5%	181	28.7%	125	18.2%	77	15.9%	61	19.5%	17
ちょうどよい	37.6%	467	39.3%	247	35.9%	220	34.2%	149	38.4%	162	40.6%	156	43.7%	38
やや少ない	10.8%	134	18.3%	115	3.1%	19	9.2%	40	12.3%	52	10.9%	42	18.4%	16
少ない	14.3%	178	23.4%	147	5.1%	31	10.6%	46	16.6%	70	16.1%	62	8.0%	7
未記入	1.0%	12	0.5%	3	1.5%	9	0.9%	4	1.2%	5	0.8%	3	9.2%	8
有効回答数		1,242		629		613		436		422		384		87

教員・・・教員から見た生徒の様子

### 給食のパン・米飯(主食)の適切な回数(1週間)

・単純比較では、生徒は現状の「パン2回・米飯3回」が30.9%で最も多く、次いで「パン0回・米飯5回」の23.8%となっている。

男女別では、男子は「パン2回・米飯3回」が28.6%で最も多く、次いで「パン0回・米飯5回」が27.7%、女子は「パン2回・米飯3回」が33.3%で最も多く、次いで「パン3回・米飯2回」が20.7%となっている。

	単純比較													
	生徒												教員	
	男子		女子		1学年		2学年		3学年					
パン0回・米飯5回	23.8%	295	27.7%	174	19.7%	121	23.4%	102	25.1%	106	22.7%	87	29.5%	26
パン1回・米飯4回	21.6%	268	24.3%	153	18.8%	115	24.5%	107	19.4%	82	20.6%	79	35.2%	31
パン2回・米飯3回	30.9%	384	28.6%	180	33.3%	204	26.1%	114	32.5%	137	34.6%	133	29.5%	26
パン3回・米飯2回	15.8%	196	11.0%	69	20.7%	127	17.2%	75	14.5%	61	15.6%	60	2.3%	2
パン4回・米飯1回	2.4%	30	2.5%	16	2.3%	14	3.2%	14	2.4%	10	1.6%	6	0.0%	0
パン5回・米飯0回	4.6%	57	5.2%	33	3.9%	24	5.3%	23	5.0%	21	3.4%	13	1.1%	1
未記入	1.0%	12	0.6%	4	1.3%	8	0.2%	1	1.2%	5	1.6%	6	2.3%	2
有効回答数		1,242		629		613		436		422		384		88

教員・・・教員から見た生徒の様子

## 給食の副食の量

・単純比較では、生徒は「多い」と「やや多い」を合わせると31.5%、「ちょうどよい」が32.0%、「やや少ない」と「少ない」を合わせると35.4%となっている。

男女別では、「多い」と「やや多い」を合わせると男子が16.3%、女子が47.2%、「ちょうどよい」は男子が30.8%、女子が33.1%、「やや少ない」と「少ない」を合わせると男子が52.1%、女子が18.1%となっている。

・方式別比較では、生徒は「多い」と「やや多い」を合わせると弁当箱配送が28.8%、食缶配送が34.2%、「ちょうどよい」は弁当箱配送が31.6%、食缶配送が32.3%、「やや少ない」と「少ない」を合わせると弁当箱配送が38.4%、食缶配送が32.4%となっている。

	単純比較													
	生徒											教員		
	男子		女子		1学年		2学年		3学年					
多い	12.3%	153	5.2%	33	19.6%	120	16.5%	72	9.5%	40	10.7%	41	0.0%	0
やや多い	19.2%	239	11.1%	70	27.6%	169	27.5%	120	14.2%	60	15.4%	59	6.9%	6
ちょうどよい	32.0%	397	30.8%	194	33.1%	203	31.0%	135	32.0%	135	33.1%	127	24.1%	21
やや少ない	17.9%	222	25.1%	158	10.4%	64	12.4%	54	21.1%	89	20.6%	79	41.4%	36
少ない	17.5%	217	27.0%	170	7.7%	47	12.2%	53	21.6%	91	19.0%	73	21.8%	19
未記入	1.1%	14	0.6%	4	1.6%	10	0.5%	2	1.7%	7	1.3%	5	5.7%	5
有効回答数		1,242		629		613		436		422		384		87

	方式別比較							
	生徒				教員			
	弁当箱配送 (民間)		食缶配送 (民間、親子)		弁当箱配送 (民間)		食缶配送 (民間、親子)	
多い	10.5%	64	14.0%	89	0.0%	0	0.0%	0
やや多い	18.3%	111	20.2%	128	6.7%	3	7.1%	3
ちょうどよい	31.6%	192	32.3%	205	24.4%	11	23.8%	10
やや少ない	18.8%	114	17.0%	108	40.0%	18	42.9%	18
少ない	19.6%	119	15.4%	98	26.7%	12	16.7%	7
未記入	1.2%	7	1.1%	7	2.2%	1	9.5%	4
有効回答数		607		635		45		42

教員・・・教員から見た生徒の様子

(3) 給食時間

給食時間の長さについては、生徒では、「長い」と感じているものが約1割、「ちょうどよい」が約2割、「短い」が約6割となっている。男女別では、「短い」が男子は6割、女子は7割となっており、男女共に「短い」と感じる生徒が多い状況となっている

学校別では、同じ弁当箱配送で、「短い」は給食時間20分の足立中学校が約7割、給食時間25分の熊西中学校が約5割となっており、給食時間の5分の差によって、「短い」の割合に差が生じる状況となっている。

また、同じ食缶配送で同じ給食時間35分の場合も、「短い」が早鞆中学校は約6割、二島中学校は約7割となっており、モデル事業の実施期間の差(早鞆中学校:平成19年度3学期開始 二島中学校:平成20年度1学期開始)による配膳作業への慣れの違いが、「短い」の割合に差が生じる状況となっている。

給食時間の楽しさについては、生徒では、「楽しい」と感じているものが約6割、「楽しくない」が約4割となっている。

「楽しい」理由としては、「皆と会話が弾む」が約7割で最も多く、男女別及び学年別でも同様の傾向となっている。

「楽しくない」理由としては、「おいしくない」が約6割で最も多く、次いで「給食当番が面倒」が約4割となっており、男女別及び学年別でも同様の傾向となっている。

給食時間については、配膳作業に要する時間のほか、「皆と会話が弾む」ことも「短い」と感じる要因になっている状況が見られる。

給食時間の長さ

・単純比較では、生徒は「長い」と「やや長い」を合わせると12.1%、「ちょうどよい」が23.3%、「やや短い」と「短い」を合わせると64.0%となっている。

男女別では、「長い」と「やや長い」を合わせると男子が17.2%、女子が6.8%、「ちょうどよい」は男子が24.2%、女子が22.5%、「やや短い」と「短い」を合わせると男子が58.6%、女子が69.4%となっている。

・学校別比較では、生徒は「長い」と「やや長い」を合わせると給食時間20分の足立中学校が11.4%、給食時間25分の熊西中学校が19.9%、給食時間35分の早鞆中学校が14.9%、給食時間35分の二島中学校が11.5%、「ちょうどよい」は足立中学校が19.9%、熊西中学校が29.2%、早鞆中学校が28.1%、二島中学校が16.8%、「やや短い」と「短い」を合わせると足立中学校が68.4%、熊西中学校が50.8%、早鞆中学校が55.6%、二島中学校が71.3%となっている。

	単純比較													
	生徒												教員	
	男子		女子		1学年		2学年		3学年					
長い	6.7%	83	9.9%	62	3.4%	21	3.2%	14	8.3%	35	8.9%	34	3.4%	3
やや長い	5.4%	67	7.3%	46	3.4%	21	2.8%	12	6.2%	26	7.6%	29	5.7%	5
ちょうどよい	23.3%	290	24.2%	152	22.5%	138	19.3%	84	22.0%	93	29.4%	113	24.1%	21
やや短い	26.0%	323	23.5%	148	28.5%	175	28.2%	123	24.2%	102	25.5%	98	41.4%	36
短い	38.0%	472	35.1%	221	40.9%	251	46.6%	203	39.1%	165	27.1%	104	24.1%	21
未記入	0.6%	7	0.0%	0	1.1%	7	0.0%	0	0.2%	1	1.6%	6	1.1%	1
有効回答数		1,242		629		613		436		422		384		87

教員…教員から見た生徒の様子

	学校別比較															
	生徒								教員							
	足立[20分]弁当箱配送		熊西[25分]弁当箱配送		早鞆[35分]食缶配送		二島[35分]食缶配送		足立[20分]弁当箱配送		熊西[25分]弁当箱配送		早鞆[35分]食缶配送		二島[35分]食缶配送	
長い	7.0%	22	8.9%	26	13.0%	35	7.4%	29	0.0%	0	10.5%	2	0.0%	0	4.5%	1
やや長い	4.4%	14	11.0%	32	1.9%	5	4.1%	16	0.0%	0	15.8%	3	5.0%	1	4.5%	1
ちょうどよい	19.9%	63	29.2%	85	28.1%	76	16.8%	66	42.3%	11	5.3%	1	35.0%	7	9.1%	2
やや短い	28.2%	89	21.6%	63	30.0%	81	22.8%	90	30.8%	8	42.1%	8	50.0%	10	45.5%	10
短い	40.2%	127	29.2%	85	25.6%	69	48.5%	191	26.9%	7	26.3%	5	10.0%	2	31.8%	7
未記入	0.3%	1	0.0%	0	1.5%	4	0.5%	2	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	4.5%	1
有効回答数		316		291		270		394		26		19		20		22

## 給食時間の楽しさ

・単純比較では、「楽しい」と「概ね楽しい」を合わせると58.7%、「あまり楽しくない」と「楽しくない」を合わせると40.9%となっている。

	単純比較											
	生徒											
	男子		女子		1学年		2学年		3学年			
楽しい	22.9%	285	22.9%	144	23.0%	141	35.6%	155	17.3%	73	14.8%	57
概ね楽しい	35.8%	445	35.0%	220	36.7%	225	35.6%	155	37.2%	157	34.6%	133
あまり楽しくない	24.4%	303	23.2%	146	25.6%	157	18.3%	80	24.2%	102	31.5%	121
楽しくない	16.5%	205	18.8%	118	14.2%	87	10.6%	46	21.1%	89	18.2%	70
未記入	0.3%	4	0.2%	1	0.5%	3	0.0%	0	0.2%	1	0.8%	3
有効回答数		1,242		629		613		436		422		384

## 給食時間の楽しさの理由(楽しい理由)

・単純比較では、生徒は「皆と会話が弾む」が74.1%で最も多くなっている。  
男女別では、「皆と会話が弾む」が男子は70.6%、女子は77.6%で最も多くなっている。

	単純比較											
	生徒											
	男子		女子		1学年		2学年		3学年			
おいしい	6.8%	50	11.0%	40	2.7%	10	7.4%	23	6.5%	15	6.3%	12
皆と同じものを食べられる	6.7%	49	6.6%	24	6.8%	25	4.5%	14	6.5%	15	10.5%	20
家で食べられないような料理が食べられる	3.2%	23	3.8%	14	2.5%	9	1.9%	6	4.8%	11	3.2%	6
皆と会話が弾む	74.1%	541	70.6%	257	77.6%	284	81.0%	251	67.4%	155	71.1%	135
お腹が空いている	19.9%	145	23.4%	85	16.4%	60	13.5%	42	27.8%	64	20.5%	39
その他	12.9%	94	11.0%	40	14.8%	54	10.0%	31	15.7%	36	14.2%	27
未記入	1.0%	7	0.5%	2	1.4%	5	1.3%	4	0.9%	2	0.5%	1
有効回答数		730		364		366		310		230		190

## 給食時間の楽しさの理由(楽しくない理由)

・単純比較では、生徒は「おいしくない」が62.4%で最も多く、次いで「給食当番が面倒」が42.7%となっている。

男女別では、「おいしくない」が男子は58.3%、女子は66.8%で最も多く、次いで「給食当番が面倒」が男子は45.1%、女子は40.2%となっている。

	単純比較											
	生徒											
	男子		女子		1学年		2学年		3学年			
おいしくない	62.4%	317	58.3%	154	66.8%	163	55.6%	70	70.2%	134	59.2%	113
量が自分に合わない	32.1%	163	29.2%	77	35.2%	86	28.6%	36	36.6%	70	29.8%	57
食べるのが遅い	12.4%	63	9.1%	24	16.0%	39	10.3%	13	13.6%	26	12.6%	24
給食当番が面倒	42.7%	217	45.1%	119	40.2%	98	32.5%	41	44.0%	84	48.2%	92
お腹が空いていない	3.9%	20	3.0%	8	4.9%	12	6.3%	8	5.2%	10	1.0%	2
その他	33.1%	168	31.1%	82	35.2%	86	34.1%	43	27.7%	53	37.7%	72
未記入	2.4%	12	3.0%	8	1.6%	4	3.2%	4	1.6%	3	2.6%	5
有効回答数		508		264		244		126		191		191



(4) 給食資料(献立表など)の活用度

給食資料への関心については、給食資料(献立表など)を「読む」は、生徒が約4割、保護者が約8割、教員が約7割となっており、生徒については、関心が低い状況となっている。

給食資料の日頃の食生活への活用については、給食資料を「参考になっている」は、生徒が約1割、保護者が約5割、教員が約3割となっており、活用度は低い状況となっている。

給食資料への関心

- ・単純比較では、生徒は「いつも読む」と「時々読む」を合わせると38.6%となっている。
- ・保護者は「いつも読む」と「時々読む」を合わせると82.4%となっている。
- ・教員は「いつも読む」と「時々読む」を合わせると67.8%となっている。

	単純比較															
	生徒												保護者		教員	
	男子		女子		1学年	2学年		3学年								
いつも読む	7.6%	94	8.6%	54	6.5%	40	7.6%	33	8.8%	37	6.3%	24	29.9%	279	23.0%	20
時々読む	31.0%	385	31.8%	200	30.2%	185	33.0%	144	29.9%	126	29.9%	115	52.5%	489	44.8%	39
あまり読まない	23.6%	293	20.8%	131	26.4%	162	22.5%	98	22.0%	93	26.6%	102	12.9%	120	23.0%	20
読まない	36.9%	458	38.0%	239	35.7%	219	36.2%	158	38.2%	161	36.2%	139	4.6%	43	9.2%	8
未記入	1.0%	12	0.8%	5	1.1%	7	0.7%	3	1.2%	5	1.0%	4	0.1%	1	0.0%	0
有効回答数		1,242		629		613		436		422		384		932		87

給食資料の日頃の食生活への活用

- ・単純比較では、生徒は「参考になっている」と「どちらかといえば参考になっている」を合わせると10.2%となっている。
- ・保護者は「参考になっている」と「どちらかといえば参考になっている」を合わせると51.2%となっている。
- ・教員は「参考になっている」と「どちらかといえば参考になっている」を合わせると27.6%となっている。

	単純比較															
	生徒												保護者		教員	
	男子		女子		1学年	2学年		3学年								
参考になっている	2.1%	26	3.3%	21	0.8%	5	2.5%	11	1.7%	7	2.1%	8	8.5%	79	6.9%	6
どちらかといえば参考になっている	8.1%	100	8.4%	53	7.7%	47	10.1%	44	5.2%	22	8.9%	34	42.7%	398	20.7%	18
どちらかといえば参考にしていない	18.5%	230	16.2%	102	20.9%	128	21.8%	95	17.5%	74	15.9%	61	32.9%	307	37.9%	33
参考にしていない	70.2%	872	71.1%	447	69.3%	425	64.0%	279	74.6%	315	72.4%	278	15.2%	142	31.0%	27
未記入	1.1%	14	1.0%	6	1.3%	8	1.6%	7	0.9%	4	0.8%	3	0.6%	6	3.4%	3
有効回答数		1,242		629		613		436		422		384		932		87

(5) 給食による変化

給食実施前と比較した意識の変化については、「特に変化がない」が、生徒が約5割、保護者から見た生徒の様子で約6割、教員から見た生徒の様子で約4割となっている。

一方で、「弁当を作っていた親への感謝の意識が高くなった」といった家庭で調理している人への感謝の意識や、「食事前に空腹感を感じるようになった」、「食事中の会話が弾むようになった」、「嫌いなものが食べられるようになった」など、変化がでている部分も見られる。

給食実施前と比較した親子の会話の機会の変化については、「以前と変わらない」が、生徒及び保護者共に、約8割となっている。

また、生徒は約2割が「会話の機会が減った」と感じているが、一方で、保護者は約1割が「会話の機会が増えた」と感じており、家庭での弁当作りがなくなったことが、親子の会話の機会が減るといったことに必ずしも結びついていない状況が見られる。

給食実施前と比較した意識の変化

・単純比較では、生徒は「特に変化はない」が51.0%で最も多く、次いで「弁当を作っていた親への感謝の意識が高くなった」が19.9%となっている。

保護者から見た生徒の様子は、「特に変化はない」が55.2%で最も多く、次いで「弁当を作っていた親への感謝の意識が高くなった」が21.4%となっている。

教員から見た生徒の様子は、「特に変化はない」が44.8%で最も多く、次いで「弁当を作っていた親への感謝の意識が高くなった」が20.7%となっている。

	単純比較													
	生徒						保護者			教員				
	男子		女子		1学年	2学年	3学年							
特に変化はない	51.0%	411	45.0%	187	57.4%	224	48.6%	205	53.6%	206	55.2%	320	44.8%	39
味付け、栄養バランスへの関心が高くなった	6.1%	49	8.4%	35	3.6%	14	7.3%	31	4.7%	18	6.6%	38	2.3%	2
嫌いなものが食べられるようになった	7.1%	57	8.4%	35	5.6%	22	8.3%	35	5.7%	22	12.4%	72	4.6%	4
食事前に空腹感を感じるようになった	13.6%	110	18.3%	76	8.7%	34	14.7%	62	12.5%	48	15.5%	90	6.9%	6
食材の品質や安全性への関心が高くなった	7.8%	63	9.6%	40	5.9%	23	8.3%	35	7.3%	28	9.3%	54	4.6%	4
自分で調理する機会が増えた	4.0%	32	5.3%	22	2.6%	10	5.0%	21	2.9%	11	4.5%	26	0.0%	0
調理する人、食材への感謝の意識が高くなった	8.3%	67	10.1%	42	6.4%	25	9.2%	39	7.3%	28	3.4%	20	1.1%	1
弁当を作っていた親への感謝の意識が高くなった	19.9%	160	20.7%	86	19.0%	74	21.3%	90	18.2%	70	21.4%	124	20.7%	18
共同作業により協調性が養われた	6.6%	53	6.7%	28	6.4%	25	5.7%	24	7.6%	29	8.3%	48	18.4%	16
食事中の会話が弾むようになった	9.9%	80	11.3%	47	8.5%	33	10.4%	44	9.4%	36	7.1%	41	16.1%	14
伝統食や地元産品への関心が高くなった	4.7%	38	6.5%	27	2.8%	11	5.2%	22	4.2%	16	5.0%	29	1.1%	1
未記入	14.8%	119	16.1%	67	13.3%	52	16.6%	70	12.8%	49	6.2%	36	10.3%	9
有効回答数		806		416		390		422		384		580		87

保護者・・・保護者から見た生徒の様子  
 教員・・・教員から見た生徒の様子

給食実施前と比較した親子の会話の機会の変化

・単純比較では、生徒は「以前と変わらない」が77.8%で最も多くなっている。  
 保護者は、「以前と変わらない」が80.5%で最も多くなっている。

	単純比較												
	生徒						保護者						
			男子		女子		1学年	2学年	3学年				
会話の機会が増えた	5.3%	43	5.3%	22	5.4%	21	/	6.2%	26	4.4%	17	11.9%	69
以前と変わらない	77.8%	627	76.7%	319	79.0%	308		75.8%	320	79.9%	307	80.5%	467
会話の機会が減った	15.0%	121	16.6%	69	13.3%	52		16.1%	68	13.8%	53	3.8%	22
未記入	1.9%	15	1.4%	6	2.3%	9		1.9%	8	1.8%	7	3.8%	22
有効回答数		806		416		390			422		384		580

(6)教育活動への影響

配膳作業の状況については、「円滑にできている」は生徒が約4割、教員から見た生徒の様子で約5割となっており、学年別では、学年が上がるにつれて「円滑にできている」の割合は高い状況となっている。

また、学校別比較では、注ぎ分けを要しない弁当箱配送の学校と、注ぎ分けを要する食缶配送の学校に関わらず、「円滑にできている」の割合にバラツキがあり、注ぎ分けを要することが、配膳作業の状況に必ずしも影響していない状況が見られる。

給食実施前と比較した時間割変更による影響は、「影響はない」もしくは「影響があるが特に問題はない」は生徒が約6割で、保護者から見た生徒の様子で約9割となっており、各学校での時間割の工夫により、生徒及び保護者共に、特に問題となる影響はないと考えているものの割合の方が高くなっている。

なお、「影響がある」とした影響の内容は、昼休みが比較的長い(45分間)場合でも、昼休みの時間への影響が高い割合となっていたり、下校時間の繰下が比較的小さい(5分～10分)場合でも、部活動への影響が高い割合となっており、時間割の変更内容と、変更による影響の内容の関係が明確ではない状況が見られる。

配膳作業の状況(円滑な作業)

・単純比較では、生徒は「できている」と「ほぼできている」を合わせると44.7%となっている。

・学年別では、「できている」と「ほぼできている」を合わせると、1学年が38.3%、2学年が42.2%、3学年が54.6%となっている。

・学校別比較では、生徒は「できている」と「ほぼできている」を合わせると、弁当箱配送の足立中学校が55.0%・熊西中学校が39.2%、食缶配送の早鞆中学校が63.5%・二島中学校が28.9%となっている。

	単純比較													
	生徒												教員	
	男子		女子		1学年		2学年		3学年					
できている	11.1%	138	13.4%	84	8.8%	54	9.9%	43	10.2%	43	13.5%	52	3.4%	3
ほぼできている	33.6%	417	30.8%	194	36.4%	223	28.4%	124	32.0%	135	41.1%	158	44.8%	39
あまりできていない	27.6%	343	22.9%	144	32.5%	199	32.1%	140	26.5%	112	23.7%	91	31.0%	27
できていない	25.3%	314	30.2%	190	20.2%	124	24.1%	105	30.6%	129	20.8%	80	20.7%	18
未記入	2.4%	30	2.7%	17	2.1%	13	5.5%	24	0.7%	3	0.8%	3	0.0%	0
有効回答数		1,242		629		613		436		422		384		87

	学校別比較															
	生徒								教員							
	足立 弁当箱配送		熊西 弁当箱配送		早鞆 食缶配送		二島 食缶配送		足立 弁当箱配送		熊西 弁当箱配送		早鞆 食缶配送		二島 食缶配送	
できている	16.1%	51	7.6%	22	15.4%	37	7.1%	28	11.5%	3	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
ほぼできている	38.9%	123	31.6%	92	48.1%	116	21.8%	86	50.0%	13	36.8%	7	75.0%	15	18.2%	4
あまりできていない	24.1%	76	32.0%	93	24.1%	58	29.4%	116	23.1%	6	36.8%	7	15.0%	3	50.0%	11
できていない	19.0%	60	25.1%	73	9.1%	22	40.4%	159	15.4%	4	26.3%	5	10.0%	2	31.8%	7
未記入	1.9%	6	3.8%	11	3.3%	8	1.3%	5	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
有効回答数		316		291		241		394		26		19		20		22

教員・・・教員から見た生徒の様子

給食実施前と比較した時間割変更による影響

・単純比較では、生徒は「影響がある」は39.3%、「影響があるが特に問題はない」と「影響はない」を合わせると59.3%となっている。

保護者から見た生徒の様子は、「影響がある」は9.0%、「影響があるが特に問題はない」と「影響はない」を合わせると87.5%となっている。

・学校別比較では、生徒は「影響がある」は、足立中学校が25.6%、熊西中学校が50.3%、早鞆中学校が32.1%、二島中学校が50.0%、「影響があるが特に問題はない」と「影響はない」を合わせると、足立中学校が72.5%、熊西中学校が49.2%、早鞆中学校が66.6%、二島中学校が48.3%となっている。

保護者から見た生徒の様子は、「影響がある」は、足立中学校が9.2%、熊西中学校が11.0%、早鞆中学校が7.8%、二島中学校が7.0%、「影響があるが特に問題はない」と「影響はない」を合わせると、足立中学校が88.7%、熊西中学校が85.1%、早鞆中学校が89.1%、二島中学校が88.4%となっている。

	単純比較											
	生徒						保護者					
	男子		女子		1学年	2学年	3学年					
影響がある	39.3%	317	41.3%	172	37.2%	145	37.7%	159	41.1%	158	9.0%	52
影響があるが特に問題はない	25.9%	209	24.8%	103	27.2%	106	27.7%	117	24.0%	92	15.3%	89
影響はない	33.4%	269	32.2%	134	34.6%	135	33.2%	140	33.6%	129	72.2%	419
未記入	1.4%	11	1.7%	7	1.0%	4	1.4%	6	1.3%	5	3.4%	20
有効回答数		806		416		390		422		384		580

	学校別比較															
	生徒								保護者							
	足立 【昼休25分 間・下校 10分繰上】 弁当箱配送	熊西 【昼休45分 間・下校 20分繰下】 弁当箱配送	早鞆 【昼休25分 間・下校 10分繰下】 食缶配送	二島 【昼休45分 間・下校 5分繰下】 食缶配送	足立 【昼休25分 間・下校 10分繰上】 弁当箱配送	熊西 【昼休45分 間・下校 20分繰下】 弁当箱配送	早鞆 【昼休25分 間・下校 10分繰下】 食缶配送	二島 【昼休45分 間・下校 5分繰下】 食缶配送								
影響がある	25.6%	53	50.3%	97	32.1%	26	50.0%	60	9.2%	13	11.0%	20	7.8%	10	7.0%	9
影響があるが特に問題はない	23.7%	49	23.8%	46	25.9%	21	25.8%	31	14.9%	21	20.3%	37	10.2%	13	14.0%	18
影響はない	48.8%	101	25.4%	49	40.7%	33	22.5%	27	73.8%	104	64.8%	118	78.9%	101	74.4%	96
未記入	1.9%	4	0.5%	1	1.2%	1	1.7%	2	2.1%	3	3.8%	7	3.1%	4	4.7%	6
有効回答数		207		193		81		120		141		182		128		129

保護者・・・保護者から見た生徒の様子

時間割変更による影響の内容

・単純比較では、生徒は「昼休みの時間」が70.3%と最も多く、次いで「部活動の時間」が59.8%となっている。

保護者から見た生徒の様子は、「昼休みの時間」と「部活動の時間」が44.2%で最も多くなっている。

・学校別比較では、生徒は足立中学校が「昼休みの時間」が92.5%、熊西中学校が「部活動の時間」が62.9%、早鞆中学校が「部活動の時間」が74.1%、二島中学校が「昼休みの時間」が65.1%で最も多くなっている。

保護者から見た生徒の様子は、足立中学校が「昼休みの時間」が92.3%、熊西中学校が「部活動の時間」が60.0%、早鞆中学校が「部活動の時間」が60.0%、二島中学校が「部活動の時間」が44.4%で最も多くなっている。

	単純比較											
	生徒						保護者					
	男子		女子		1学年	2学年	3学年					
昼休みの時間	70.3%	182	64.4%	94	77.9%	88	71.8%	94	68.8%	88	44.2%	23
委員会活動や係活動の時間	12.7%	33	11.6%	17	14.2%	16	8.4%	11	17.2%	22	17.3%	9
部活動の時間	59.8%	155	64.4%	94	54.0%	61	55.0%	72	64.8%	83	44.2%	23
塾や習い事の時間	36.3%	94	37.0%	54	35.4%	40	28.2%	37	44.5%	57	30.8%	16
家庭での学習の時間	23.2%	60	26.0%	38	19.5%	22	19.8%	26	26.6%	34	1.9%	1
家庭で本を読む時間	16.2%	42	19.2%	28	12.4%	14	16.8%	22	15.6%	20	1.9%	1
家庭でマンガを読む時間	19.7%	51	24.0%	35	14.2%	16	18.3%	24	21.1%	27	3.8%	2
家庭でTVやビデオ、DVDを見る時間	24.7%	64	28.1%	41	20.4%	23	23.7%	31	25.8%	33	1.9%	1
家庭でゲームをする時間	23.2%	60	31.5%	46	12.4%	14	22.1%	29	24.2%	31	1.9%	1
その他	27.4%	71	28.1%	41	26.5%	30	29.8%	39	25.0%	32	23.1%	12
未記入	0.4%	1	0.7%	1	0.0%	0	0.0%	0	0.8%	1	0.0%	0
有効回答数		259		146		113		131		128		52

	学校別比較															
	生徒						保護者									
	足立 【昼休25分 間・下校 10分繰上】 弁当箱配送	熊西 【昼休45分 間・下校 20分繰下】 弁当箱配送	早鞆 【昼休25分 間・下校 10分繰下】 食缶配送	二島 【昼休45分 間・下校 5分繰下】 食缶配送	足立 【昼休25分 間・下校 10分繰上】 弁当箱配送	熊西 【昼休45分 間・下校 20分繰下】 弁当箱配送	早鞆 【昼休25分 間・下校 10分繰下】 食缶配送	二島 【昼休45分 間・下校 5分繰下】 食缶配送								
昼休みの時間	92.5%	49	36.1%	35	46.6%	27	65.1%	71	92.3%	12	30.0%	6	30.0%	3	22.2%	2
委員会活動や係活動の時間	7.5%	4	11.3%	11	12.1%	7	10.1%	11	7.7%	1	15.0%	3	30.0%	3	22.2%	2
部活動の時間	9.4%	5	62.9%	61	74.1%	43	42.2%	46	7.7%	1	60.0%	12	60.0%	6	44.4%	4
塾や習い事の時間	3.8%	2	37.1%	36	29.3%	17	35.8%	39	0.0%	0	55.0%	11	30.0%	3	22.2%	2
家庭での学習の時間	9.4%	5	28.9%	28	17.2%	10	15.6%	17	0.0%	0	0.0%	0	10.0%	1	0.0%	0
家庭で本を読む時間	7.5%	4	21.6%	21	8.6%	5	11.0%	12	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	11.1%	1
家庭でマンガを読む時間	5.7%	3	22.7%	22	19.0%	11	13.8%	15	0.0%	0	0.0%	0	10.0%	1	11.1%	1
家庭でTVやビデオ、DVDを見る時間	5.7%	3	32.0%	31	13.8%	8	20.2%	22	0.0%	0	0.0%	0	10.0%	1	0.0%	0
家庭でゲームをする時間	5.7%	3	26.8%	26	19.0%	11	18.3%	20	0.0%	0	0.0%	0	10.0%	1	0.0%	0
その他	9.4%	5	18.6%	18	29.3%	17	28.4%	31	30.8%	4	15.0%	3	20.0%	2	33.3%	3
未記入	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.9%	1	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
有効回答数		53		97		58		109		13		20		10		9

保護者・・・保護者から見た生徒の様子

(7) 学校の実施体制

学校の実施体制については、教員は「課題がある」と感じているものが約9割であり、その課題の内容は、「給食時間の給食指導の負担が大きい」が約8割で、次いで「休憩時間がとりにくい」が約7割となっており、学校別比較でも、いずれの学校も、「給食時間の給食指導の負担が大きい」、「休憩時間がとりにくい」の割合が高い状況となっている。

また、下校時間の繰下が比較的大きい(20分)学校は、「職員会議等の時間がとりにくい」の割合も高くなっている。

給食指導の負担及び休憩時間の問題については、方式及び時間割の変更内容に関わらず、各学校共通の課題として高い割合となっている。

給食実施前と比較した学校の実施体制の課題

・単純比較では、教員は「課題がある」が85.1%となっている。

	単純比較	
	教員	
ある	85.1%	74
ない	13.8%	12
未記入	1.1%	1
有効回答数		87

給食実施前と比較した学校の実施体制の課題の内容

・単純比較では、教員は「給食時間の給食指導の負担が大きい」が83.8%で最も多く、次いで「休憩時間がとりにくい」が71.6%となっている。

・学校別比較では、「給食時間の給食指導の負担が大きい」が、足立中学校が90.0%、熊西中学校が83.3%、早鞆中学校が70.6%、二島中学校が89.5%で最も多くなっており、次いで「休憩時間がとりにくい」が、足立中学校が65.0%、熊西中学校が77.8%、早鞆中学校が70.6%、二島中学校が73.7%となっている。

また、下校時間が20分繰下の熊西中学校は、「職員会議等の時間がとりにくい」も72.2%と高い割合になっている。

	単純比較		学校別比較							
			教員							
			足立 弁当箱配送		熊西 弁当箱配送		早鞆 食缶配送		二島 食缶配送	
給食時間の給食指導の負担が大きい	83.8%	62	90.0%	18	83.3%	15	70.6%	12	89.5%	17
給食費滞納への対応の負担が大きい	23.0%	17	25.0%	5	11.1%	2	41.2%	7	15.8%	3
給食の事務処理の負担が大きい	17.6%	13	20.0%	4	11.1%	2	17.6%	3	21.1%	4
休憩時間がとりにくい	71.6%	53	65.0%	13	77.8%	14	70.6%	12	73.7%	14
職員会議等の時間がとりにくい	41.9%	31	5.0%	1	72.2%	13	35.3%	6	57.9%	11
教材準備や事務処理の時間がとりにくい	33.8%	25	35.0%	7	22.2%	4	41.2%	7	36.8%	7
生徒と触れ合う時間がとりにくい	13.5%	10	15.0%	3	5.6%	1	17.6%	3	15.8%	3
その他	5.4%	4	10.0%	2	11.1%	2	0.0%	0	0.0%	0
未記入	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
有効回答数		74		20		18		17		19

(8) 給食の必要性

給食の必要性については、「必要」は、生徒が約1割、保護者が約7割、教員が約1割となっており、評価が分かれている状況となっている。

また、「必要」とする7割の保護者のうち、約6割が「経費がかからない方法で必要」となっている。

必要とする理由については、生徒、保護者、教員共に、「バランスよく栄養がとれる」が最も多く、次いで「家庭の弁当作りの負担が軽減される」となっており、食育と子育て支援の両方の観点から給食を捉えている状況が見られる。

必要ないとする理由については、生徒、保護者が「おいしくない」、教員は「量が合わない」が最も多く、次いで「給食実施前の方法(家庭の弁当、学校での弁当・パン販売から選択する方法)の方がよい」となっており、給食の味や量に関する問題が、給食実施前の方法を求める大きな要因になっている状況が見られる。

給食の必要性

・単純比較では、生徒は「必要」が11.5%、保護者は「いくら経費がかかっても必要」と「経費がかからない方法で必要」を合わせると71.0%、教員は「いくら経費がかかっても必要」と「経費がかからない方法で必要」を合わせると9.1%となっている。

	単純比較															
	生徒												保護者		教員	
	男子		女子		1学年		2学年		3学年							
いくら経費がかかっても必要	11.5%	143	13.5%	85	9.5%	58	15.1%	66	9.7%	41	9.4%	36	15.0%	140	1.1%	1
経費がかからない方法で必要													56.0%	522	8.0%	7
必要ない	55.2%	685	53.4%	336	56.9%	349	48.4%	211	61.1%	258	56.3%	216	13.9%	130	75.9%	66
わからない	31.6%	393	31.2%	196	32.1%	197	34.2%	149	27.5%	116	33.3%	128	13.1%	122	14.9%	13
未記入	1.7%	21	1.9%	12	1.5%	9	2.3%	10	1.7%	7	1.0%	4	1.9%	18	0.0%	0
有効回答数		1,242		629		613		436		422		384		932		87



給食の必要性の理由(必要の理由)

・単純比較では、生徒は「バランスよく栄養がとれる」が56.6%で最も多く、次いで「家庭の弁当作りの負担が軽減される」が51.7%となっている。

保護者は「バランスよく栄養がとれる」が90.3%で最も多く、次いで「家庭の弁当作りの負担が軽減される」が64.2%となっている。

教員は「バランスよく栄養がとれる」が87.5%で最も多く、次いで「家庭の弁当作りの負担が軽減される」が75.0%となっている。

	単純比較															
	生徒											保護者		教員		
	男子		女子		1学年	2学年	3学年									
おいしい	25.9%	37	32.9%	28	15.5%	9	24.2%	16	29.3%	12	25.0%	9	2.1%	14	0.0%	0
バランスよく栄養がとれる	56.6%	81	52.9%	45	62.1%	36	62.1%	41	43.9%	18	61.1%	22	90.3%	598	87.5%	7
望ましい食習慣が身につく	23.1%	33	20.0%	17	27.6%	16	16.7%	11	26.8%	11	30.6%	11	28.1%	186	37.5%	3
同じ食事を食べることで会話が弾む	9.8%	14	8.2%	7	12.1%	7	9.1%	6	9.8%	4	11.1%	4	15.7%	104	12.5%	1
共同作業により協調性が養われる	7.7%	11	9.4%	8	5.2%	3	3.0%	2	12.2%	5	11.1%	4	21.1%	140	0.0%	0
衛生面で安心	8.4%	12	10.6%	9	5.2%	3	0.0%	0	12.2%	5	19.4%	7	27.5%	182	0.0%	0
家庭の弁当作りの負担が軽減される	51.7%	74	44.7%	38	62.1%	36	36.4%	24	73.2%	30	55.6%	20	64.2%	425	75.0%	6
その他	15.4%	22	15.3%	13	15.5%	9	13.6%	9	17.1%	7	16.7%	6	3.3%	22	0.0%	0
未記入	0.7%	1	0.0%	0	1.7%	1	0.0%	0	2.4%	1	0.0%	0	0.6%	4	0.0%	0
有効回答数		143		85		58		66		41		36		662		8

給食の必要性の理由(必要ない理由)

・単純比較では、生徒は「おいしくない」が76.4%で最も多く、次いで「給食実施前の方法の方がよい」が63.2%となっている。

保護者は「おいしくない」が60.8%で最も多く、次いで「給食実施前の方法の方がよい」が53.8%となっている。

教員は「量が合わない」が69.7%で最も多く、次いで「給食実施前の方法の方がよい」が40.9%となっている。

	単純比較															
	生徒											保護者		教員		
	男子		女子		1学年	2学年	3学年									
おいしくない	76.4%	523	74.1%	249	78.5%	274	69.2%	146	84.9%	219	73.1%	158	60.8%	79	16.7%	11
量が合わない	32.7%	224	31.8%	107	33.5%	117	28.4%	60	32.6%	84	37.0%	80	56.2%	73	69.7%	46
弁当を通した親子の会話の機会が減る	16.6%	114	16.4%	55	16.9%	59	17.5%	37	17.1%	44	15.3%	33	18.5%	24	33.3%	22
生徒にとって時間割変更の影響がある	24.1%	165	25.3%	85	22.9%	80	13.7%	29	23.3%	60	35.2%	76	11.5%	15	30.3%	20
給食実施前の方法の方がよい	63.2%	433	56.5%	190	69.6%	243	52.1%	110	69.8%	180	66.2%	143	53.8%	70	40.9%	27
給食当番が面倒	38.5%	264	42.9%	144	34.4%	120	33.2%	70	41.1%	106	40.7%	88				
給食費滞納の問題が発生する													36.2%	47	21.2%	14
施設整備や運営の経費がかかる													11.5%	15	19.7%	13
教員にとって新たな業務負担が大きい															37.9%	25
教員にとって時間割変更の影響が大きい															30.3%	20
その他	5.8%	40	6.5%	22	5.2%	18	9.5%	20	3.5%	9	5.1%	11	10.0%	13	6.1%	4
未記入	0.7%	5	0.9%	3	0.6%	2	1.4%	3	0.4%	1	0.5%	1	0.0%	0	1.5%	1
有効回答数		685		336		349		211		258		216		130		66

中学校完全給食モデル事業 北九州市食育推進会議のモデル実施状況視察  
(平成19年度3学期)における委員の主な意見・感想

	熊西中学校	足立中学校	早鞆中学校
1 視察日	2月21日	3月10日	3月19日
2 視察人員	11名	10名	12名
3 視察委員主な意見・感想			
(1) 給食の実施状況			
味・量・給食時間 給食資料の活用度	<ul style="list-style-type: none"> <li>塩分量に関しては薄味を覚えさせる食育の効果が期待できる。味は生徒からは薄いという声が多いが、小学校給食と変わらないと感じた。家庭での味付けが濃くなっていると予想される。</li> <li>量は女子には多めだが、男子には足りず、補食としてパンやおにぎりの持参が目立つ。量は個人差があり調整が課題。</li> <li>主食はパンよりもご飯を求める声があがっている。パン食の献立は副食が難しく、量も少ない。</li> <li>弁当持参の方がよいと言っていた生徒が給食の方がよいと言えるような献立と量にしてもらいたい。</li> <li>献立に季節感がほしい。</li> <li>スープは保温容器にも関わらず冷めており、温度管理をもう少し工夫してほしい。</li> <li>他都市の弁当給食と比較して弁当が冷えきってなく、汁物は7月の他都市視察よりも冷めていたが、寒い教室では体が温まる。</li> <li>給食時間と昼休みをもう少し短縮してもよいのではないかと。</li> <li>食事を会話と共に楽しんでいることで時間がかかり、昼休みが少なくなっている面がある。</li> <li>献立表の活用については、食べることが先で、活用度は低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>味が薄いと感じる生徒もいるが、おいしくないとは思えない。</li> <li>減塩なのはわかるが、食べなければ意味がない。</li> <li>味付けが小学校給食のままで、少し辛みがあっても良いと思う。</li> <li>生徒は小学校給食のほうがおいしかったと言っている。</li> <li>ご飯はおいしいとの意見が多かった。</li> <li>味付けが画一的で変化がない。</li> <li>おやつではなく、食事で行事食の特色を出す工夫がほしい。</li> <li>味、量に対する評価は生徒により様々である。</li> <li>男子は量が足りず、女子は量が多いという声が多く、家庭の弁当が良いとの声も聞かれた。</li> <li>量がどの子も同じなのは問題がある。</li> <li>量は個人差が多いため、現状が適当と思う。</li> <li>弁当箱は量の調節ができにくそうだ。</li> <li>自分の給食以外は他人のものをもらわない決まりのようだが、生徒間で量が調節できると、残食も減るのではないかと。</li> <li>残食はほとんどなかったように思う。</li> <li>給食に異物混入の事例が数件あり、対策が必要と思う。</li> <li>給食時間は少し短く感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は薄い味を望んでいたが、この程度がよいと思う。</li> <li>味付けにパンチがない。</li> <li>薄味に慣れさせるためには、かなりの期間と努力が必要である。献立なども何か工夫できないか。</li> <li>給食は「おいしい」と答える生徒がほとんどである。</li> <li>米飯の臭気を気にする生徒がいた。</li> <li>主食のご飯量は十分にあったと感じるが、今ひとつ米本来のおいしさが感じられなかった。</li> <li>委託のメリットを活かし、もう少し複雑な献立を作ってもいいのではないかと。</li> <li>量は個人差があるが、ご飯の量が調整できるとよい。</li> <li>一部男子生徒は給食の量が少ないと、家からおにぎりやパンを持ってきていた。</li> <li>煮物と煮物の組み合わせでは生徒にとっては、ボリュームが少なく空腹感があると思う。</li> <li>量は適当と思う。</li> <li>残食は想像していたよりも少なかった。</li> <li>給食時間は適切と思う。</li> </ul>

中学校完全給食モデル事業 北九州市食育推進会議のモデル実施状況視察  
(平成19年度3学期)における委員の主な意見・感想

		熊西中学校	足立中学校	早鞆中学校
	味・量・給食時間 給食資料の活用度		・生徒指導上の問題から時間内に食べることに終始し、給食資料の活用等までは至ってない様子だった。	・給食資料の活用までとはとても手が回らず、献立表、サンプルケース等の活用がなされていない。
	配送状況	・配送は遅れ等なく、順調に実施されている。 ・事故等で生徒に給食が提供できない場合の対応が必要。	・配送の遅れはなく、特に問題は見られない。 ・学校到着後の作業に時間がかかっている。	・雪の日も遅れることなく配送され、大きな事故もなく運営されている。
(2) 食育上の効果				
	食育の意識 朝食の状況 日頃の食生活 日頃の体調 健康への意識 家庭の生活リズム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼食に関しての親子の会話は増えているようだ。</li> <li>・「給食になったことで、朝の弁当作りのためのご飯を炊く必要がなくなった。朝食はパンが多くなった。朝寝ていて登校を見送ってくれない」という生徒の話があり、母親が手を抜き、家庭の教育力の低下に結びつかないか心配。</li> <li>・給食で親子の会話が減ったり、朝食を準備しなくなったりすることを考えれば、家庭へどう働きかけるかが課題。</li> <li>・給食で親が弁当作りのため早起しなくなった極端な例が報告されたが、原因については軽々に論じられない。家庭に対する食育の必要性を醸成する時間をかけないと、短期間で論じることは難しい。</li> <li>・家庭での生活習慣の乱れから体調不良を訴える生徒が多くなっている現実を見過ごすことはできず、食習慣と生活習慣の改善を行うことが今後の課題で、家庭への対応が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が食育について知ることと、態度で示すこととは乖離がある。生徒はわかっているが、しない、できない状況があるのではないかと。</li> <li>・生徒の中には食育を意識した生徒もいるようで、バランスよく食べることの大切さを親子共々感じているはずである。</li> <li>・食育意識は家庭による差が大きいように思われ、力を入れる必要がある。</li> <li>・欠食率は高いと予想されるが、給食をしたからといってこの率は低くない。</li> <li>・朝食を欠食している生徒は「眠いから」と言っていた。生徒のリズムが乱れているようだ。</li> <li>・睡眠時間の確保、朝食を十分に摂ることから生徒指導は学校、家庭が協力しないと改善は困難である。</li> <li>・家庭での生活リズムは、給食をしたからといって、家庭の健康意識を変えることに本当につながるとは思えない。</li> <li>・生徒の中には食事のマナーを無視する生徒が目立った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食の量が足りないという生徒が、帰宅から夕食までに間食、または、夕食の量を増やし、カロリー摂取しすぎている状況にある。</li> <li>・食欲に応じて家庭から補助食としておにぎりを所持させる等の関心はあるが、食育の観点から、子に必要な栄養量について関心を示して適切に対応しているかについては疑問。</li> <li>・親の偏食が子供の偏食に影響している。</li> <li>・薄味に慣れさせるためには家庭の教育が欠かせない。</li> <li>・給食で嫌いな物がでた場合、手をつけず人に渡している状況があり、給食で偏食は治りそうにない気がした。</li> <li>・偏食や食事のマナー等については栄養士等を招いて計画的に指導していくことが大切。</li> <li>・教科、特別活動等と連携して家庭と共通理解を図りながら指導していくことが大切。</li> <li>・健康への意識化は、計画的、組織的に取り組むことが重要。</li> </ul>

中学校完全給食モデル事業 北九州市食育推進会議のモデル実施状況視察  
(平成19年度3学期)における委員の主な意見・感想

	熊西中学校	足立中学校	早鞆中学校
食育の意識 朝食の状況 日頃の食生活 日頃の体調 健康への意識 家庭の生活リズム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視察で十分検証はできず、今後アンケート等での検証が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での健康的な生活リズムの確保が必要。</li> <li>・視察で十分検証はできず、今後アンケート等での検証が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食を機に、昼食についての関心は高まったと感じる。</li> <li>・給食が生活リズム作りに役立ちつつある感じを受けた。</li> <li>・時間をかけないと評価は難しい。</li> <li>・視察で十分検証はできず、今後アンケート等での検証が必要。</li> </ul>
(3) 教育活動への影響			
下校時間への影響 部活動の時間への影響 職員会議等の時間への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下校時間の繰り下がりによる塾や家庭生活、部活動、職員会議への影響はあると考えられる。</li> <li>・下校時間や部活動開始時間が遅くなることへの不満は聞かれなかった。</li> <li>・20分繰り下がることで支障がでるとは思われない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル実施前と校時設定は変わっていないので、下校時間や部活動への影響はないと思われる。</li> <li>・特に影響が出ているとは思えない。部活動も会議もそれなりの工夫で克服できるようだ。</li> <li>・時間の変更はないため、生徒の下校や部活動への影響はないようだが、昼休みに図書室を利用できなくなっている。</li> <li>・昼休みが短くなり、昼休みに図書館を利用していた生徒、委員会活動をしていた生徒など、昼休み活動ができなくなっている。</li> <li>・休憩時間があつてないようなもの。当然、職員会議等は時間外になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時程の変更を少ない範囲におさえ、給食導入がスムーズに行われているように工夫していた。</li> <li>・初めてのことなので、教育活動への影響はあると思われる。</li> <li>・部活動の時間確保が問題は、中学校における部活動の捉えをどのように考えるかの理念をもつことが大切と感じた。</li> </ul>
配膳作業の状況 生徒指導上の問題発生状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配膳、運搬、片付け等については、生徒の積極性と団結力が感じられ、協力してスムーズに行われていた。</li> <li>・給食に関して生徒間のトラブルは見られない。</li> <li>・4校時終了から配膳室に来るまでに予想以上の時間がかかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特にトラブルは見られなかった。</li> <li>・教室でも、生徒は協力し配膳作業を行っていた。配膳に関わる生徒指導はなかったようだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配膳作業は協同して円滑に行われている状況。学校としては給食当番等に関するトラブルには細心の注意を払い指導しているとのこと、今のところ大きな問題はない。</li> </ul>

中学校完全給食モデル事業 北九州市食育推進会議のモデル実施状況視察  
(平成19年度3学期)における委員の主な意見・感想

	熊西中学校	足立中学校	早鞆中学校
配膳作業の状況 生徒指導上の問題発生状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室での給食に関わる指導や配膳室での指導、「給食係」に対する指導等、教員が生徒指導に努力している。</li> <li>・生徒が給食を運ぶ際に転倒等の危険性はある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は配膳作業にも慣れて、比較的スムーズに行われていた。しかし、給食当番をする子としない子があり、生徒指導の難しい現状が伺えた。</li> <li>・2年生のクラスでは教員が給食時間中、特定の生徒を追いかけて食事もできないようだったが、これは弁当では見られないことだったのだろうか。</li> <li>・生徒が運ぶ際に転倒はこれまであったらしいが問題はなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員や生徒が感じている以上に、協調性が培われているように思われる。</li> <li>・嗜好がはっきりしているため、配分量や生徒間の譲り合いについては適切な指導がいて感じた。</li> <li>・教室に配膳用台を置かず、廊下で配膳作業をしているクラスもあり、教室の広さと生徒数の関連もあるだろうが、衛生面からも改善できるのであれば改善策が必要と感じた。</li> </ul>
(4) 学校の実施体制			
給食運営に関する学校の実施体制の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施体制に支障はないと感じた。</li> <li>・給食費未納問題は起きていないとのことだが、今後起こる可能性もあり、給食費未納を学校だけの責任として学校任せに徴収業務を行うのではなく、市教委として学校を支える体制が必要と感じた。</li> <li>・給食指導の時間が入り、教職員の休憩時間の確保はほとんどできず、明らかにオーバーワーク状態であり、教員の健康面が心配。学校には、もう少し教員を増やすべきではないか。</li> <li>・4時間目が終了しても、教員は休む間もなく「給食指導」に入らなければならず、授業終了後に行う各教科の用具の整理や生徒の評価を行う時間が取れない状況であると感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食費未納問題は起きていないとのことだが、今後起こる可能性もあり、給食費未納を学校だけの責任として学校任せに徴収業務を行うのではなく、市教委として学校を支える体制が必要と感じた。</li> <li>・日常の業務に給食指導の時間が入り、教職員は休憩時間もとれていない。教職員の昼食は3時や4時になることも、昼食を食べられないこともあるとのこと。明らかにオーバーワーク状態であり、解決策を提示しなければならぬと感じた。</li> <li>・教員がつきっきりの指導のため、給食時間内に副任の教員が給食を食べることができず、弁当持参で3時や4時に食べているが、担任以外も教室と一緒に給食を食べてもいいのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後起こりうる給食費未納問題に対しては、学校だけの責任とせず、北九州市や市教委が学校を支える体制が必要と感じた。</li> <li>・日常の業務に給食指導の時間が入り、教職員は休憩時間もとれていないと感じた。</li> <li>・4時間目が終了しても、教員は休む間もなく「給食指導」に入らなければならず、授業終了後に行う各教科の用具の整理や生徒の評価を行う時間が取れない状況であると感じた。</li> <li>・給食が入り教員の負担が増えたと言っていた。3学期は3年生の入試の関係で給食人員の変更が多く、「給食に関わる事務」が煩雑で大変であり、教頭や事務職員に負担がきていると言われていた。教員を増やすなどの改善策を提示していく必要があると感じた。</li> </ul>

中学校完全給食モデル事業 北九州市食育推進会議のモデル実施状況視察  
 (平成19年度3学期)における委員の主な意見・感想

	熊西中学校	足立中学校	早鞆中学校
給食運営に関する学校の実施体制の状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>・4時間目が終了しても、教員は休む間もなく「給食指導」に入らなければならず、授業終了後に行う各教科の用具の整理や生徒の評価を行う時間が取れない状況であると感じた。</li> <li>・「給食が入り、教員の負担が増えた。特に3学期は3年生の入試の関係で給食人員の変更が多く、「給食に関わる事務」が煩雑で大変である」といわれていた。市教委から改善策を提示していく必要があると感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食に伴い、生徒指導も増える。現在は教員のマンパワーに頼っているといわれ、教員の負担の大きさが伺えた。</li> </ul>
(5)給食全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に落ち着いた雰囲気の中で、給食はスムーズに導入されていた。</li> <li>・時間がかかる以外は大きな問題はないように思える。</li> <li>・生徒の給食に対する満足度にはバラつきがあるようである。</li> <li>・給食が始まったことで家庭の生活リズムが悪い方へ変化するならば、食育のための給食と言えるのか疑問。</li> <li>・給食で、弁当を隠しながら食べる生徒がいなくなった、不登校生徒が昼食時間に学校に来るようになった、昼食時の会話が増えたという面が見られた。</li> <li>・子供達のために「給食を実施し、子供達の健康を守る」という姿勢が全教員から感じられた。</li> <li>・心配されていた「給食時間の生徒指導」や「部活動への影響」はないようである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食を妨害するなどの行為はなかったが、楽しい給食時間という雰囲気ではなかったのは残念に感じた。</li> <li>・教員が自らの休憩時間を裂いて指導に当たっている様子を見て、食育上の効果まで期待するのはかなり大変な気がした。</li> <li>・何事もなく時間内に給食を食べることに終始し、給食の取り合いや生徒間のトラブル防止のため、欠席生徒の弁当をそのまま廃棄している現状を見ても、問題は多い様子が伺えた。</li> <li>・親子のコミュニケーション等も含め、お弁当が良いという生徒が増えている傾向にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた雰囲気の中で給食が運営されていた。しかし、配膳等も活発になされ楽しそうに給食を食べているようではあるが、生徒は口々に「お弁当が良い」といっている。その原因をきちんと把握する必要がある。</li> <li>・生徒個人の好き嫌いの為か、家庭の味つけと違う為か、皆、楽しく給食を食べているにもかかわらず、弁当の方が良いという生徒の声が多かった。</li> <li>・生徒の評判は悪く、ほとんどの生徒が弁当を希望していたが、理由は好きな物だけ食べられるというものだった。</li> </ul>

中学校完全給食モデル事業 北九州市食育推進会議のモデル実施状況視察  
 (平成19年度3学期)における委員の主な意見・感想

熊西中学校	足立中学校	早鞆中学校
<ul style="list-style-type: none"> <li>・あるクラスでは机の向きもバラバラでまとまりがなかった。折角同じものを食べているのだから、もっと楽しく食事ができるようにしてもらいたい。</li> <li>・教員が交代で配膳室での指導などで手がかかり、食育までは時間がとれないようであったが、視察先の他都市でも同じ状況であった。</li> <li>・給食時間が食育の時間とはまだ言い難く、慣れれば校内放送を使っただけの指導や家庭科教諭との連携なども可能かもしれない。</li> <li>・補食は個人的な事情(朝食抜き、体が大きい、体育会系の部活動に属している等)なのか、本人の嗜好・食習慣なのかを把握した指導が必要ではないか。</li> <li>・中国餃子の問題のように、農薬等が混入した場合のリスクは大変大きい。食材は抜き打ち検査ではなく、毎日確実な検査が必要と感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弁当を持参している生徒がおり、全員が給食を取っていないのが残念だ。親の作ってくれる弁当がおいしいからという理由だったが、野菜の入っていない弁当では、バランスが取れてなく、子供の好き嫌が多く、弁当を持参しているのではと感じさせられる。</li> <li>・家庭の弁当よりも給食の方が良いと言っていた。</li> <li>・心配されていた「給食時間の生徒指導」や「部活動への影響」はないようである。</li> <li>・食育は教育の基本であるという意識は希薄である。主要教科の点数にはこだわるが、昼食を含め食事は食べさえすればよいという考えが、学校・家庭に充満しているようだ。</li> <li>・不登校の生徒が給食を食べに登校するようになった。</li> <li>・学校によっては、給食指導の教員の負担が大きいことを実感した。食缶から生徒が注ぎ分ける方式だとその負担は今以上に大きいことが容易に予想される。</li> <li>・学校の状況から弁当箱での給食しかできないように感じた。</li> <li>・栄養士は、食育、安全、美味しい視点の下に、メニューの作成、業者への指導を強化して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心配されていた「給食時間の生徒指導」や「部活動への影響」はないようである。子供達は、給食時間互いに協力して配膳を行い、楽しく食事をしてきた。ただ、給食時間に放送を流したりする等豊かな学びの場と学校がなるためには、教職員の数を増やさなければならないと感じた。</li> <li>・搬入口がグラウンドに面してあるため、雨やグラウンドの砂が配膳室に入る可能性がある。改善工事が必要と感じた。</li> <li>・中学校給食担当の学校栄養士はいるのか、食育の役割を果たしていない。これでは生徒からも保護者からも良い評価が得られないのではないかと感じた。</li> <li>・教員の一致協力、家庭の協力などが必要。「給食が教育を変える」という共通理解が必要と感じた。</li> <li>・給食実施に当たっては、給食調理室の管理がないにしても、栄養管理、衛生管理、給食費徴収事務、連絡調整事務等、様々な仕事があり、職員への分担についての理解が必要と感じた。</li> <li>・教員に対する食育に関する研修が必要と感じた。</li> </ul>

中学校完全給食モデル事業 北九州市食育推進会議のモデル実施状況視察  
 (平成19年度3学期)における委員の主な意見・感想

	熊西中学校	足立中学校	早鞆中学校
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員からは、昼休みがない、帰宅時間が遅くなるといったマイナス評価の言葉が多く、中学校給食に対する理解がないように見えた。中学校給食の方法論・技術論だけでなく、教員、栄養士の理解と協力を求める方法について、先行都市の実情を参考にしてはどうか。</li> <li>・指導は担任まかせになっているので、クラスによる差が大きく、放任状態のクラスもあり、教員の指導体制の確立が必要と感じた。</li> </ul>	



中学校完全給食モデル事業 北九州市食育推進会議のモデル実施状況視察  
 (平成20年度1学期)における委員の主な意見・感想

意見・感想の表記 : 効果・肯定、 課題・否定、 その他

	熊西中学校	足立中学校	早鞆中学校	二島中学校
1 視察日	6月4日	6月24日	6月30日	7月11日
2 視察人員	8名	8名	5名	12名
3 視察委員主な意見・感想				
(1) 給食の実施状況				
給食の味・量 給食時間 給食資料の活用度	<p>ボリュームがあり味もしっかりついている。味については、生徒はほぼ満足している様子。男女または部活動への参加状況によって、必要とする量にかなり差がある。食べる量が調整できる工夫が必要。「嫌いなメニューがある」が、給食を嫌う理由としてあるようだ。パンよりご飯を希望する声が多く聞かれ、検討の余地があると感じた。</p> <p>給食時間は適切。会話が弾むことで、給食時間がかかっている。</p> <p>給食資料は活用されている。 放送等による食育指導は評価できる。</p>	<p>全体的に薄味というより旨味がない気がする。塩分が改善され、程よい味付けになっている。栄養量は基準になっていると思われるが、献立の工夫がいる気がする。特に歯ごたえのある食材がないのが残念。量は十分と感じた。</p> <p>パンの残食が多く、ご飯の日が増やせないか検討が必要。食べ物を残すことに抵抗感のない生徒が多いと感じた。</p> <p>給食は好き嫌いが半々くらいと感じた。</p> <p>給食放送は始まったが、給食資料の活用はこれからという印象。学校給食に関する具体的資料の活用、指導等がなされていない。</p>	<p>味はおいしく、薄味ではないと思う。塩味が濃すぎたり、反対に薄すぎたり、バラつきがあるようだ。量は十分にあった。</p> <p>伝統食や野菜料理を残す、手をつけない生徒が多く、野菜を好きになる工夫をしなければならぬ。</p> <p>配膳する際の注ぎ残しが多いのが気になる。食缶方式は食事量を調整でき、残食が少ないという先入観を持っていたが、注ぎ分けの際に、嫌いなものは少なく注いでもらい、更に、注がれたものを残しても平気と答える生徒が多いことに問題を感じた。</p> <p>栄養バランスのとれた給食を提供しても、残食の多さから、実際に生徒が摂取している栄養価はどうなのか気になる。</p>	<p>味はおいしい。献立や生徒の嗜好もあると思われるが、味が少し濃い気がする。</p> <p>小学校との嗜好の違いがあり、献立について改善・工夫が必要。</p> <p>ひじきのような献立の分量は考える必要がある。栄養的な面もあるが、献立全体のバランスが必要と思う。</p> <p>小学校でも導入されている現在のご飯の炊飯方式は改善の余地がある。</p> <p>多くの食材が国内産を使用しており、この意義は大きい。残食はメニューにより多い、少ないがある。</p> <p>嫌いなメニューは手をつけずに残している生徒も多く、中学生は嗜好がはっきりしているため、残食も多いようである。</p> <p>給食時間は適切。</p> <p>給食資料はほとんど活用されておらず、関心も薄い。</p>

中学校完全給食モデル事業 北九州市食育推進会議のモデル実施状況視察  
 (平成20年度1学期)における委員の主な意見・感想

		熊西中学校	足立中学校	早鞆中学校	二島中学校
	給食の味・量 給食時間 給食資料の活用度			給食の好き嫌いは半々で、嫌いな理由は「嫌いなメニューが多い」というものであった。  弁当持参している生徒は、好きなものが食べられるからという理由が多く、男子は量が多いからという生徒もいた。	
	配送状況	順調に実施されている。	特に問題はなく概ね良好。	特に問題はなく実施されている。	配送状況はよい。
(2) 食育上の効果					
	食育の意識 朝食の状況 日頃の食生活 日頃の体調 健康への意識 家庭の生活リズム	給食が親子の話題になっているようだ。 朝食を食べないと昼食までもたず、朝食を食べてきている生徒が多いようだ。 朝食の喫食に関し、給食が良い効果になっていることを評価したい。 嫌いな物は食べずに残す状況を見ると、給食で偏食を治すのは難しいのではないかと。 給食で栄養をとっているから朝や夕食は適当でもよいというような保護者が増えるのは問題で、保護者への啓発が必要。	朝食は食べている生徒が多いと感じた。 残食が多く、成長時期にある中学生としての栄養量を摂取できているか不安がある。 弁当持参でも栄養の偏りはあると考えられるが、給食として提供する以上は、何らかの効果があることが条件となる。保護者の負担減とは別問題として教育として給食を行う効果をきちんと評価していくことが大切である。 生徒、保護者に対し、正しい健康知識や生活習慣について認識させる体制作りが必要である。	朝食は食べている生徒が多いと感じた。 家庭であまり作らないメニューを給食で体験できるのも確かだが、給食=バランスがとれた食事かどうかは生徒による。 食育への関心は以前よりは自然に身につけている。 今の段階では目立った変化はないようだ。	朝食は摂取しているようだ。 家庭で給食の話題はできるが、プラスイメージで家庭に伝わっていない。食への真の意味での関心が高まっているとはいえない。 給食時間の食事マナーは良いほうとはいえない。今後の指導が大切である。 自分の健康と食との関係を認識して食べている生徒はほとんどいないと思う。食べるか、食べないだけでは、食育が十分に達成されるとは思われない。 いつの間にか生徒の中で食に対する意識は高まっていると思う。

中学校完全給食モデル事業 北九州市食育推進会議のモデル実施状況視察  
 (平成20年度1学期)における委員の主な意見・感想

	熊西中学校	足立中学校	早鞆中学校	二島中学校
食育の意識 朝食の状況 日頃の食生活 日頃の体調 健康への意識 家庭の生活リズム	保護者がカロリー計算が出来ないとの話から、保護者への食育の必要性を感じた。			
(3) 教育活動への影響				
下校時間への影響 部活動の時間への影響 職員会議等の時間への影響	大きな支障があるとは感じない。下校時間の繰り下がり(20分)が教職員の仕事や部活動にかなりの影響を与えていると感じた。職員会議等の時間確保や放課後の個人指導等生徒との関わりが難しいようだ。	学校生活には大きな支障はないと感じた。昼休みは短くなったが、下校時間は早くなっているため、影響が少ないと思われるが、学級活動などが短くなっている。昼休みに実施していた図書館開放は実施できなくなっている。放課後に問題を抱えている生徒への個別指導等の時間が確保しにくいなど、コミュニケーションの機会が少なくなっている。	学校の時間割工夫により下校時間には影響はないと感じた。下校時間の繰り下げ(10分)により、部活動への影響があると考え保護者がいる。生徒指導の時間が少なくなっている。	生徒の動きを考えた学校運営がなされており、部活動も円滑にできているようだ。下校後の時間への影響はないと思う。学校時間を変更することに抵抗があるようだが、教職員の意識を変えることも大切であり、そこから時間割や生活時間の工夫が生まれると思う。朝自習・朝読書の時間が無くなり、落ち着いた気持ち、雰囲気の中での一日のスタートができないデメリットは大きいと思う。朝の教職員の打合せが出来ないデメリットがある。
配膳作業の状況 生徒指導上の問題発生状況	給食の配膳等に慣れてきた様子が伺え、特に問題は感じない。	配膳作業はスムーズに行われている。	配膳作業は時間がかかり過ぎることもなく、上手に当番が行っていた。	生徒は協力して配膳作業を行っており、配膳に関して特別な生徒指導はなかったようだ。

中学校完全給食モデル事業 北九州市食育推進会議のモデル実施状況視察  
 (平成20年度1学期)における委員の主な意見・感想

	熊西中学校	足立中学校	早鞆中学校	二島中学校
配膳作業の状況 生徒指導上の問題発生状況	「食缶から配っていた小学校より楽になった」との声が1年生からあった。 生徒指導上のトラブルは特にない様子。	1年生からは、弁当箱方式は配膳が楽で良いという感想が多い。 弁当箱方式では配膳に時間を要しないため配膳作業は早く終了しているが、協力、協同の意識は薄いと感じた。	目立ったトラブルもなく、時間内で給食を終えている。	比較的スムーズに配膳は行われていたようであるが、注ぎ分け量は学級によって差が見られ、給食指導の必要性を感じた。 順調に進められている様子だが、教職員のマンパワーによる給食指導あつてのことと感じた。 給食前の手洗等、清潔に関する指導が必要。 給食の押し付け合いが気になる。適正な栄養摂取という観点からの評価は厳しい。
(4) 学校の実施体制				
給食運営に関する学校の実施体制の状況	給食検討委員会を立ち上げるなど、とても前向き。 教職員のマンパワーにより運営されている感じが強いが、本来の授業等生徒指導に支障が出るようなことがないか心配。 教職員の時間的負担の問題がある。	教職員の負担の大きさが伺えたが、だから給食が駄目ということではなく、どうしても教職員の負担が減るのか考える必要がある。 教職員は休憩時間も終業後も生徒指導を行っており、休憩時間が全くない状態。 教職員は、生徒指導だけでも大変だが、給食指導がプラスされ、休憩時間もないので現状である、教職員の教育的配慮から給食指導は成り立っているが、サービス規程上の問題がある。	給食を実施することにより、運営体制の変更やそれに伴う労力が必要になっている。 給食指導のために教職員の食事時間が十分確保できていない。	日常の教職員の勤務は、休憩時間の確保もできておらず、常にオーバーワーク状態であり、教職員の健康面が非常に心配である。今学校現場に欲しいのは「教職員」を増やすことだと痛感した。 どの学校も同じで、時間割の変更による教職員への影響が大きいと感じた。 4校時が終了しても、教職員は休む間もなく、「給食指導」に入らなければならず、授業終了後の各教科の用具整理や生徒評価を行う時間が取れない状況であった。

中学校完全給食モデル事業 北九州市食育推進会議のモデル実施状況視察  
 (平成20年度1学期)における委員の主な意見・感想

	熊西中学校	足立中学校	早鞆中学校	二島中学校
給食運営に関する学校の実施体制の状況		教職員の負担減のため、ボランティアやパートなどを増やす等の対策がないかと感じた。		副任も教室で「給食指導」に当たっていたが、教職員の負担を考えると、教職員の負担軽減策をとってもいいのではないか。
(5) 給食全般	<p>3学期よりも落ち着き、給食が予想よりも早く定着しつつあるように思われた。教職員も生徒も給食に慣れ、落ち着いてきていると感じた。</p> <p>学校の体制や生徒の様子からも給食に慣れてきたことが伺えた。しかし、保護者が楽をするための給食であってはならない。家庭の教育力が給食導入に伴ってどう変化していくのか、引き続きチェックが必要である。</p> <p>教職員のアイデアで写真入の献立表を作って保護者に配布するなど、とても前向きに取り組んでいる。</p> <p>校長自ら食育に関心があり、他の教職員も協力的で、校長及び教頭のリーダーシップが大切と感じた。</p>	<p>3学期より比較的落ち着いているように感じた。時間割の変更よりも、教職員の勤務条件や指導の困難性が問題になっている。</p> <p>給食の経験がない教職員にとっては、新しいことへの抵抗感もあると考えるが、今後市全体で取り組むとすれば、学校差の解消に相当の努力が必要と思う。</p> <p>保護者は給食を歓迎しているようだが、その分、現場の教師の負担は増大している。食育は本来、家庭が担うべきものであって、学校が担うべきことなのか疑問を感じる。給食によって、保護者の責任が学校に押し付けられるようなことがあってはならないと思う。</p>	<p>比較的スムーズに給食が実施されているように感じた。</p> <p>食缶方式の場合、配膳・片付時間が弁当箱方式に比べて長く必要だが、生徒や教職員の慣れによる時間短縮はある程度見込める。しかし、市内全ての学校で食缶方式が可能かどうかという点では疑問が残る。給食指導は生徒指導の一環という考え方もあると思うが、教職員の負担は大きいと思う。</p>	<p>生徒は給食に慣れ始めていると感じた。</p> <p>教職員の負担は大変なものだと思うが、もう少し時間をかければ、教職員・生徒とも慣れてスムーズに行くのではないか。</p> <p>給食に対して好まない生徒が多く、給食時間が楽しい時間になっていない。</p> <p>生徒自身の課題解決よりも保護者の負担減のメリットが評価されている。教職員は給食に対する課題をかなり感じているようだ。</p> <p>食育に関する掲示物がとてもよく、給食運営の努力も見られた。ただ、「給食」行うのではなく「食育」を学校教育全体で推進していくためには、専門の「家庭科」教員の配置が中学校に必要と痛感した。</p>

中学校完全給食モデル事業 北九州市食育推進会議のモデル実施状況視察  
 (平成20年度1学期)における委員の主な意見・感想

	熊西中学校	足立中学校	早鞆中学校	二島中学校
	<p>リフトを設置し、自動で各階まで食事を送る方法が出来れば、給食時間が十分取れるのではないか。</p>	<p>生徒指導で大変なこともあり、給食運営に余力をもって取り組めない状況がある。楽しい雰囲気での給食時間になっておらず、教職員自信も負担に感じている。どの学校でも同じ状況ではないと思うが、高い壁である。</p> <p>以前から髪の毛等の異物混入が問題となっており、生徒の給食に対する不信感が増大している。業者への徹底した指導が必要。</p>		<p>心配されていた「給食時間の生徒指導」や「部活動への影響」は、管理職を含め全教職員の努力により、ほとんどなかったようである。教職員の負担が増えたようだが、「伝統的な料理」の提供や健康的な食事量・味付けを中学生のこの時期に体験させることは、意義深い。生徒が大人になり、子育てをする時期に必ずや役立つものと確信する。食育を推進するうえで、給食を実施するか慎重に検討すべきだと思う。</p> <p><b>【鴨生田小学校(給食調理校)】</b>                  小学校給食室の作業は、時間との戦争で、決して職場環境がいいとは言えない状況であり、小学校からは、調理ラインの増設を願う意見があった。                  小学校の給食室は調理器具及びスペースの問題もあり、中学校給食の調理の後で、小学校給食を調理しており、時間との戦いで、戦場のような慌しさである。</p>

中学校完全給食モデル事業 北九州市食育推進会議のモデル実施状況視察  
 (平成20年度1学期)における委員の主な意見・感想

	熊西中学校	足立中学校	早鞆中学校	二島中学校
				<p><b>【鴨生田小学校(給食調理校)】</b>                      配送時間が早く調理作業に大変追われている。調理作業の工夫が必要と考える。                      親子方式は、親である小学校との連携がとても重要で、「給食に関わる事務」をどう円滑に進めていくかの検証がさらに必要と感じた。                      給食時間の繰上げ開始が必要な場合、小学校の給食の関係で調整が困難な様であり、小学校にも影響を及ぼしていると感じた。</p>

## 中学校完全給食モデル事業 保護者試食会実施状況

### 【実施概要】

	早鞆中学校	熊西中学校	足立中学校	二島中学校
実施日	2月6日(水)	2月7日(木)	2月20日(水)	6月19日(木)
参加者数	18名	23名	15名	30名
献立	ご飯 豆腐入り中華風煮 キャベツのじゃこ いため スイートポテト 牛乳	パン ココアクリーム ウィンナーソーセージ マッシュポテト 牛乳 ヨーグルト 甘夏柑と野菜の甘 酢漬け ひよこ豆のカレー 炒め 白菜スープ	ご飯 魚の野菜あんかけ ひじきの炒め煮 さつまいもの甘煮 うずら卵 牛乳	ご飯 牛乳 きびなごの香味揚 げ みそ汁 野菜のごま和え 煮豆

### 【試食会アンケート集計】

#### 味付け

	とても良い	良い	普通	やや悪い	悪い
早鞆	1	8	7	2	0
熊西	0	1	7	14	1
足立	1	3	11	0	0
二島	1	5	18	5	1
計	3	17	43	21	2
比率	23%		50%	27%	

#### 味付けが「やや悪い」「悪い」の理由

	味が薄い	味が濃い	その他
早鞆	2	0	0
熊西	10	0	4
足立	0	0	0
二島	1	0	5
計	13	0	9
比率	59%	0%	41%

#### 給食の主食の量

	多い	やや多い	ちょうど	やや少ない	少ない
早鞆	0	0	5	9	4
熊西	0	5	13	2	3
足立	2	2	6	3	1
二島	1	2	14	12	0
計	3	9	38	26	8
比率	14%		45%	41%	

#### 給食の副食の量

	多い	やや多い	ちょうど	やや少ない	少ない
早鞆	0	0	6	10	2
熊西	0	0	6	10	7
足立	0	1	5	5	2
二島	0	5	16	7	1
計	0	6	33	32	12
比率	7%		40%	53%	



## 給食実施前と比較した生徒の様子の変化

	変化有り	変化無し
早鞆	11	7
熊西	10	12
足立	7	8
二島	2	20
計	30	47
比率	39%	61%

### [変化有りの主な内容]

- ・給食を通じた会話が増えた。
- ・朝夕の食事をしっかり食べるようになった。
- ・帰宅時には空腹感を感じていることが多い。
- ・帰宅後にお菓子を食べるようになった。
- ・お菓子を食べなくなった。
- ・昼休みが少なくなった。
- ・弁当を楽しみに登校している日があったが、それがなくなった

## 給食に対する主な意見

### 献立内容（味、量等）に関する意見

- ・子供は「おいしくない」と言っているが、そうでもない。塩分は家庭でも気をつけたい。
- ・子供から「小学校と中学校では給食の味が違う」と聞いていたが、違いがわからなかった。
- ・夏場は汗をかくので、もう少しはっきりした味付けがいいと思う。
- ・味付けが濃かったり薄かったりとバラバラでバランスが悪い。
- ・男子には少なく、女子には多い。
- ・栄養バランスはとても良い。
- ・家庭で食卓に出ないものを目・味で経験することが大切で、給食は有り難い
- ・手作り弁当では食べさせることができない食材を使っているのを助かる。
- ・デザート代わりに肉や魚を増やしボリュームを出して欲しい。主菜といえるものがない。
- ・子供達が好むメニューも増やして昼食が楽しみになるように工夫してもらいたい。
- ・麺類は工夫が必要。
- ・残食が多いメニューは献立を工夫し、食べ物を捨てることを考え直すことが必要。
- ・部活の生徒や男子にとっては量が少ない。学年で量を変えて欲しい。
- ・給食の量を2種類位から選べるようにできないか。

### 給食実施方式に関する意見

- ・食缶方式のように量の調節ができた方がよい。
- ・弁当方式の給食が本当に必要か見直して欲しい。給食が冷めている。
- ・弁当方式の給食は量の調節ができないのが欠点。
- ・弁当方式は内容があまり変わらないので、子どもは食缶給食がいいと言っている。

### 給食実施に関する意見

- ・給食時間が少ないと言っていたが、今後改善されると思う。楽しそうに食べており、他校や小学校の保護者からは給食は歓迎されている。
- ・是非給食を継続してもらいたい。

### その他の意見

- ・子どもと昼食についての話をよくするようになった。
- ・給食は有り難いが、食育として考えるなら給食時間をもう少し必要。
- ・月に1回でも弁当の日を作って欲しい。
- ・給食費未納の問題の改善をして欲しい。
- ・家庭でも食育の大切さを教えるべき。
- ・なぜ給食を実施したらこんなに昼休みが長くなるのか、弁当とかなりの差があり、給食にしたからといって長くなるのはおかしい。

## 中学校完全給食モデル事業 給食費徴収状況

【平成20年度1学期末状況（平成19年度3学期からの累計）】 （平成20年7月末時点）

		A 中学校	B 中学校	C 中学校	D 中学校	全体
未納者	人数	16人	9人	15人	21人	61人
	率	6.3%	2.5%	4.6%	5.0%	4.5%
未納額	額	103,500円	73,400円	103,500円	117,000円	397,400円
	率	1.8%	1.0%	1.5%	2.1%	1.5%

（内訳）

		A 中学校	B 中学校	C 中学校	D 中学校	全体
未納者	長期未納 （前学期から）	3人	4人	1人	2人	10人
	その他	13人	5人	14人	19人	51人
未納額	長期未納 （前学期から）	27,000円	28,400円	22,500円	27,000円	104,900円
	その他	76,500円	45,000円	81,000円	90,000円	292,500円

その他・・・今学期のいずれかの月（5, 6, 7月）を未納

【参 考】

平成19年度3学期末状況 （平成19年度末時点）

		A 中学校	B 中学校	C 中学校	全体
未納者	人数	3人	5人	2人	10人
	率	1.1%	1.4%	0.7%	1.1%
未納額	額	27,000円	37,400円	13,500円	77,900円
	率	1.1%	1.3%	0.5%	1.0%

（内訳）

		A 中学校	B 中学校	C 中学校	全体
未納者	長期未納 （前学期から）	3人	5人	2人	10人
	その他	0人	0人	0人	0人
未納額	長期未納 （前学期から）	27,000円	37,400円	13,500円	77,900円
	その他	0円	0円	0円	0円

〔中学校完全給食モデル事業 給食費・徴収方法〕

給食費                   ・完全給食費                   月額 4,500円  
                              ・ミルク給食費               月額 700円  
徴収方法               3月及び4月を除く年間10ヶ月で徴収

平成18年度 全校 給食費徴収状況 （平成18年度末時点）

		小学校	中学校	全体
未納者	人数	295人	215人	510人
	率	0.6%	0.9%	0.7%
未納額	額	4,310,365円	552,382円	4,862,747円
	率	0.2%	0.5%	0.2%

〔小学校及び中学校 給食費・徴収方法〕

給食費                   ・小学校（完全給食費）   月額 3,500円  
                              ・中学校（ミルク給食費） 月額 460円  
徴収方法               8月を除く年間11ヶ月で徴収

## 中学校完全給食モデル事業 残食状況

【平成20年度1学期末状況（平成19年度3学期からの累計）】

### 学校別

学校名	実施方式	残食区分		残食率										
				1月	2月	3月	3学期平均	4月	5月	6月	7月	1学期平均	全期間平均	
足立中学校	民間調理場方式 (弁当箱配送)	主食	米飯	6.2%	5.1%	9.9%	7.1%	10.0%	7.6%	8.6%	8.7%	8.7%	8.0%	
			パン	10.5%	16.2%	17.7%	14.8%	11.7%	8.1%	10.0%	13.3%	10.8%	12.5%	
		副食		6.0%	8.0%	8.4%	7.5%	7.1%	15.0%	16.3%	17.4%	14.0%	11.2%	
		牛乳		8.3%	11.3%	1.9%	7.2%	2.5%	0.8%	0.5%	0.5%	1.1%	3.7%	
熊西中学校	民間調理場方式 (弁当箱配送)	主食	米飯	3.5%	5.9%	6.4%	5.3%	6.8%	10.4%	10.0%	17.7%	11.2%	8.7%	
			パン	6.4%	9.3%	12.0%	9.2%	11.3%	18.7%	15.3%	19.8%	16.3%	13.3%	
		副食		7.1%	8.7%	8.7%	8.2%	9.7%	11.6%	14.4%	20.7%	14.1%	11.6%	
		牛乳		3.5%	6.9%	4.6%	5.0%	2.0%	2.5%	2.7%	1.3%	2.1%	3.4%	
早鞆中学校	民間調理場方式 (食缶配送)	主食	米飯	5.3%	1.9%	2.3%	3.2%	7.5%	9.0%	10.1%	13.4%	10.0%	7.1%	
			パン	11.4%	6.6%	4.3%	7.4%	9.2%	8.9%	4.6%	22.9%	11.4%	9.7%	
		副食		7.5%	10.5%	9.6%	9.2%	12.1%	17.6%	17.0%	18.5%	16.3%	13.3%	
		牛乳		8.5%	7.2%	7.1%	7.6%	1.1%	0.6%	1.0%	0.7%	0.9%	3.7%	
二島中学校	親子方式	主食	米飯	/					1.3%	3.6%	5.4%	9.0%	4.8%	4.8%
			パン						3.9%	11.8%	6.6%	14.8%	9.3%	9.3%
		副食							4.3%	8.7%	10.0%	13.8%	9.2%	9.2%
		牛乳							0.2%	0.8%	1.1%	0.3%	0.6%	0.6%

副食は、残食の水気をきって計量

### 各方式別

残食区分		残食率			
		民間調理場方式 (弁当箱配送)	民間調理場方式 (食缶方式)	親子方式	全体平均
主食	米飯	8.3%	7.1%	4.8%	6.7%
	パン	12.9%	9.7%	9.3%	10.6%
副食		11.4%	13.3%	9.2%	11.3%
牛乳		3.5%	3.7%	0.6%	2.6%

### 【参考】

北九州市 小学校完全給食 残食状況（平成18年度）

残食区分		残食率
主食	米飯	5.8%
	パン	7.1%
副食		5.4%
牛乳		3.3%

副食は、残食の水気をきって計量

【参 考】

各政令指定都市 中学校完全給食 残食状況（平成18年度）

市名	主たる実施方式	残食区分		残食率	
さいたま市	自校方式	主食	米飯	10.2%	
			パン	4.2%	
		副食		15.6%	
		牛乳		6.5%	
浜松市		主食	米飯	1.0%	
			パン	1.0%	
		副食		0.2%	
		牛乳		0.4%	
仙台市	センター方式	主食	米飯	14.5%	
			パン	15.7%	
		副食		20.6%	
		牛乳		未計測	
静岡市		主食	米飯	7.3%	
			パン	12.6%	
		副食		20.4%	
		牛乳		13.0%	
福岡市	主食	米飯	未計測		
		パン	未計測		
	副食		14.3%		
	牛乳		未計測		
札幌市	親子方式	主食	米飯	17.6%	
			パン	13.5%	
		副食		19.6%	
		牛乳		10.4%	
新潟市		民間調理場方式 （弁当箱配送）	主食	米飯	13.2%
				パン	
			副食		未計測
			牛乳		
名古屋市	主食		米飯	14.8%	
			パン		
	副食		18.2%		
	牛乳		未計測		
京都市	主食	米飯	18.1%		
		パン			
	副食		25.9%		
	牛乳		16.3%		
広島市	主食	米飯	18.4%		
		パン			
	副食		25.5%		
	牛乳		未計測		

千葉市（センター方式）については、未集計のため残食率は不明。

## 中学校完全給食モデル事業 地元産品使用状況

### 【平成20年度1学期末状況（平成19年度3学期からの累計）】

<品目>

使用品目	市内産使用品目	市内産使用率
40品目	16品目	40.0%

<使用量>

使用量	市内産使用量	市内産使用率
17,835kg	3,080kg	17.3%

（主な使用品目）

・・・ かつお菜（100.0%）、大葉春菊（100.0%）、  
筍水煮（86.6%）、ホウレン草（75.8%）

### 【参 考】

#### 平成19年度3学期末状況

<品目>

使用品目	市内産使用品目	市内産使用率
30品目	9品目	30.0%

<使用量>

使用量	市内産使用量	市内産使用率
7,254kg	1,296kg	17.9%

（主な使用品目）

・・・ かつお菜（100.0%）、大葉春菊（100.0%）、  
ホウレン草（82.7%）、小松菜（78.3%）

#### 小学校・特別支援学校給食 地元産品使用状況〔平成18年度〕

<品目>

使用品目	市内産使用品目	市内産使用率
57品目	19品目	33.3%

<使用量>

使用量	市内産使用量	市内産使用率
916,983kg	140,648kg	15.3%

（主な使用品目）

・・・ はくさい菜（93.5%）、ブロッコリー（91.7%）、  
小松菜（89.3%）、ホウレン草（85.7%）、  
筍水煮（81.0%）

#### 国の食育基本計画の目標値（学校給食の地場産物使用率）

・・・ 30%（都道府県単位、使用品目ベース）

## 中学校完全給食モデル事業 細菌検査結果

(平成20年7月7日実施)

学校別	細菌別	基準値	検査結果
A 中学校	一般細菌	100,000 / g 以下	300 / g 以下
	黄色ブドウ球菌	-	300 / 0.1 g 以下
	大腸菌群	陰性	陰性
B 中学校	一般細菌	100,000 / g 以下	300 / g 以下
	黄色ブドウ球菌	-	300 / 0.1 g 以下
	大腸菌群	陰性	陰性
C 中学校	一般細菌	100,000 / g 以下	300 / g 以下
	黄色ブドウ球菌	-	300 / 0.1 g 以下
	大腸菌群	陰性	陰性
D 中学校	一般細菌	100,000 / g 以下	4,400 / g 以下
	黄色ブドウ球菌	-	300 / 0.1 g 以下
	大腸菌群	陰性	陰性

### 【備考】

検査方法・・・各学校で給食(7月7日分)を抜き取り、食品衛生検査指針(微生物編)に基づき検査

基準値・・・北九州市食品衛生成分規格指導基準

定量限界・・・一般細菌(300 / g)、黄色ブドウ球菌(300 / 0.1 g)、大腸菌群(定性試験)

## 中学校完全給食モデル事業 異物混入等発生状況

(平成20年度1学期末時点)

	平成19年度3学期	平成20年度1学期	合計
異物混入	15件	17件	32件
配送遅延	0件	0件	0件
食材管理ミス	4件	5件	9件
調理作業ミス	0件	1件	1件
配食作業ミス	5件	2件	7件
その他	0件	6件	6件
合計	24件	31件	55件

### 【備考】

異物混入(毛髪、虫、ビニール片等)

配送遅延(配送遅延による給食時間遅延)

食材管理ミス(食材納入数の確認ミス等)

調理作業ミス(調味料の入れ忘れ等)

配食作業ミス(納入給食数の不足)

その他(スプーンの配送数の不足等)

## 中学校完全給食本格実施に必要な経費試算

### 1 試算に当たっての基本的考え方

- (1) 実施方式によって経費が大きく異なるため、方式別に試算。
- (2) 給食を始めるのに必要な「初期投資」に関する経費と、運営のために必要な年間の「運営経費」とを別々に試算。
- (3) 中学校完全給食モデル事業及び小・特別支援学校における実績や他都市の例を踏まえて試算。

なお、調理及び配送の委託業務については業者の設備投資（工場の建設、トラックの増車）が必要となるため、委託費が相当額上がるものと予想される。（但し、どの程度上がるのかは不明のため今回の試算には計上していない）

### 2 方式別に必要となる経費

#### (1) 民間調理場方式

##### (方式の概要)

民間事業者の調理場で調理し、弁当箱又は食缶で配送する。

##### (初期投資)

中学校に配送される給食を保管する配膳室を整備する工事費

- ・ 配膳室は、校舎1階の空き教室を転用する学校が29校、プレハブを設置する学校が34校として試算。
- ・ 弁当箱配送は、弁当箱を低温のまま保管する必要があるため、配膳室に空調設備を設置。

中学校に設置する配膳棚・冷凍冷蔵庫などの機材購入費

(弁当箱配送と食缶配送で異なる機材)

- ・ 弁当箱配送：弁当箱・弁当箱運搬箱
- ・ 食缶配送：食器・食缶・食缶運搬用コンテナ

##### (運営経費)

民間の調理場で給食を調理し、中学校に配送する委託費

中学校の配膳室で給食の仕分け等を行う配膳員（1人）の person 費

中学校に設置した機材の更新費・修繕費（標準的な耐用年数をもとに試算）

就学援助費及び生活保護費（給食費相当分）

## (2) 親子方式

### (方式の概要)

小学校の給食室で調理し、食缶で配送する。

(小学校81校で全中学校63校分をまかなうものとして試算)

### (初期投資)

中学校に配送される給食を保管する配膳室を整備する工事費

中学校に設置する配膳棚・冷凍冷蔵庫・食器・食缶などの機材購入費

小学校の給食室の調理設備を増強するために必要な改修工事費及び機材購入費(回転釜や食器保管庫の増設など)

### (運営経費)

小学校において追加で必要となる人件費(委託)

小学校から給食を中学校に運ぶ配送費

中学校の配膳室で給食の仕分け等を行う配膳員(1人)の人件費

中学校に及び小学校(追加分)に設置した機材の更新費・修繕費(標準的な耐用年数をもとに試算)

小学校の給食室に追加で発生する光熱水費

就学援助費及び生活保護費(給食費相当分)

## (3) 自校方式

### (方式の概要)

全中学校に新たに給食室を建設し、校内で調理する。

### (初期投資)

中学校に給食室を建設する費用(久留米市の例で試算)

中学校内に給食室を建設する敷地がない学校は、隣接する土地を取得する費用(1校分)

食器や包丁・回転釜等調理器具の機材購入費

### (運営経費)

調理員の人件費(委託)

給食室機材の更新費・修繕費(標準的な耐用年数をもとに試算)

給食室で使用する光熱水費

就学援助費及び生活保護費(給食費相当分)



#### (4) センター方式

##### (方式の概要)

市内3か所に新たに建設する給食センターで調理し、食缶で配送する。

##### (初期投資)

給食センターの建設費用(機材購入費含む)(仙台市の例で試算)

給食センターの建設に必要な土地を取得する費用

給食を保管する配膳室を整備する工事費

中学校に設置する配膳棚・冷凍冷蔵庫・食器・保温食缶などの機材購入費

##### (運営経費)

調理費・配送費・機材更新費・光熱水費などの運営費(福岡市の例で試算)

中学校の配膳室で給食の仕分け等を行う配膳員(1人)の人件費

中学校に設置した機材の更新費・修繕費(標準的な耐用年数をもとに試算)

就学援助費及び生活保護費(給食費相当分)

### 3 試算の結果(全63校分)

方式	初期投資	運営経費(年)
民間調理場方式 (弁当箱配送)	約12億円	約14億円
民間調理場方式 (食缶配送)	約12億円	約14億円
親子方式	約24億円	約13億円
自校方式	約63億円	約13億円
センター方式	約142億円	約15億円

## 中学校完全給食 経費試算

平成20年9月25日現在

方式	事業費	全63校	1校当り
民間調理場方式 (弁当箱配送)	初期投資費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校配膳室整備工事費 8億3,000万円</li> <li>・中学校機材購入費 3億4,000万円</li> <li style="text-align: right;">計 11億7,000万円</li> </ul>	<b>約1,900万円</b>
	運営費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理、配送費(民間調理場) 10億1,000万円</li> <li>・中学校配膳員人件費等 7,000万円</li> <li>・中学校機材更新費、修繕費 5,000万円</li> <li>・就学援助、生活保護費 2億5,000万円</li> <li style="text-align: right;">計 13億8,000万円</li> </ul>	<b>約2,200万円</b>
民間調理場方式 (食缶配送)	初期投資費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校配膳室整備工事費 7億6,000万円</li> <li>・中学校機材購入費 4億3,000万円</li> <li style="text-align: right;">計 11億9,000万円</li> </ul>	<b>約1,900万円</b>
	運営費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理、配送費(民間調理場) 10億1,000万円</li> <li>・中学校配膳員人件費等 7,000万円</li> <li>・中学校機材更新費、修繕費 5,000万円</li> <li>・就学援助、生活保護費 2億5,000万円</li> <li style="text-align: right;">計 13億8,000万円</li> </ul>	<b>約2,200万円</b>
親子方式	初期投資費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校配膳室整備工事費 7億6,000万円</li> <li>・中学校機材購入費 4億3,000万円</li> <li>・小学校給食室改修工事費(81校) 5億7,000万円</li> <li>・小学校追加機材購入費(81校) 6億7,000万円</li> <li style="text-align: right;">計 24億3,000万円</li> </ul>	<b>約3,900万円</b>
	運営費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理費(小学校給食室追加分・81校) 5億円</li> <li>・中学校配膳員人件費等 7,000万円</li> <li>・配送費 2億1,000万円</li> <li>・中学校・小学校機材更新費・修繕費 1億2,000万円</li> <li>・小学校光熱水費 1億3,000万円</li> <li>・就学援助、生活保護費 2億5,000万円</li> <li style="text-align: right;">計 12億8,000万円</li> </ul>	<b>約2,000万円</b>
自校方式	初期投資費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校給食室整備工事費 52億4,000万円 (7億5,000万円)</li> <li>・中学校給食室整備用地取得費(1校) 3,000万円</li> <li>・中学校給食室機材購入費 10億2,000万円 (2億3,000万円)</li> <li style="text-align: right;">計 62億9,000万円</li> </ul> <p style="font-size: small;">給食室整備工事費は、久留米市の例で試算</p>	<b>約1億円</b>
	運営費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理費(中学校給食室) 8億円</li> <li>・中学校機材更新費、修繕費 1億1,000万円</li> <li>・中学校光熱水費 1億3,000万円</li> <li>・就学援助、生活保護費 2億5,000万円</li> <li style="text-align: right;">計 12億9,000万円</li> </ul>	<b>約2,000万円</b>
センター方式	初期投資費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター整備工事費(3センター) 121億2,000万円 (6億2,000万円)</li> <li>・センター整備用地取得費(3センター) 8億8,000万円</li> <li>・中学校配膳室整備工事費 7億6,000万円</li> <li>・中学校機材購入費 4億3,000万円</li> <li style="text-align: right;">計 141億9,000万円</li> </ul> <p style="font-size: small;">センター整備工事費は仙台市の例で試算</p>	<b>約2億2,500万円</b>  (センター建設費) 約43億円/センター
	運営費	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター運営費(調理費・配送費等・3センター) 11億7,000万円</li> <li>・中学校配膳員人件費等 7,000万円</li> <li>・中学校機材更新費、修繕費 5,000万円</li> <li>・就学援助、生活保護費 2億5,000万円</li> <li style="text-align: right;">計 15億4,000万円</li> </ul> <p style="font-size: small;">センター運営費は福岡市の例で試算</p>	<b>約2,400万円</b>

自校方式とセンター方式の( )内の金額は、その上段の経費に係る国からの補助金収入の試算額。  
調理及び配送の委託業務については業者の設備投資(工場の建設、トラックの増車)が必要となるため、委託費が相当額上がるものと予想されるが、どの程度上がるのかは不明のため今回の試算には計上していない。

中学校完全給食モデル事業 経費実績

(単位:千円)

方式		学校名 (契約食数)	初期投資費		運営費	合計
			工事費	機材購入費	調理・配送費 (契約金額)	
民間調理場方式	弁当箱配送	足立中学校 (411食)	5,727	5,544	8,202	19,473
		熊西中学校 (349食)	3,988	4,840	13,946	22,774
	食缶配送	早鞆中学校 (272食)	4,079	5,011	13,812	22,902
親子方式		二島中学校 (478食)	6,701	6,783	11,711	25,195
		鴨生田小学校	7,535	8,295	-	15,830
		計	14,236	15,078	11,711	41,025
合計			28,030	30,473	47,671	106,174

民間調理場方式は、契約期間が1年1学期のため、契約金額を1年間分に換算。